

静岡市道路橋計画・設計要領

配筋要領図 (橋台・橋脚)

令和 3 年 6 月

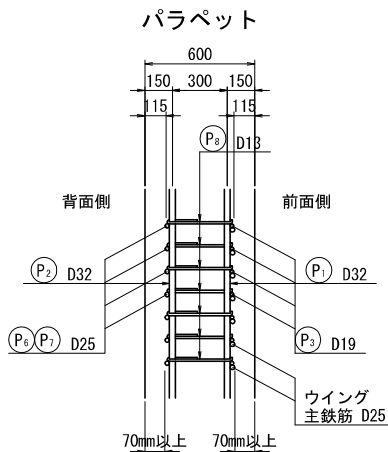
静岡市建設局道路部

図 面 目 録

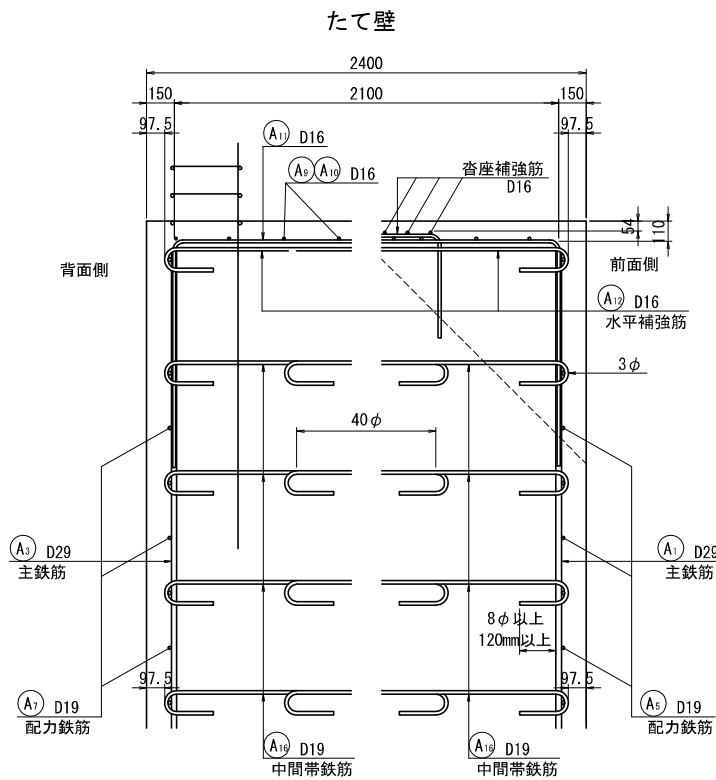
図 面 番 号	図 面 名
1	橋台かぶり
2 ～ 3	橋台構造一般図 (その 1 ～ 2)
4 ～ 6	橋台胸壁工 (その 1 ～ 3)
7 ～ 10	橋台堅壁工 (その 1 ～ 4)
11 ～ 13	橋台底版工 (その 1 ～ 3)
14 ～ 16	橋台翼壁工 (その 1 ～ 3)
17 ～ 18	橋台踏掛版 (その 1 ～ 2)
19	橋台剛性防護柵
20	橋脚かぶり
21	橋脚構造一般図
22 ～ 25	橋脚梁工 (その 1 ～ 3)
26 ～ 27	橋脚柱工 (その 1 ～ 2)
28 ～ 29	橋脚底版工 (その 1 ～ 2)

橋台かぶり

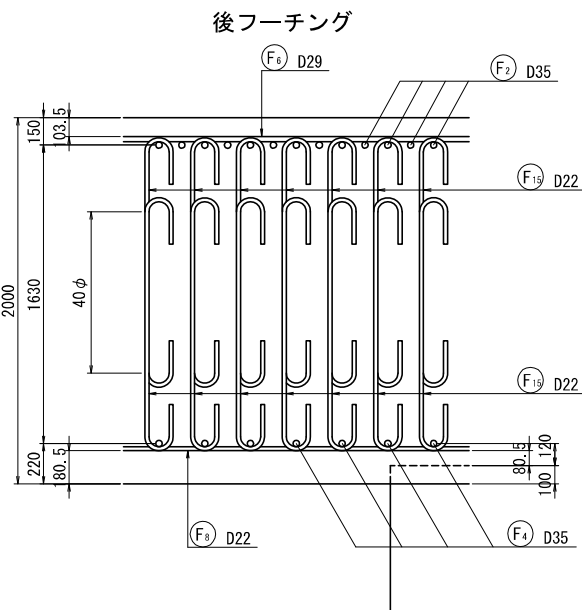
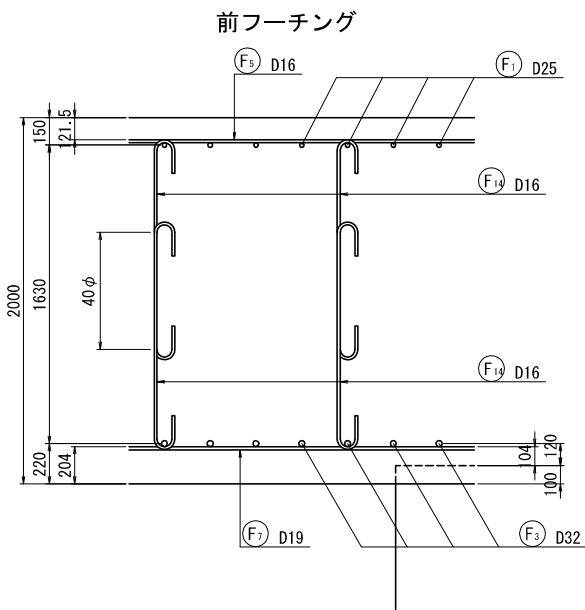
かぶり詳細図 S=1/20



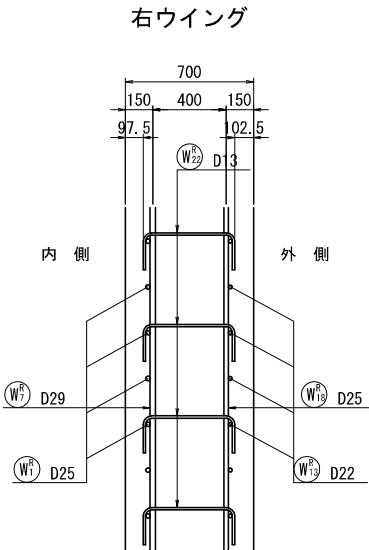
かぶり詳細図 S=1/20



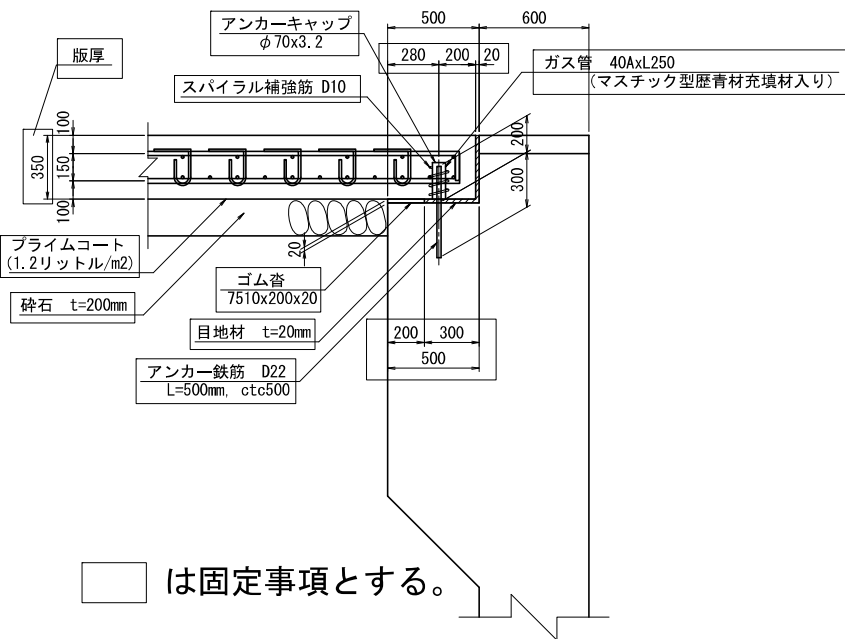
底版かぶり詳細図 S=1/20



ウイングかぶり詳細図 S=1/20



踏掛版 S=1/20

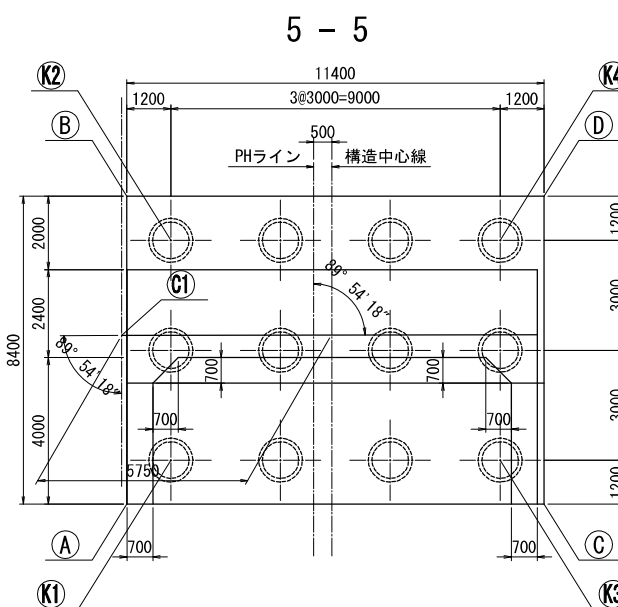
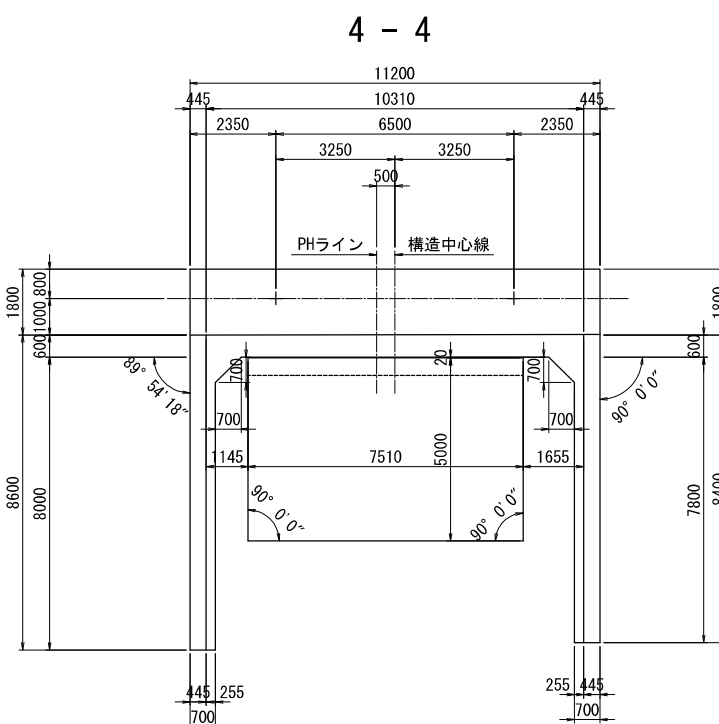
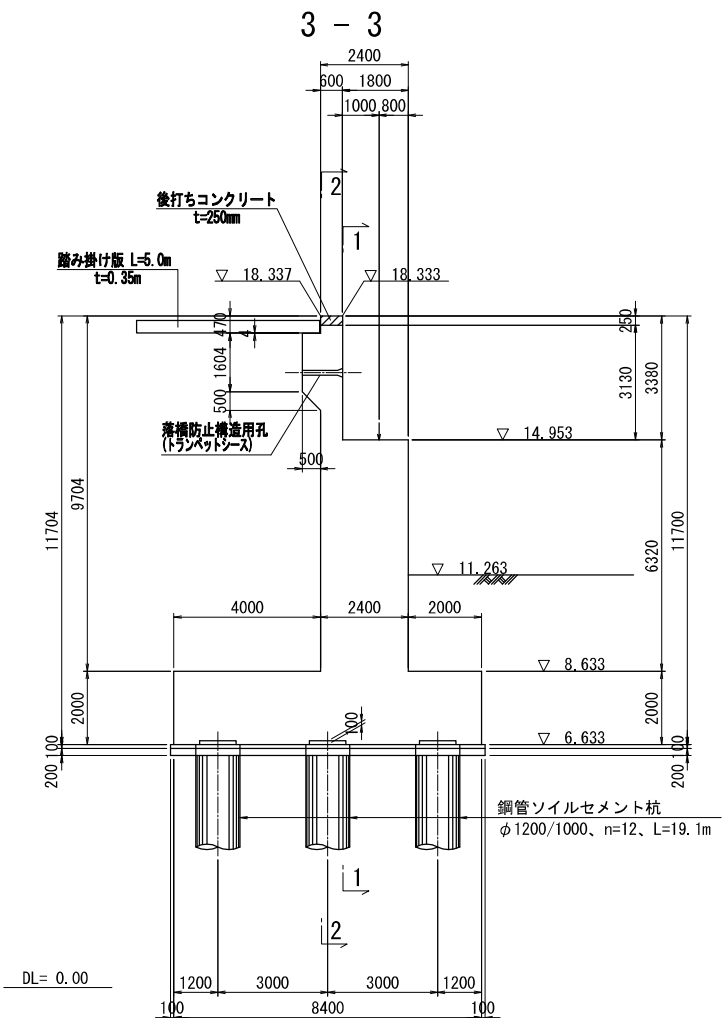
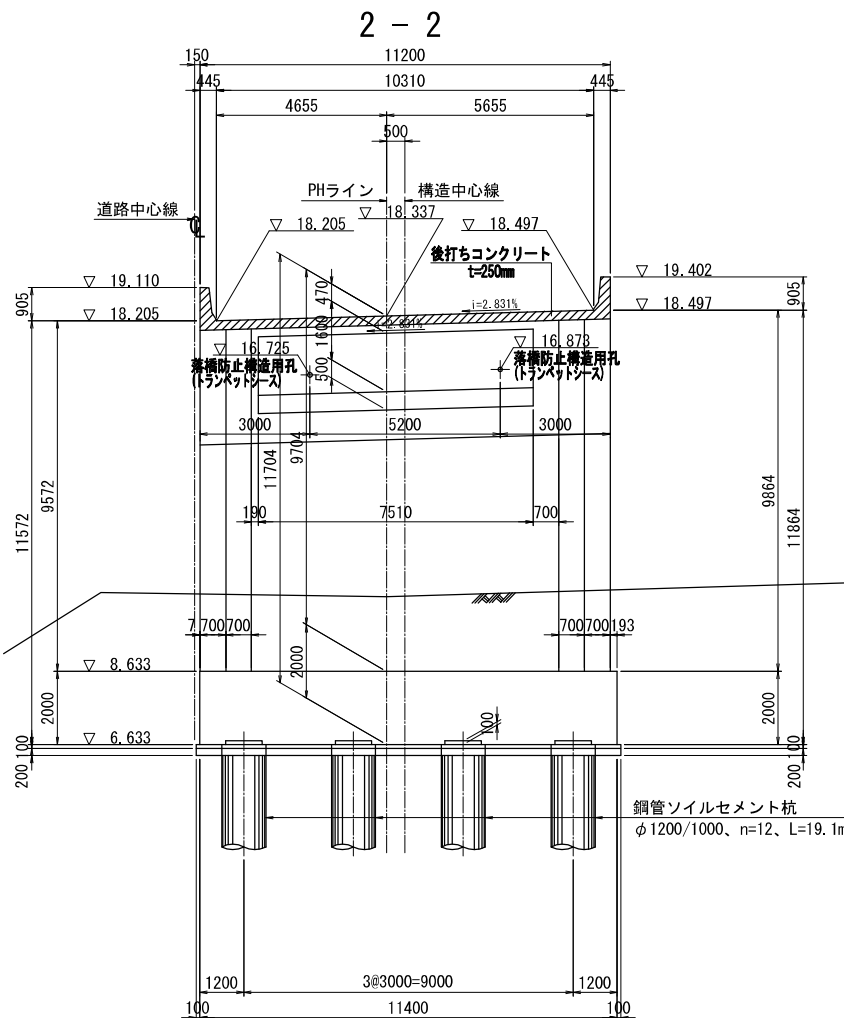
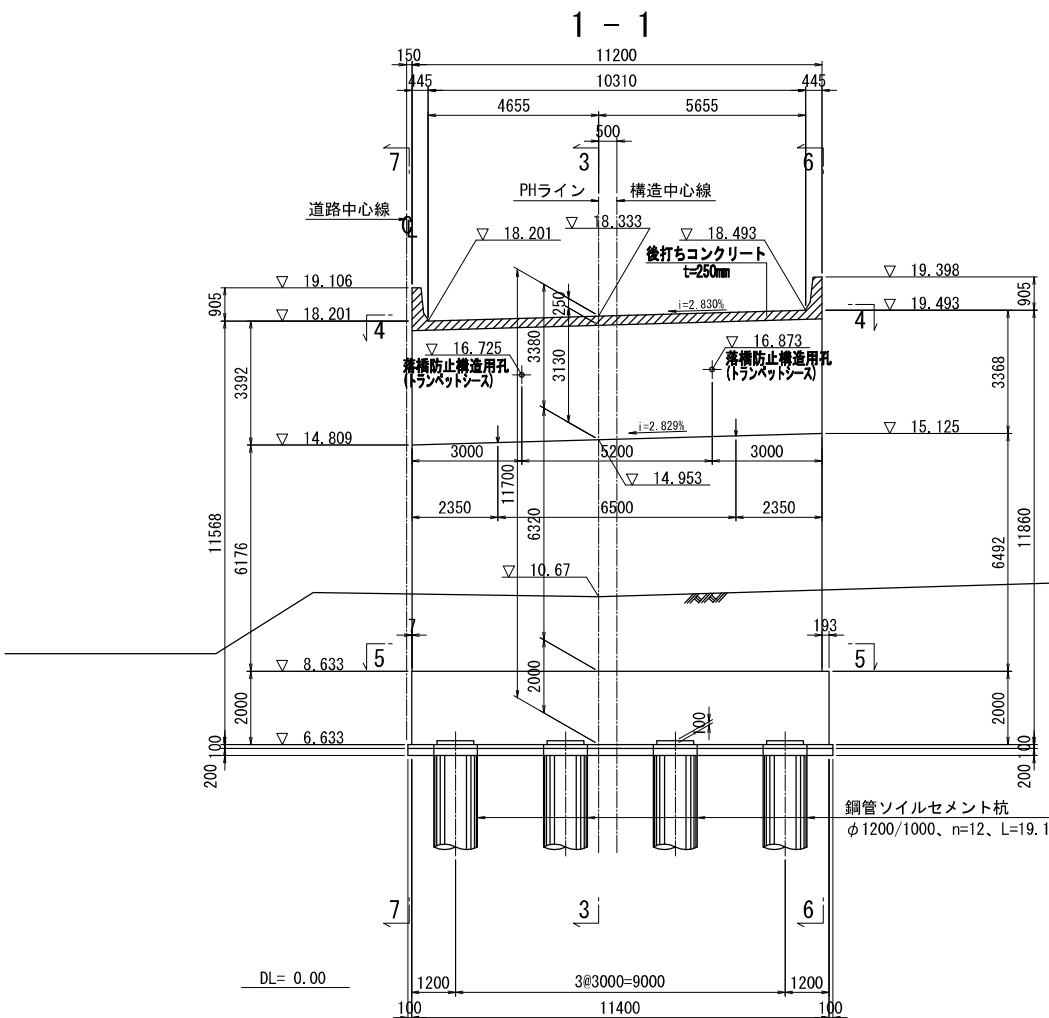


は固定事項とする。

注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	橋台かぶり		
図面名	橋台かぶり		
縮尺	1:20	図面番号	1 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台構造一般図（その１）



構造高表

		AO	
		G1	G2
路面計画高		25.779	25.422
舗装厚		0.080	0.080
床版厚		0.270	0.270
ハンチ高		0.090	0.090
桁高		2.500	2.500
下フランジ厚		0.030	0.030
ソールプレート厚		0.030	0.030
支承高		0.396	0.396
小計		3.396	3.396
脊下面高		22.383	22.026
モルタル厚		0.030	0.030
台座高		0.130	0.130
下部工天端高		22.223	21.866
大座標値	X	0000.0000	0000.0000
	Y	0000.0000	0000.0000

使用材料一覽表

コンクリート	躯体・底版 均し	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ $\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
基礎材		RC-40
鋼管ソイルセメント杭		SKK490
鉄筋		SD345

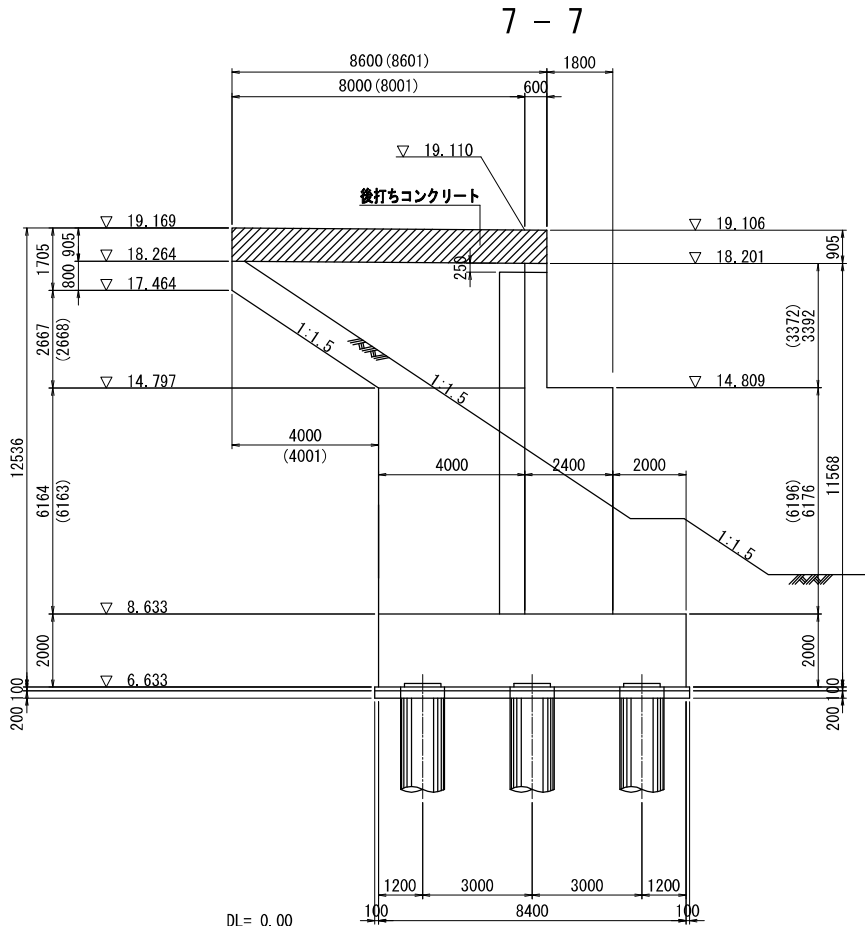
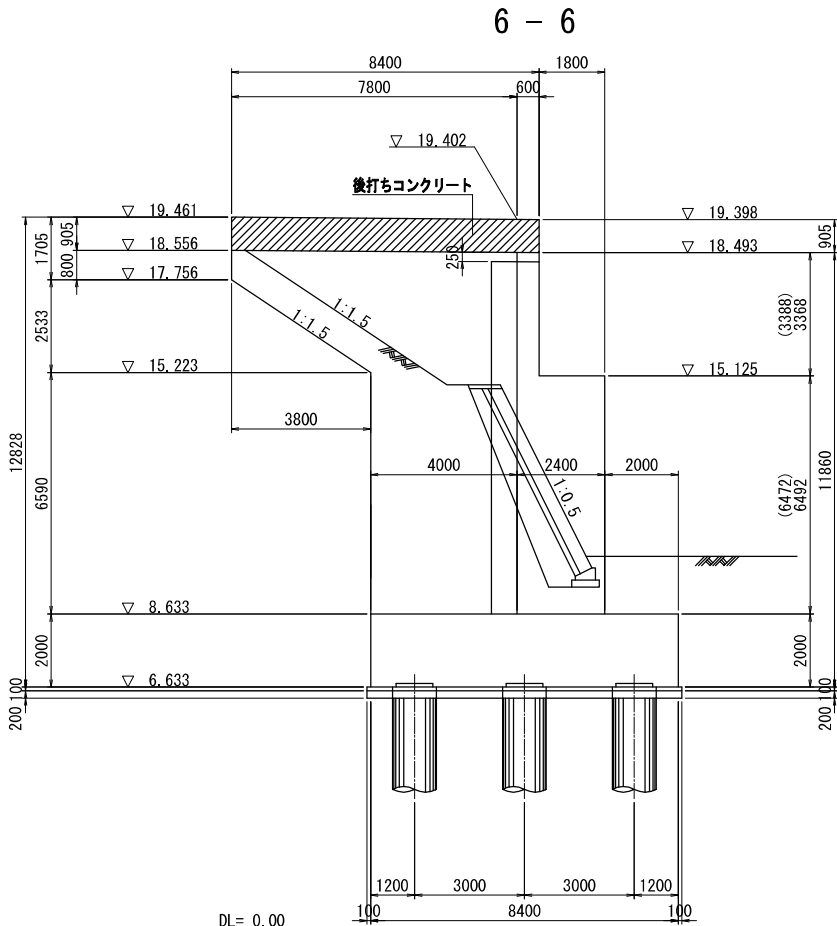
大座標値

		X	Y
道路中心線	①	0000.0000	0000.0000
底 版	①	0000.0000	0000.0000
	②	0000.0000	0000.0000
	F3	0000.0000	0000.0000
	④	0000.0000	0000.0000
杭	①	0000.0000	0000.0000
	②	0000.0000	0000.0000
	③	0000.0000	0000.0000
	④	0000.0000	0000.0000

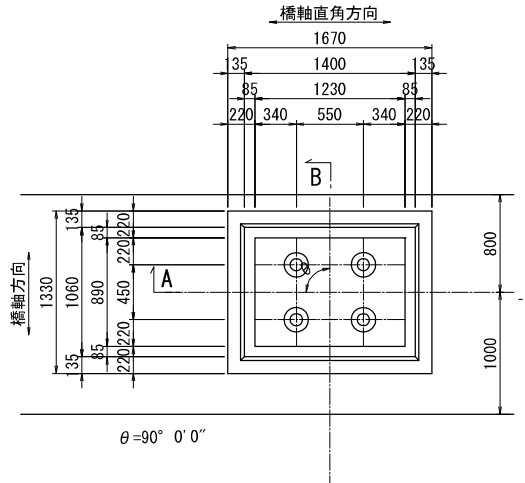
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台構造一般図（その１）		
縮 尺	1:100	図面番号	2 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

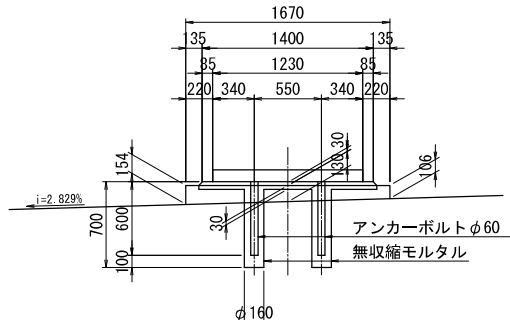
橋台構造一般図（その2）



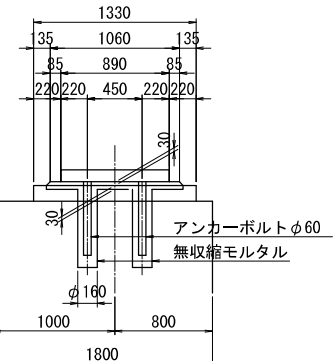
支承部詳細図 縮尺 1 : 30



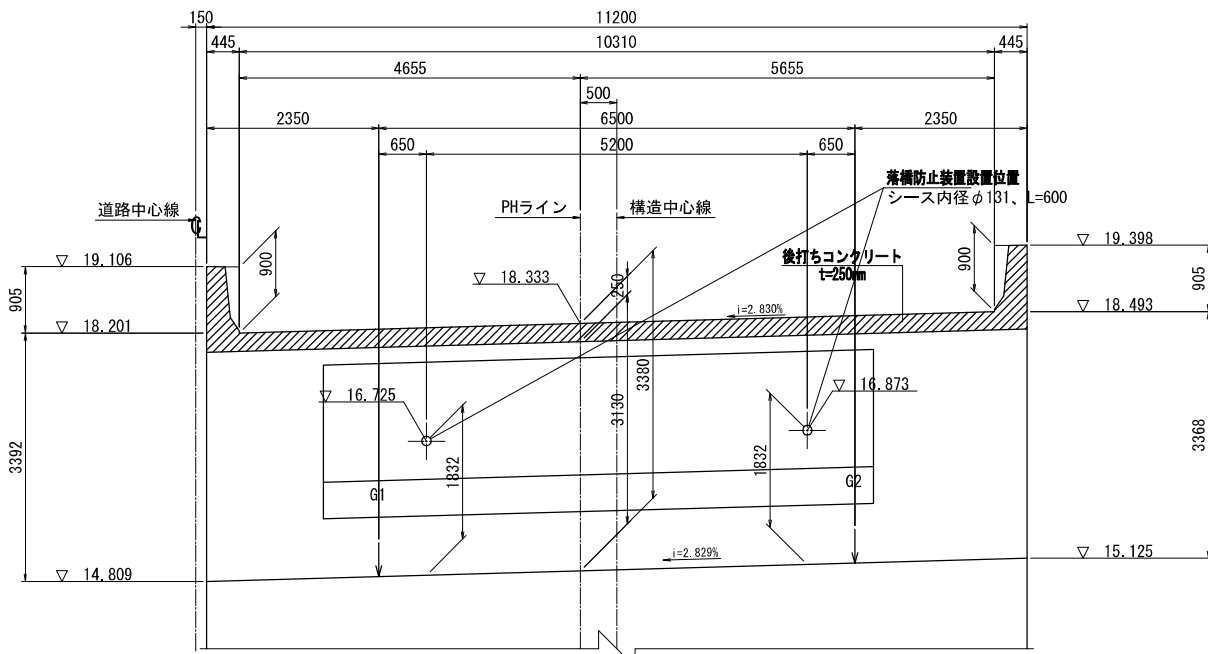
A – A



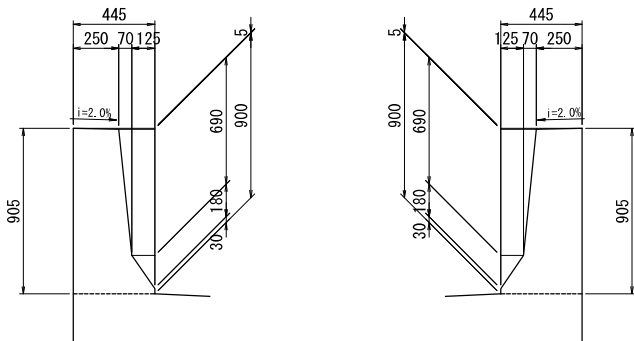
B - B



パラペット詳細図 縮尺 1 : 50



壁高欄詳細図 縮尺 1 : 20



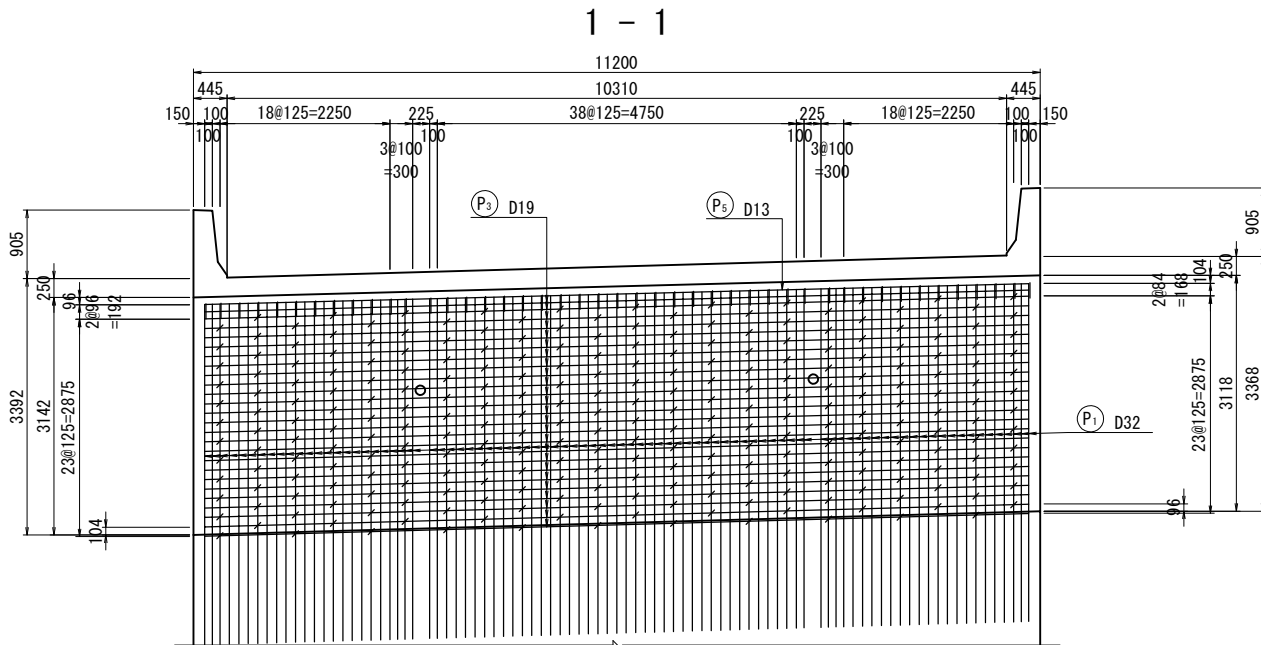
使用材料一覽表

コンクリート	躯体・底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均 し	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
基 礎 材		RC=40
鋼管ソイルセメント杭		SKK490
鉄 筋		SD345

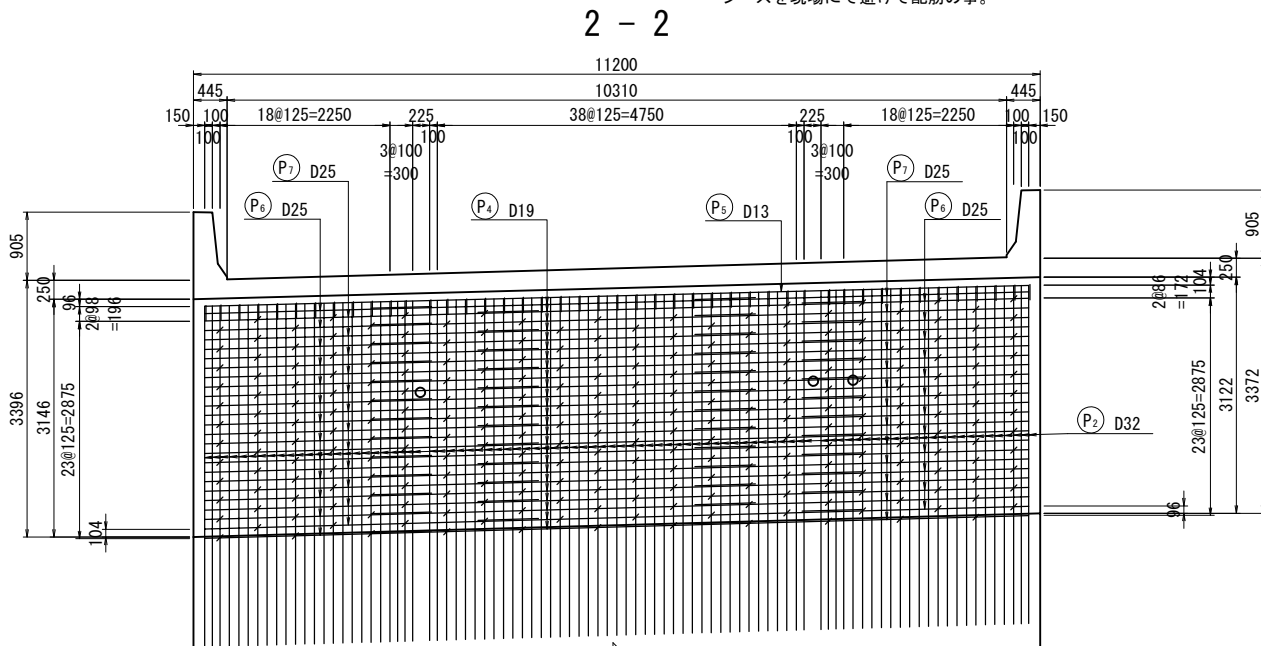
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台構造一般図（その2）		
縮 尺	1:100	図面番号	3 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

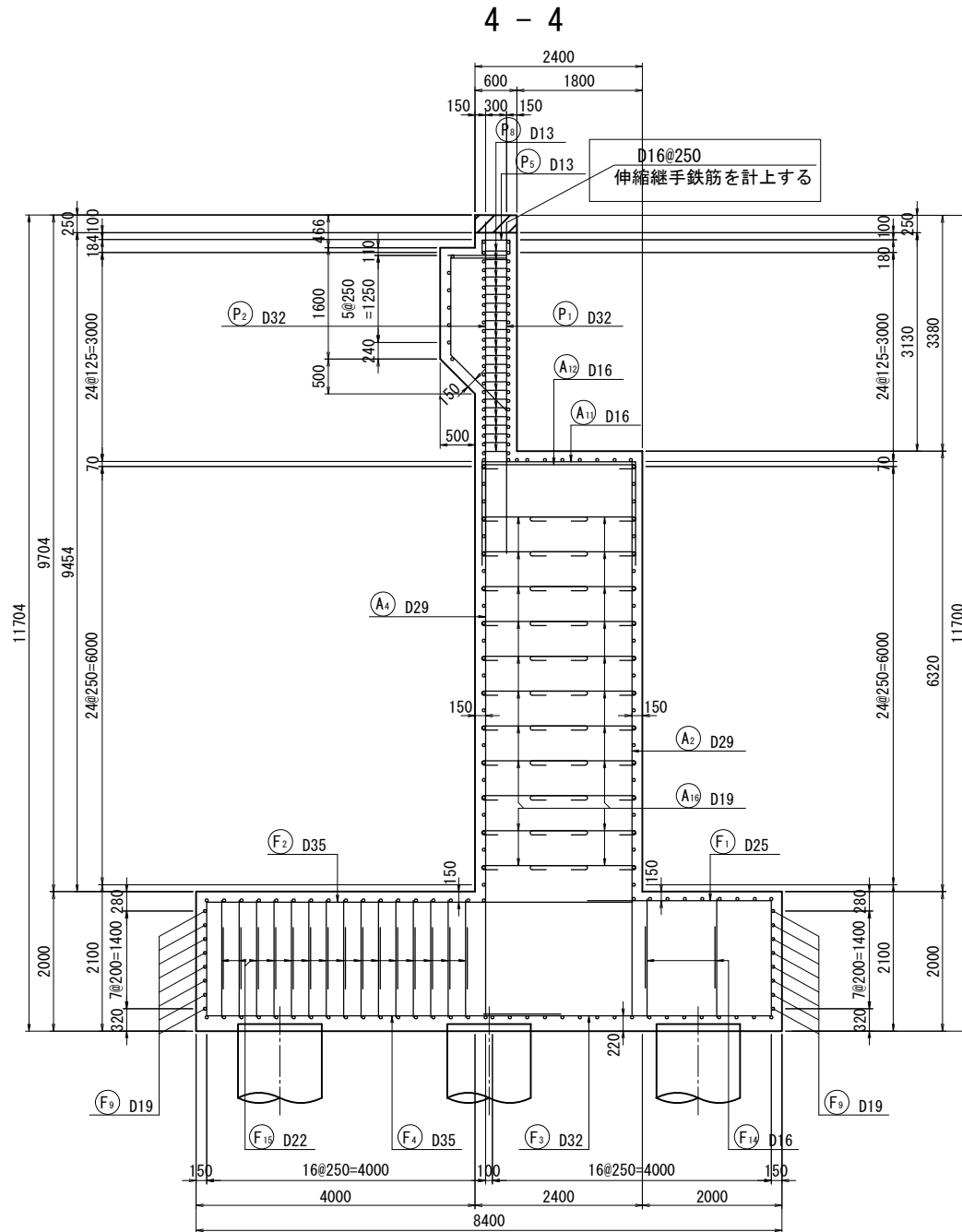
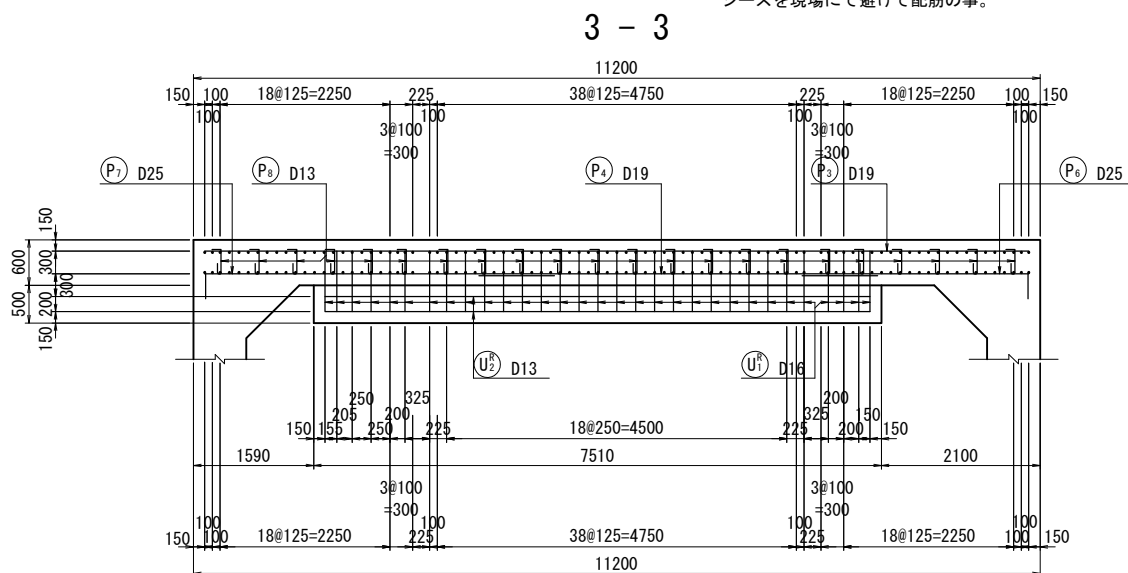
橋台胸壁工（その１）



※パラペットの配力鉄筋は、落橋防止用
シースを現場にて避けて配筋の事。

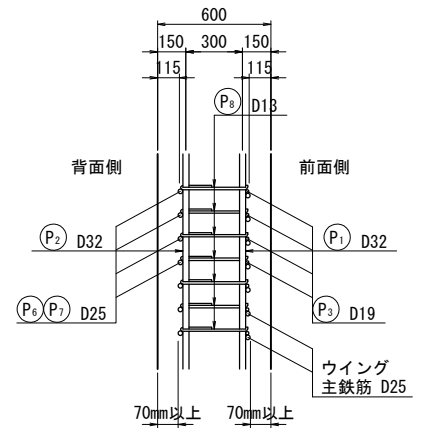


※パラペットの配力鉄筋は、落橋防止用
シースを現場にて避けて配筋の事。

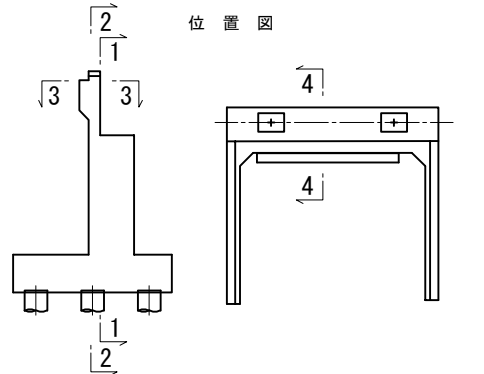


かぶり詳細図 S=1/20

パラペット



位置図



鉄筋配置の考え方

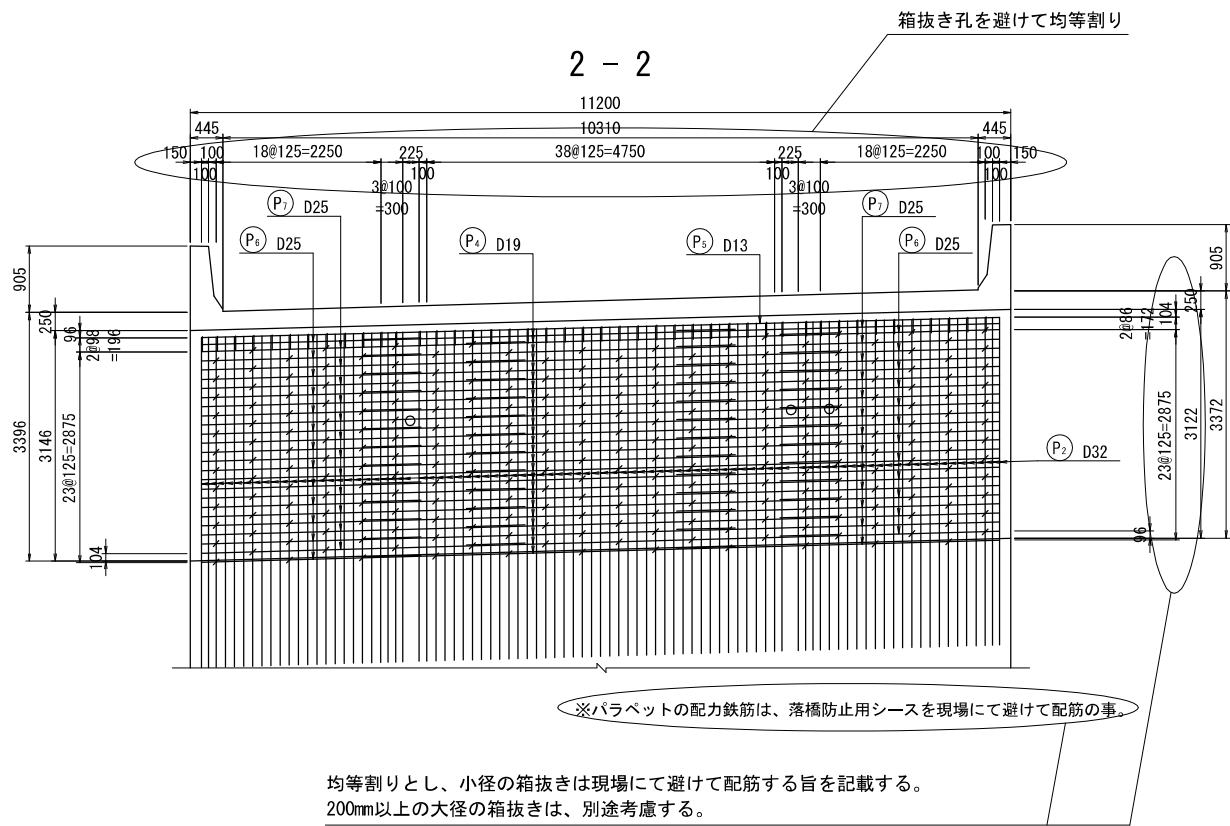
鉄筋番号		留 意 事 項	備 考	
			道示	Q&A 等
P1 P2	主鉄筋 ・圧縮鉄筋 (軸方向鉄筋)	◆背面および前面に必要な鉄筋量のうち、大きい方の鉄筋量を前背面に同一(径、間隔)に配置することを原則とする。 ◆鉄筋のかぶり、最外縁70mm以上とし、主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。	IV-P73 IV-P71	土木設計マニュアル P38
P3 P4	配力鉄筋	◆配力鉄筋は主鉄筋の1/3以上の鉄筋量を主鉄筋の外側に配置する。端部のフックは付けない。		
一	側面鉄筋	◆軸方向鉄筋は、前背面軸方向鉄筋でひび割れ筋の条件を満足しない場合は配置する。鉄筋は前面軸方向鉄筋と同一とする。 ◆かぶせ筋は、翼壁の圧縮鉄筋が配置されない箇所にD13-250c/cを配置する。		
P8	スターラップ	◆スターラップのフックは、軸方向鉄筋に掛ける。フック形状は、背面側が半円形フック、前面側が直角フックとする。 ◆計算上必要ない場合には、組み立て筋としてD13を有効高以下に千鳥配置とする。	IV-P74 IV-P100	土木設計マニュアル P40

注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

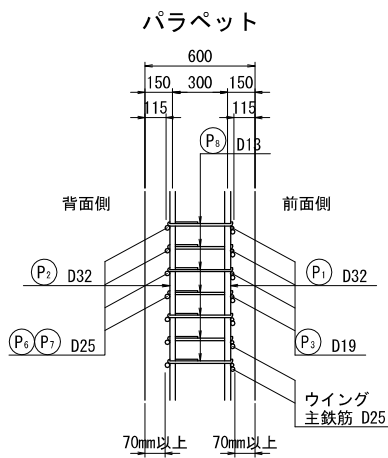
工 事 名	工事		
図 面 名	橋台胸壁工（その１）		
縮 尺	1:50	図面番号	4 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

橋台胸壁工（その2）

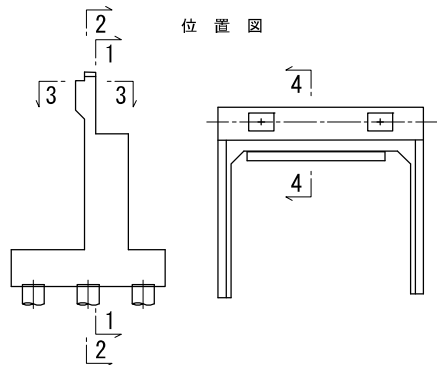
■配筋方法



かぶり詳細図 S=1/20

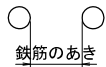


位置図



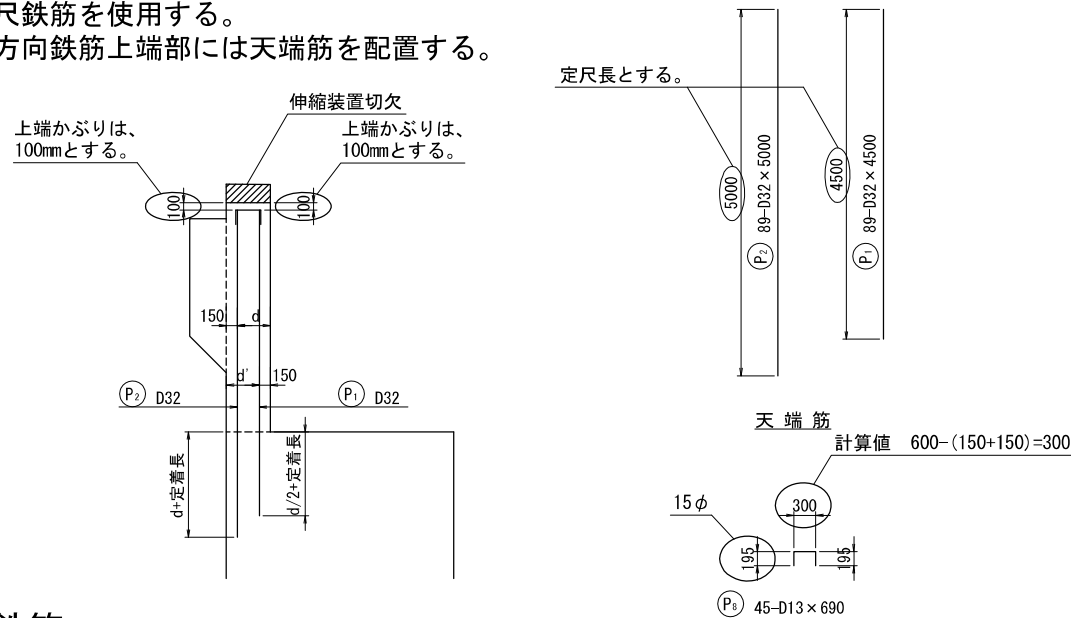
■配筋ルール

- ・直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分(° ')まで示す。
- ・鉄筋の合計長さ(平均長も含む)は10の位で切り上げる。
- ・鉄筋のあき(左図)は、40mm以上かつ鉄筋の直径の1.5倍以上とする。
また、粗骨材の最大寸法の4/3倍以上とする。



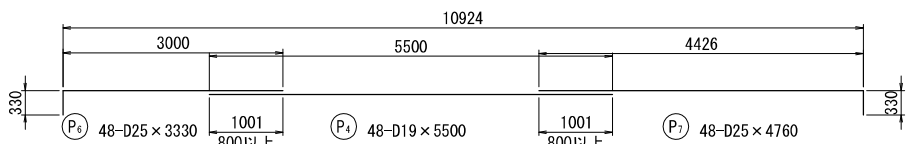
■軸方向鉄筋（主鉄筋、圧縮鉄筋）、天端筋

- ・定尺鉄筋を使用する。
- ・軸方向鉄筋上端部には天端筋を配置する。



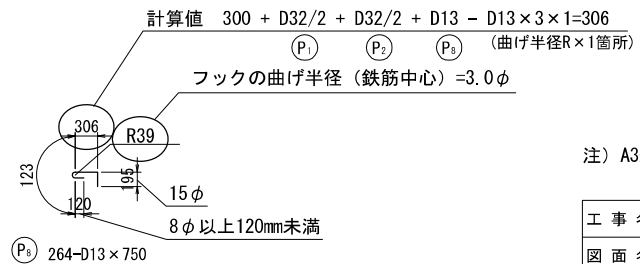
■配筋鉄筋

- ・配筋鉄筋は軸方向鉄筋の外側に配置する。



■スターラップ

- ・端部は半円形フックおよび直角フックとし、フックは軸方向鉄筋にかける。
また、半円形フックは、背面側軸方向鉄筋にかける。



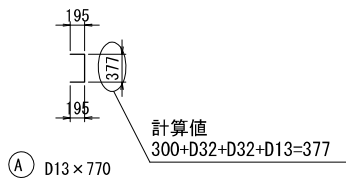
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	橋台胸壁工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	5 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台胸壁工（その3）

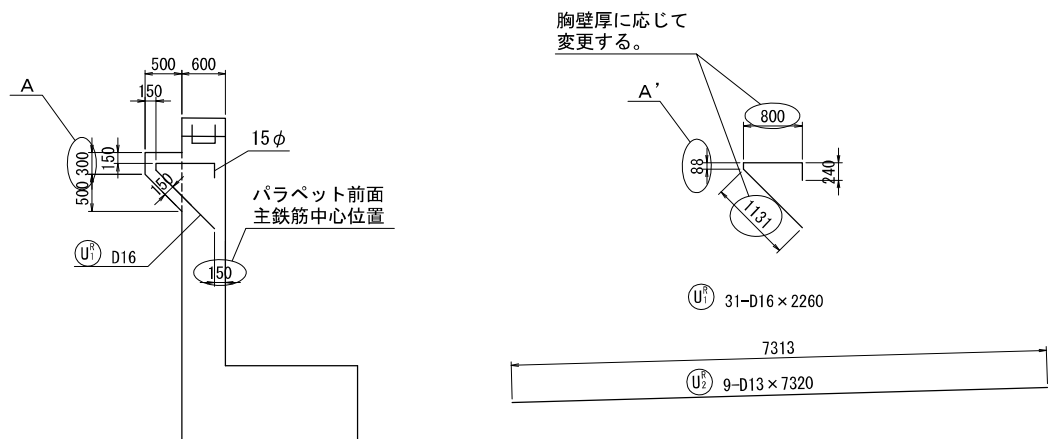
■側面鉄筋（軸方向鉄筋、直角方向鉄筋）

- ・ 胸壁側面に翼壁筋が配置されない区間は、下記 A の鉄筋を配置する。
- ・ ひび割れ鉄筋として軸方向鉄筋が必要な場合はそれを配置する。
配置する際の鉄筋は前面軸方向鉄筋と同一とする。



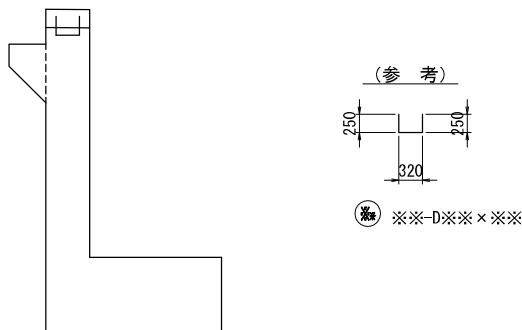
■踏掛版受台

- ・ 受台は下記の形状を標準とするが、落橋防止構造配置などにより高さを変更する必要がある場合は、下記 A および A' を伸縮させる。



■補強筋

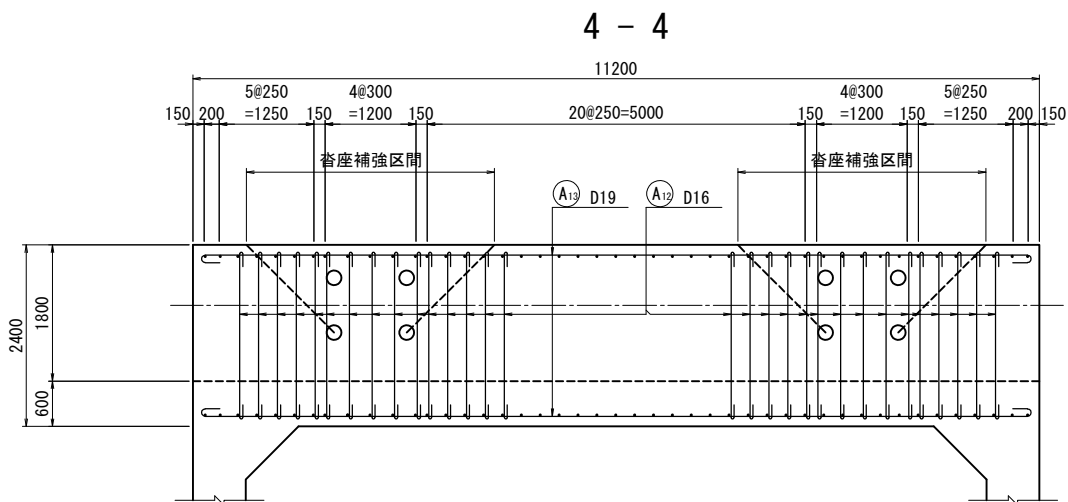
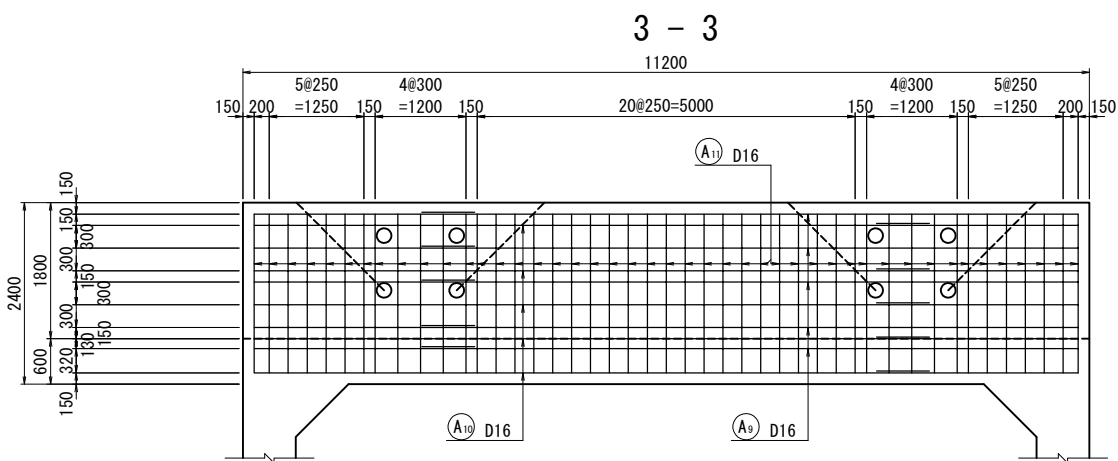
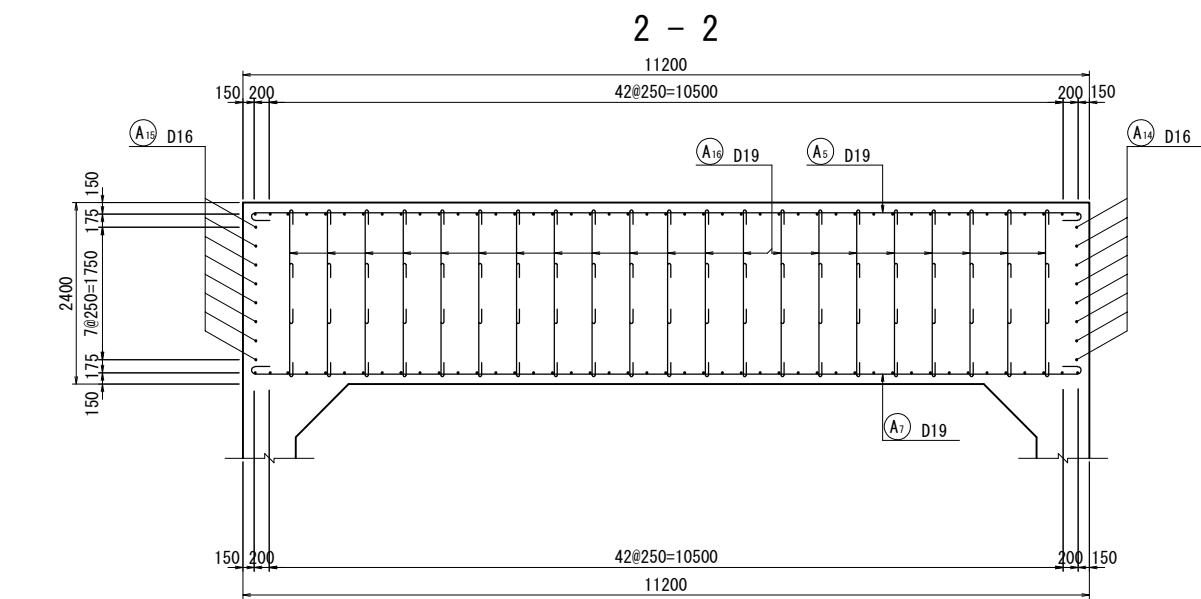
- ・ 伸縮装置を取り付けるための補強筋は、橋台施工時に必要な鉄筋を図化し計上する。
- ・ その他箱抜き等で必要となる補強筋で橋台施工時に必要な鉄筋は図化し計上する。



注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工事		
図 面 名	橋台胸壁工（その3）		
縮 尺	1:50	図面番号	6 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

橋台堅壁工（その1）



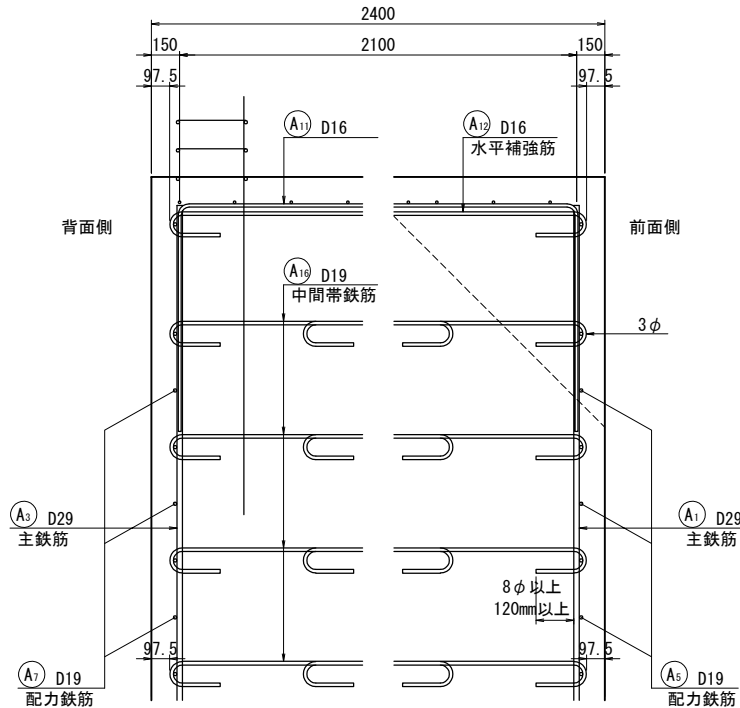
鉄筋配置の考え方

鉄筋番号		留 意 事 項	備 考		
			道 示	Q&A 等	参考資料
A3	堅壁主鉄筋	◆計算鉄筋で、かぶりは最外縁70mm以上とし主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 下端は直角フックとし、フック長L=15φとする。2段目は1段目から10cm内側とする。 ◆1段配筋を基本とする。1段配筋で鉄筋量が不足する場合は、壁厚を背面に増して1段配筋とする検討を行い、杭本数が増す等構造的に望ましくない場合は、2段配筋とする。	IV-P73 IV-P100	土木設計マニュアル P38	
A1	堅壁圧縮鉄筋	◆計算鉄筋で、かぶりは最外縁70mm以上とし主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 下端は直角フックとし、フック長L=15φとする。2段目は1段目から10cm内側とする。 ◆圧縮鉄筋は主鉄筋の1/2以上の鉄筋量とする。ただし、常時に側方移動を起こすおそれのある場合、橋に影響を与える液状化が生じると判定される地盤にある場合は、主鉄筋と同程度を配置する。	IV-P73 IV-P100	土木設計マニュアル P38	
A14	堅壁側面鉄筋	◆軸方向鉄筋は、D16-250ctcとする。配力鉄筋は、D13-250ctcとし、翼壁圧縮鉄筋が配置される区間は、配置しない。			
A5	配力鉄筋	◆主鉄筋および圧縮鉄筋の1/3以上の鉄筋を主鉄筋および圧縮鉄筋の外側に水平方向に250mmで配置し、その端部は半円形フックにより内部コンクリートに定着する。最小鉄筋量はD13-ctc250mmとする。	IV-P100	土木設計マニュアル P38	
A16	中間帯鉄筋	◆中間帯鉄筋は、配力鉄筋と同材質、同径とする。配力鉄筋が前後面で異なる場合は、大きい方の鉄筋径とする。 ◆配置は、鉛直方向600mm、水平方向1000mm以下を基本とし、調整区間は基本値以内とする。また、鉛直方向、水平方向とも千鳥配置とする。 ◆フックは配力鉄筋に掛け、両端とも半円形フックの2本組で千鳥配置とする。 ◆鉄筋径および現場状況に応じて、機械式継手・定着を検討すること。	IV-P100	土木設計マニュアル P38	
A12	水平補強筋	◆計算上必要でもD16を橋軸方向天端鉄筋と同間隔で背面側支承アンカーボルトから45°の範囲に配置する。 両端は半円形フックとし、1本ものの鉄筋とする。	IV-P115		
S1 S2 S3	沓座補強筋 台座補強筋	◆D16-100ctc ◆台座補強筋は支圧補強筋を兼ねるため、D16-100ctcで沓座面より定着長laをとる。	IV-P115		

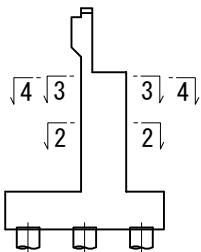
かぶり詳細図

S=1/20

たて壁



位置図

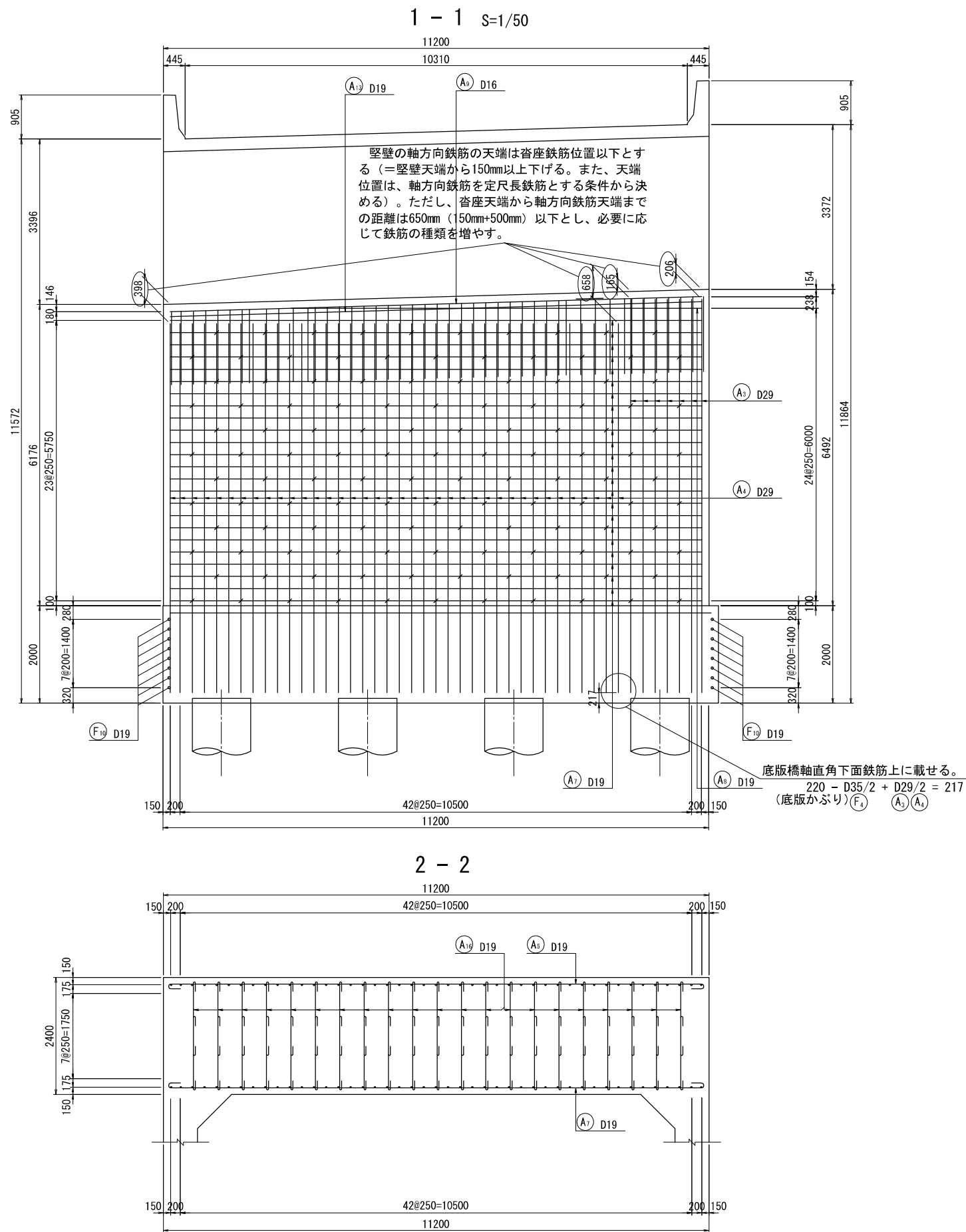


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台堅壁工（その1）		
縮 尺	1:50	図面番号	7 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

橋台堅壁工（その2）

配筋方法



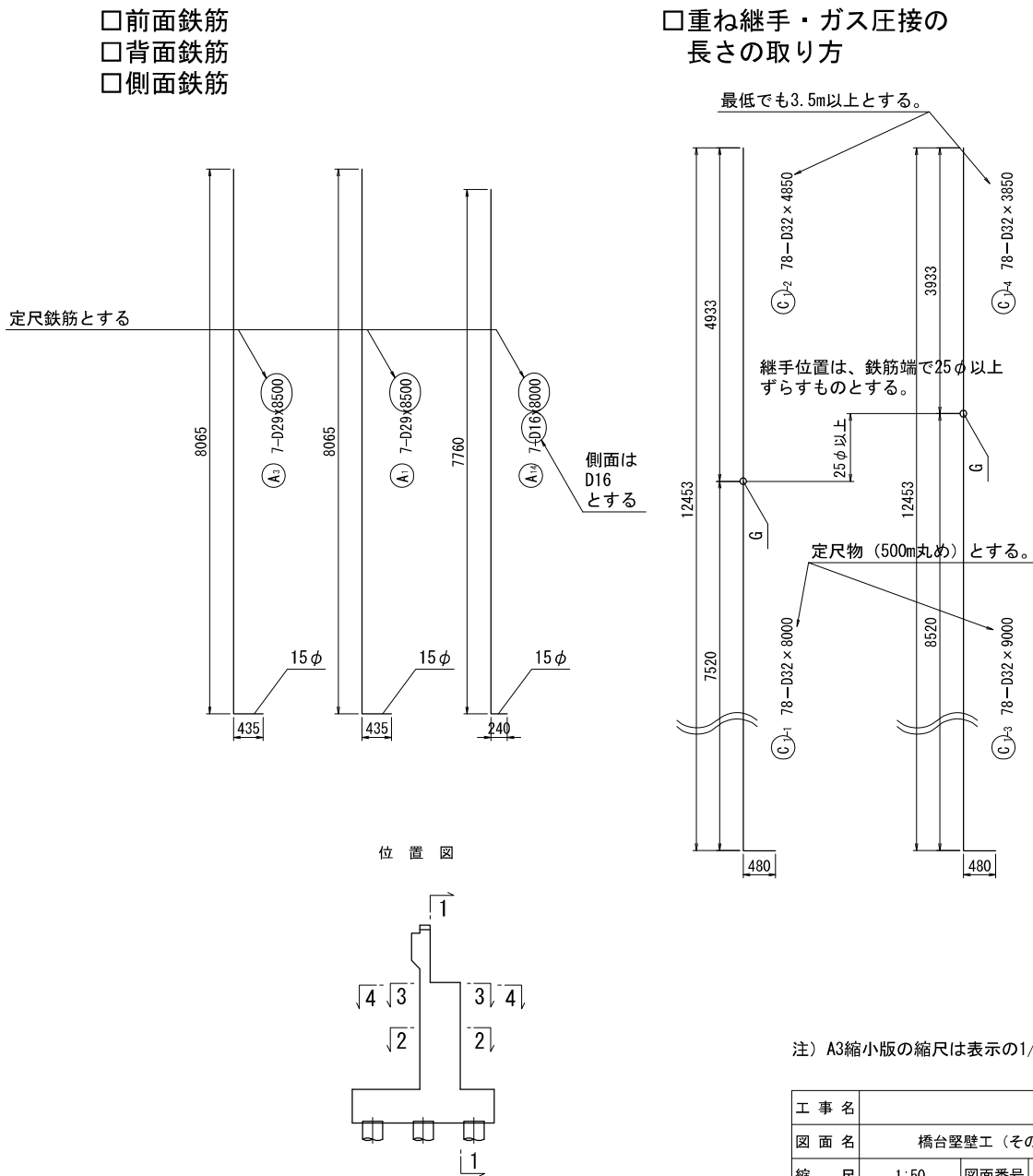
配筋ルール

- ・ 直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分(° ')まで示す。
- ・ 鉄筋の合計長さ(平均長も含む)は10の位で切り上げる。
- ・ 鉄筋定尺長(最大長さ)は、12m。
それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- ・ D25以下は重ね継手(La=31.25φ)、D29以上はガス圧接とする。
- ・ 鉄筋のあき(左図)は、40mm以上かつ鉄筋の直径の1.5倍以上とする。
また、粗骨材の最大寸法の4/3倍以上とする。



軸方向鉄筋

- 前面鉄筋
- 背面鉄筋
- 側面鉄筋



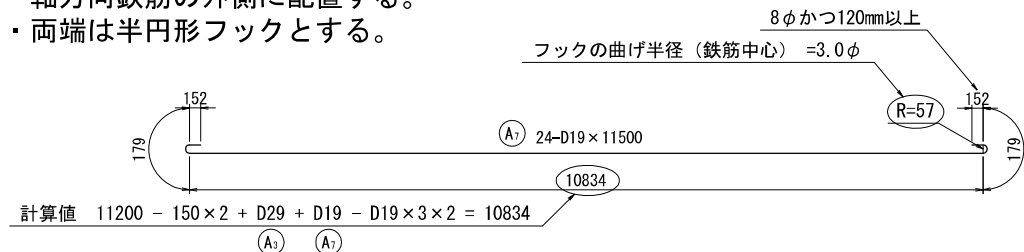
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	橋台堅壁工（その2）		
図面名	橋台堅壁工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	8 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台堅壁工（その3）

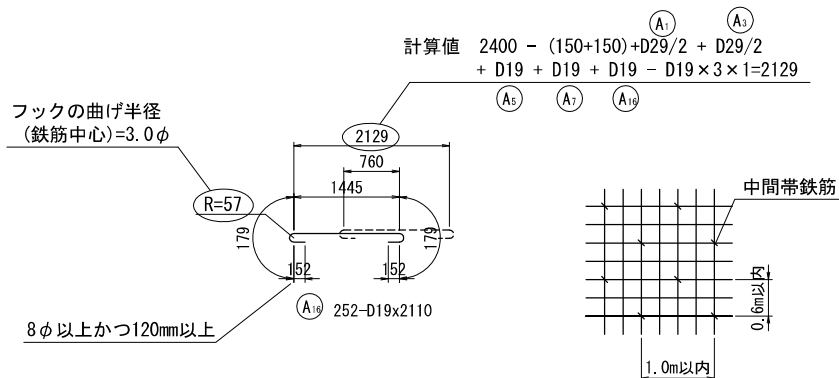
配力筋

- 軸方向鉄筋の外側に配置する。
- 両端は半円形フックとする。

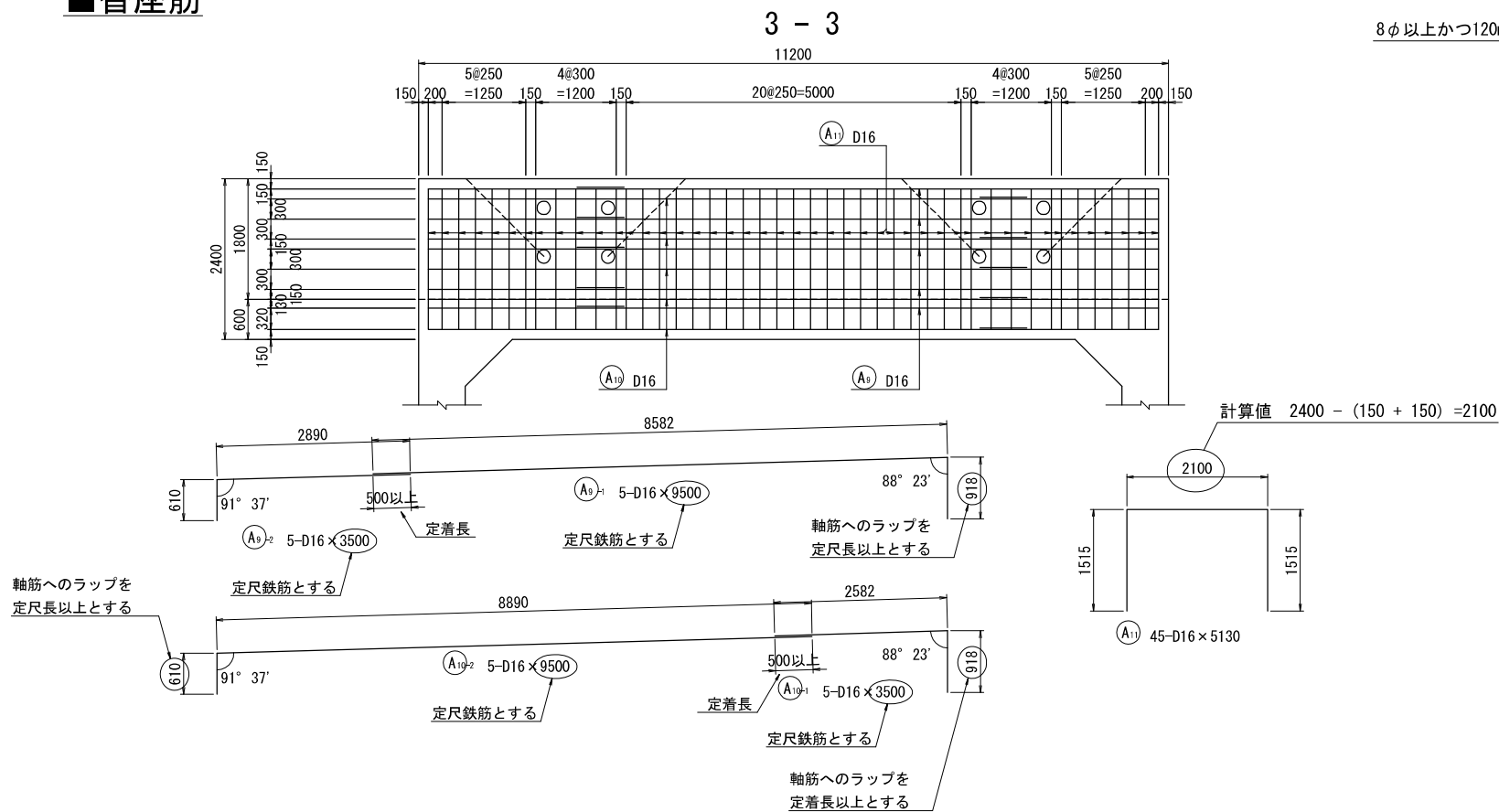


中間帯鉄筋

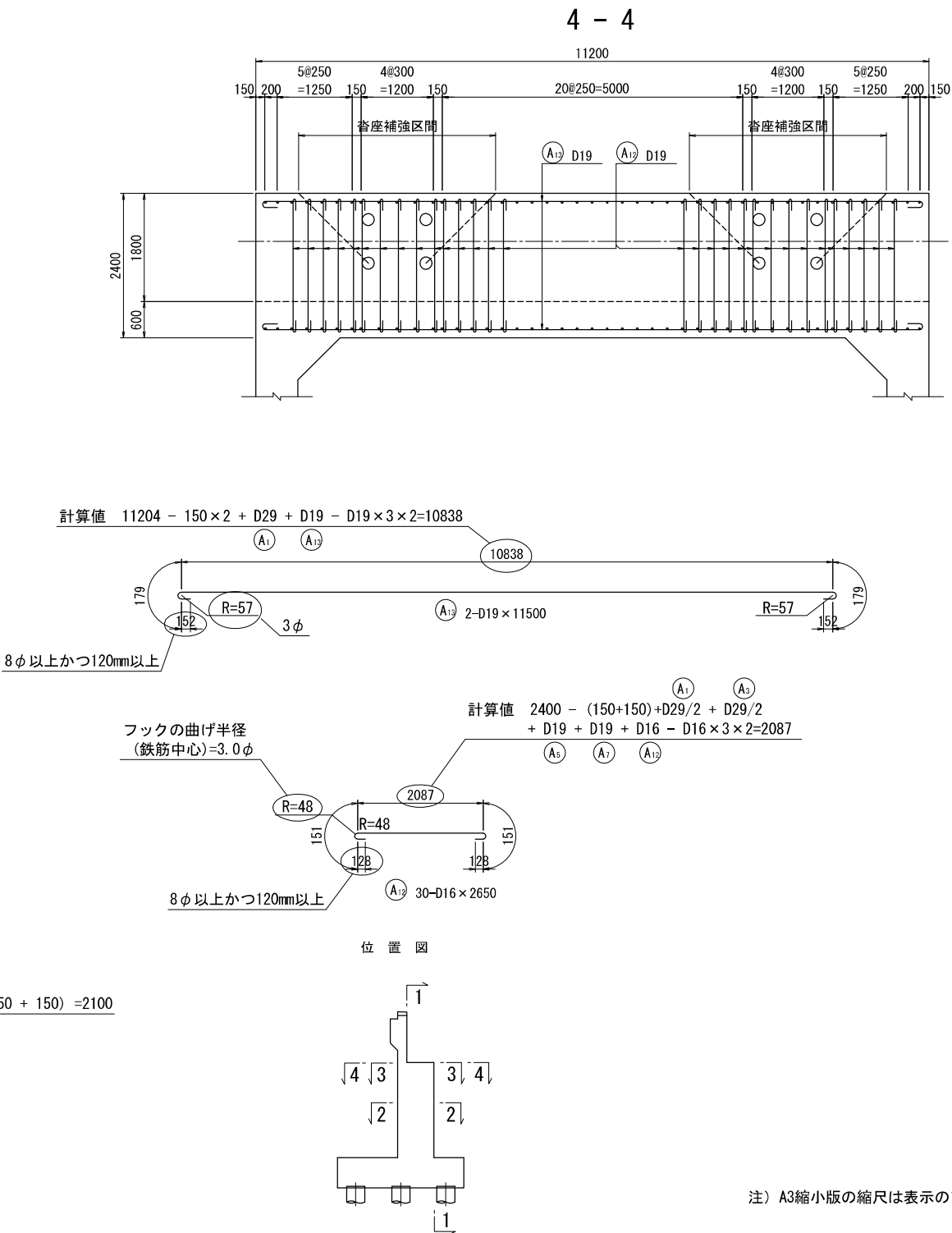
- 配力鉄筋と同径を配置。
- フックは両側半円形フックの2本組とし、配力鉄筋にかける。
- 配置間隔は水平方向1.0m以内、鉛直方向0.6m以内とし、千鳥配置とする。



沓座筋



沓座補強筋



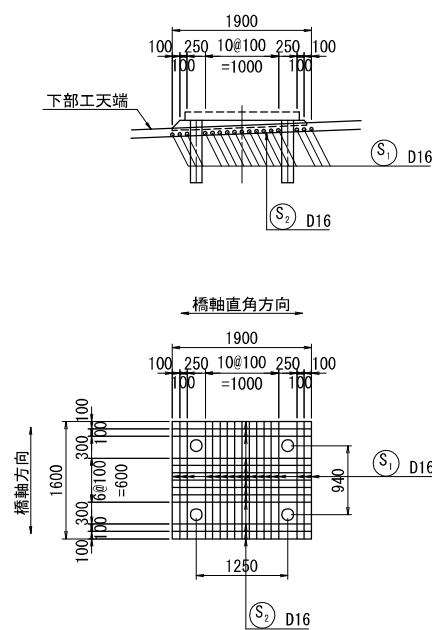
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	橋台堅壁工（その3）		
図面名	橋台堅壁工（その3）		
縮尺	1:50	図面番号	9 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

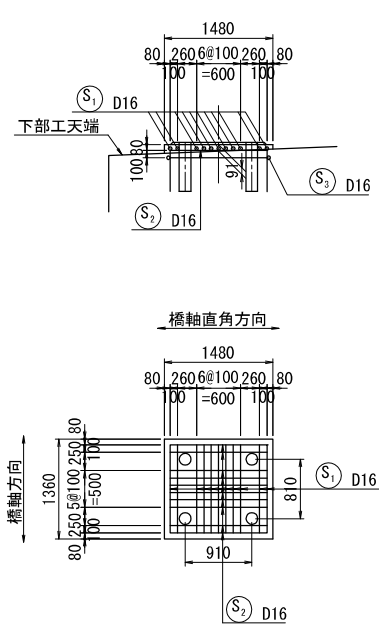
橋台堅壁工（その４）

■支圧補強筋・台座補強筋

沓座補強配筋図



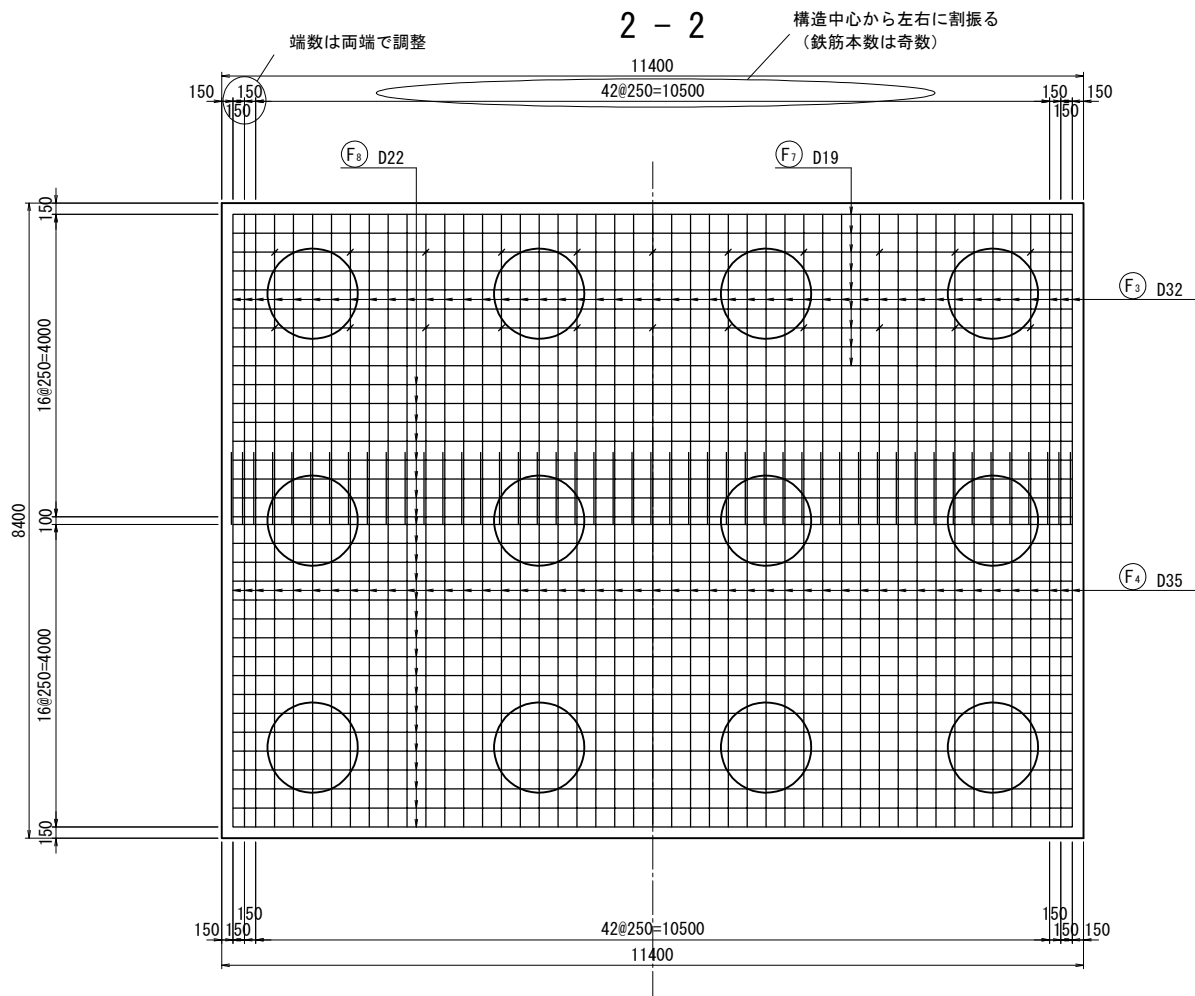
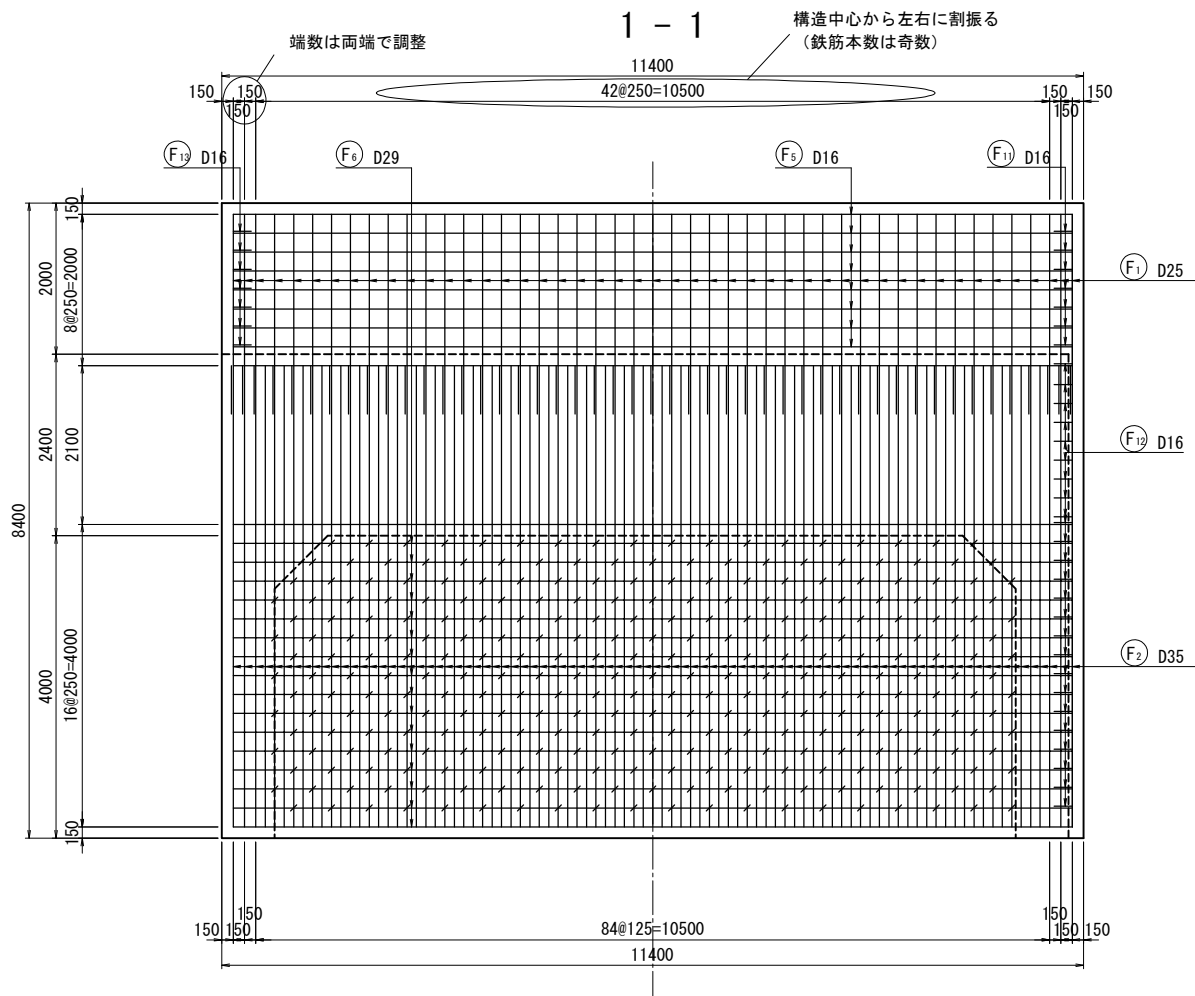
台座補強配筋図



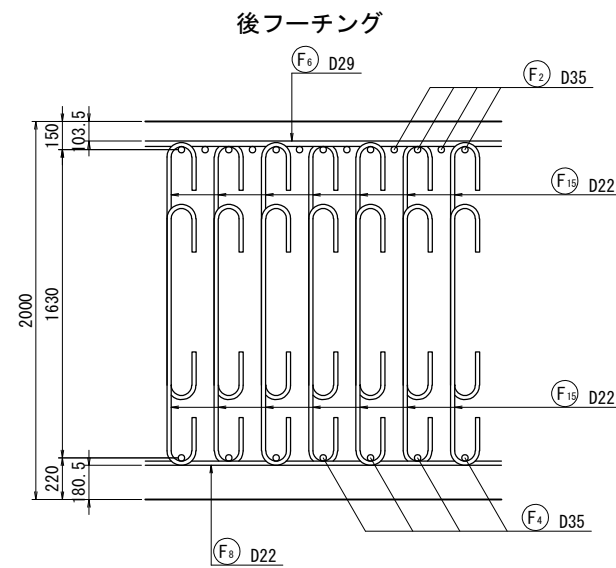
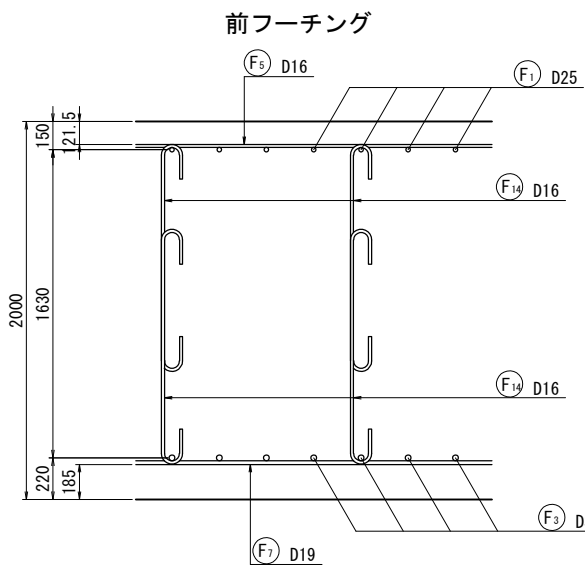
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台堅壁工（その４）		
縮 尺	1:50	図面番号	10 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

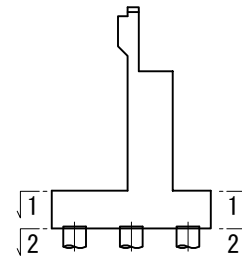
橋台底版工（その１）



かぶり詳細図 S=1/20



位置図



鉄筋配置の考え方

鉄筋番号	留 意 事 項	備 考
F3 前趾主鉄筋 (橋軸方向 下面鉄筋)	◆ 杭基礎の場合、杭頭から橋軸方向主鉄筋までの純かぶり100mm以上確保し、橋軸直角方向主鉄筋中心位置で10mm単位で丸め、底版上面鉄筋までのばす。 ◆ 直接基礎の場合、最外縁かぶりは70mm以上とし、主鉄筋中心位置で150mmを基本とし、底版上面鉄筋までのばす。 ◆ 鉄筋使用順序は下表を基本とする。	道示 IV-P142 IV-P271 Q&A 等 土木設計 マニュアル P38
F1 前趾圧縮鉄筋 (橋軸方向 上面鉄筋)	◆ かぶりは最外縁70mm以上とし、圧縮鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 前趾主鉄筋の1/2以上の鉄筋を配置する。 また、底版前面部は直角フックとし、フック長L=15φとする。	IV-P142 土木設計 マニュアル P38
F2 後趾主鉄筋 (橋軸方向 上面鉄筋)	◆ かぶりは最外縁70mm以上とし、主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 また、底版背面部は直角フックとし、フック長L=15φとする。	IV-P142
F4 後趾圧縮鉄筋 (橋軸方向 下面鉄筋)	◆ 鉄筋の芯かぶりは前趾下面鉄筋と参照とし、後趾主鉄筋の1/2以上の鉄筋量を配置する。 ◆ フーチング長が8m以下の場合は、前趾鉄筋と統一し1本ものとする。経済性や施工性などにより1本が望ましくない場合は別途考慮する。	土木設計 マニュアル P38
F5 配力鉄筋 ～ F9	◆ 配力鉄筋は主鉄筋の外側とする。鉄筋間隔はD22mm以下は25cmとし、D25以上は12.5cm及び25cm間隔を基本とする。鉄筋使用順序は下表を基本とする。	土木設計 マニュアル P38
F11 直角方向 F12 端部補強筋 F13 橋軸方向 端部補強筋	◆ H24道示では記述が無く、H8道示では柱とフーチング縁端部との距離が1m以下の場合D19～200ctcとなっている。端部補強筋は配置するものとしH8道示を参照し底版の張出し長に関わらずD19～200ctcを入れる。 ◆ 但し、F1～F4が全てD16の場合は、D16～200ctcとする。 ◆ 底版側面に縦壁側面鉛直鉄筋および翼壁筋が配置されない場合は、F12鉄筋を配置する。	H8道示 IV-P223
F14 スターラップ F15	◆ 両側半円形フックで2本組を基本とし、継手部鉄筋は、径の40倍以上重ね合わせる。 ◆ D13mm以上で計算上必要な場合、配置間隔は底版の有効高の1/2以下とする。 計算上不要な場合は、配置間隔は有効高以下の間隔とする。	IV-P74

0.5段から考慮（市場性考慮-D41を使用しない）

	1本当り	ピッチ	0.5段	1.0段	1.5段	2.0段
D16	1.986	125	7.94	15.89	22.88	29.87
D19	2.865	125	11.46	22.92	33.00	43.09
D22	3.871	125	15.48	30.97	44.59	58.22
D25	5.067	125	20.27	40.54	58.37	76.21
D29	6.424	125	25.70	51.39	74.00	96.62
D32	7.942	125	31.77	63.54	91.49	119.45

- ※1) の部分は使用しない鉄筋
※2) の数字が使用順序（同一枠内順序は上から下へ）
※3) 単位幅（1m）あたりの鉄筋量
※4) 壁厚2mとして、アームを考慮し、1.5段、2.0段の内側鉄筋量を低減

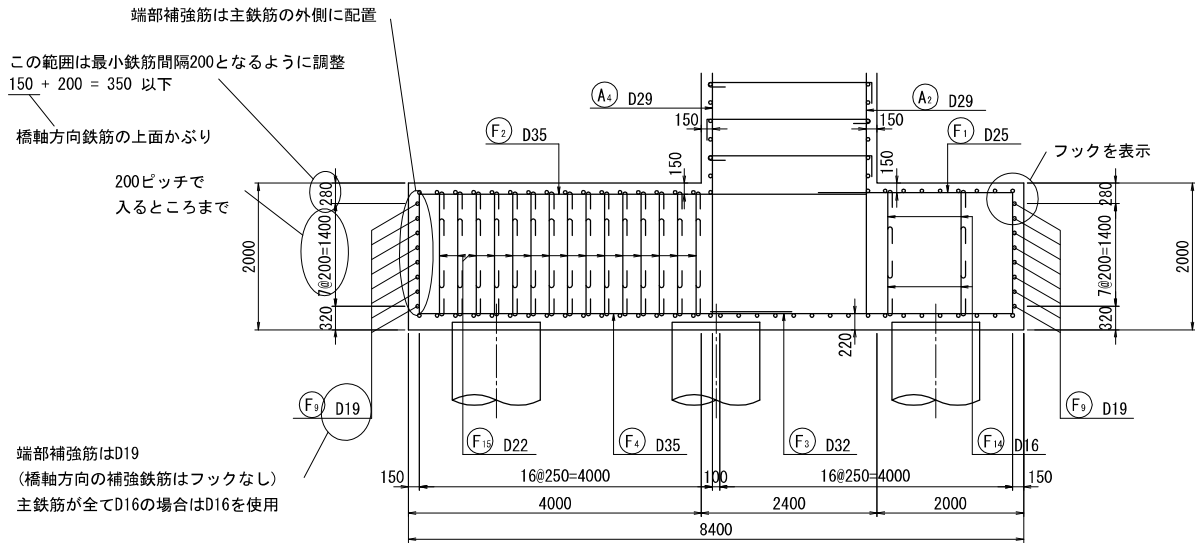
底版側面に翼壁筋が配置されない区間は
F12鉄筋を配置する。

注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台底版工（その１）		
縮 尺	1:50	図面番号	11 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

橋台底版工（その2）

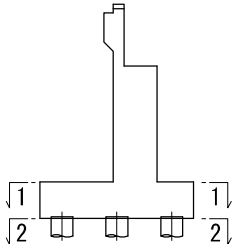
■配筋方法



■配筋ルール

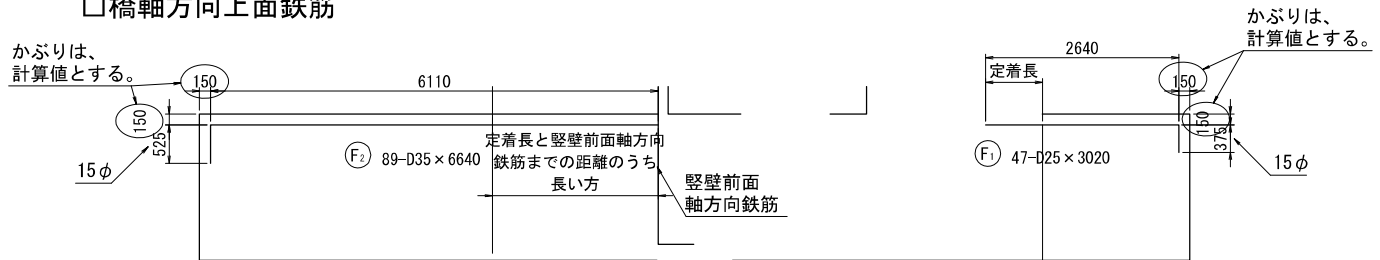
- ・直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分(°′)まで示す。
- ・鉄筋の合計長さ(平均長も含む)は10の位で切り上げる。
- ・鉄筋定尺長(最大長さ)は、12m。
それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- ・D25以下は重ね継手(La=31.25φ)、D29以上はガス圧接とする。
- ・鉄筋のあき(左図)は、40mm以上かつ鉄筋の直径の1.5倍以上とする。
また、粗骨材の最大寸法の4/3倍以上とする。

位置図

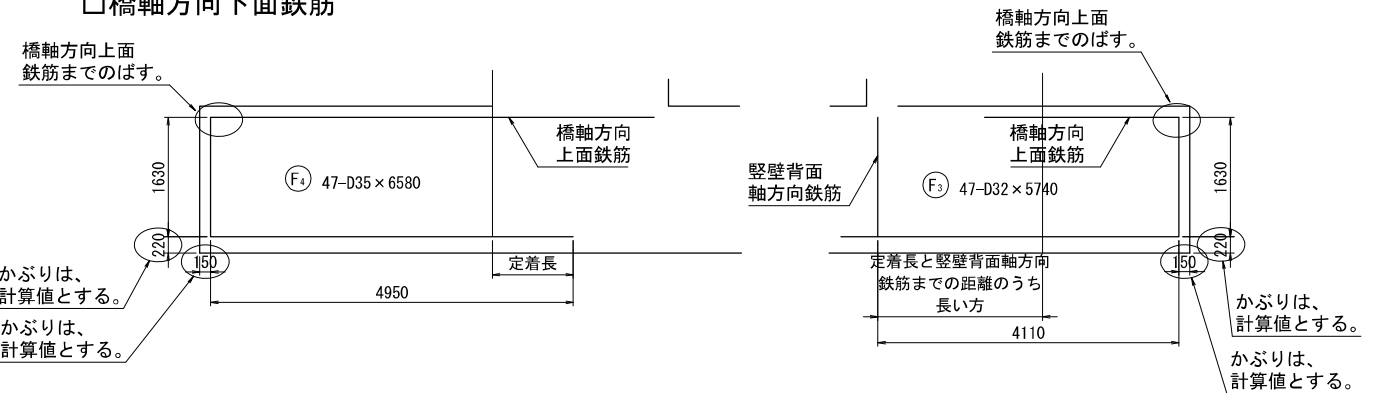


■主鉄筋

□橋軸方向上面鉄筋

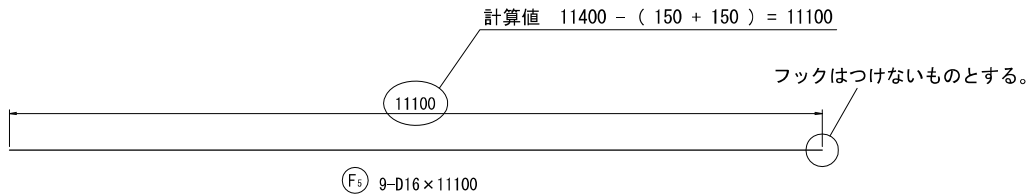


□橋軸方向下面鉄筋



■配力鉄筋

- ・上下面とも橋軸方向鉄筋の外側に配置する。



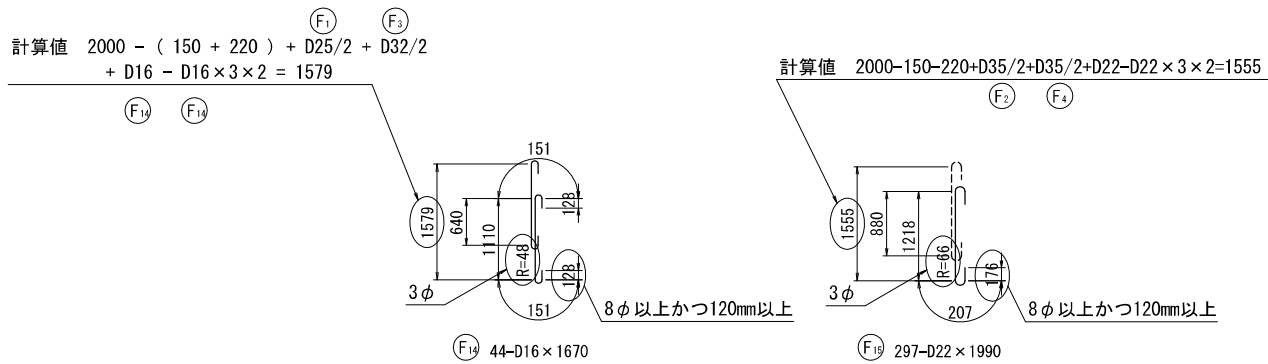
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	橋台底版工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	12 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台底版工（その3）

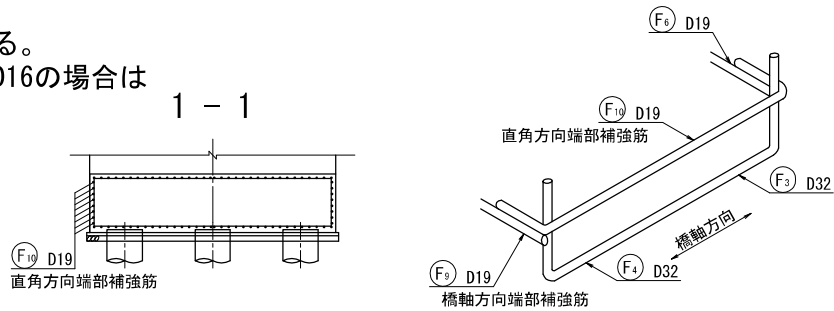
■スターラップ

- ・ もっとも外側の橋軸方向の主鉄筋を取り囲む。
- ・ フック形状は両側半円形フックとし、2本組を標準とする。
- ・ 重ね継手長を直線部分で40φ以上とする。

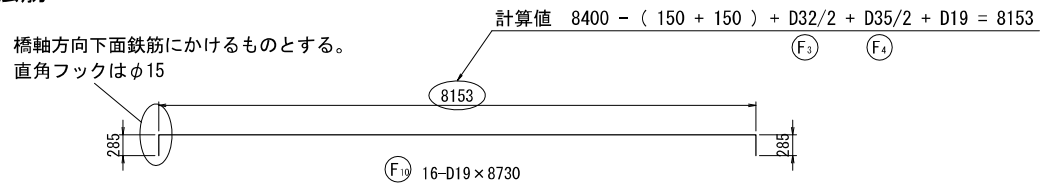


■端部補強筋

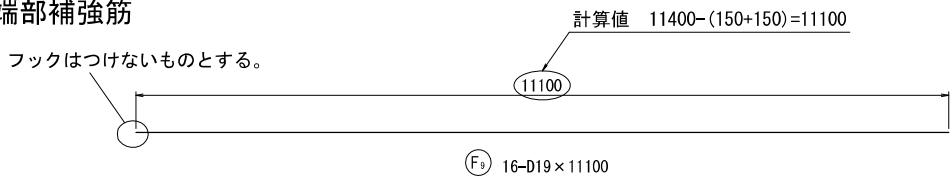
- ・ 配筋はD19-200ctcとする。
- ・ ただし、主鉄筋が全てD16の場合はD16-200ctcとする。



□直角方向端部補強筋



□橋軸方向端部補強筋

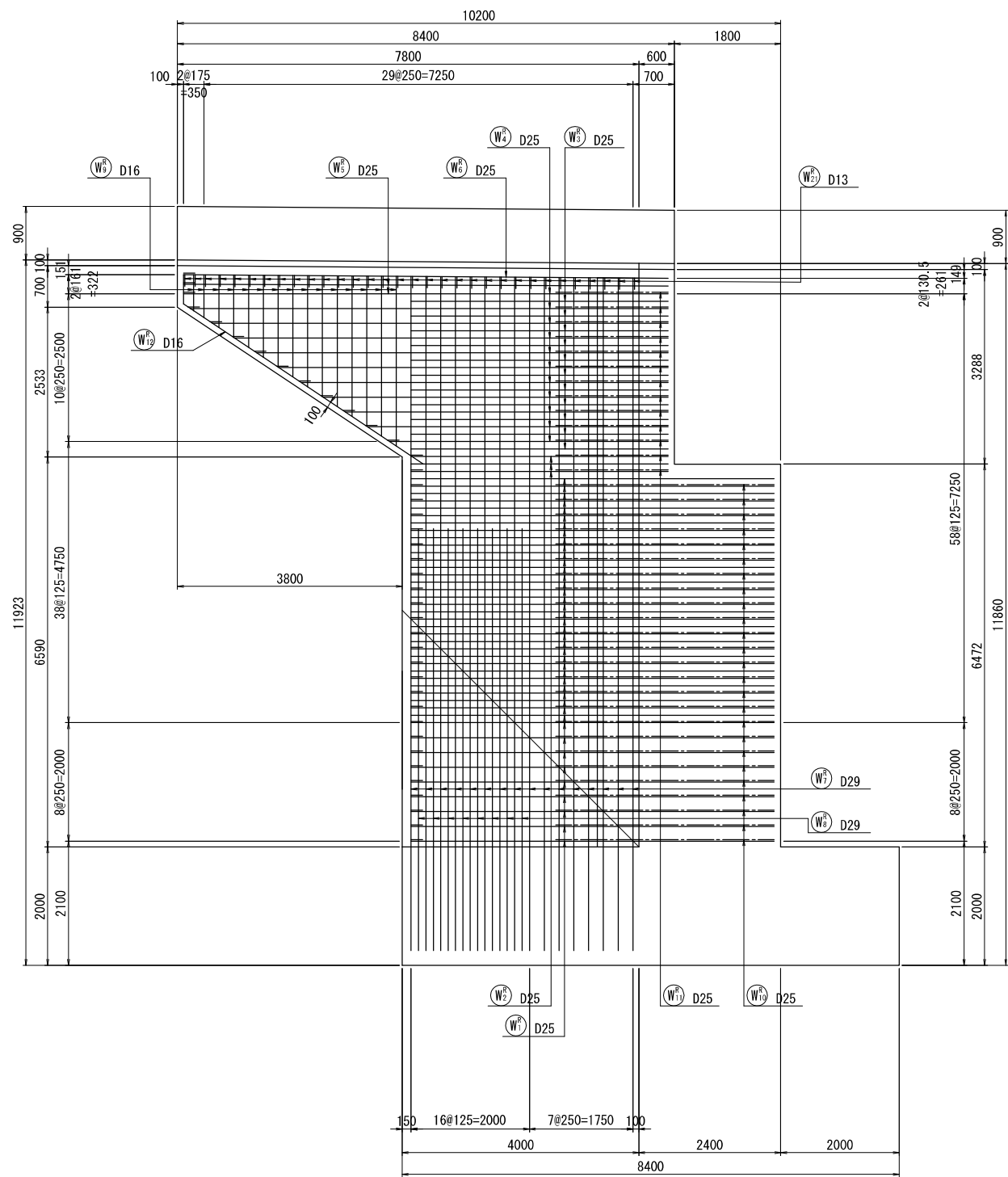


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

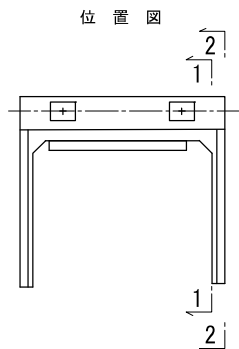
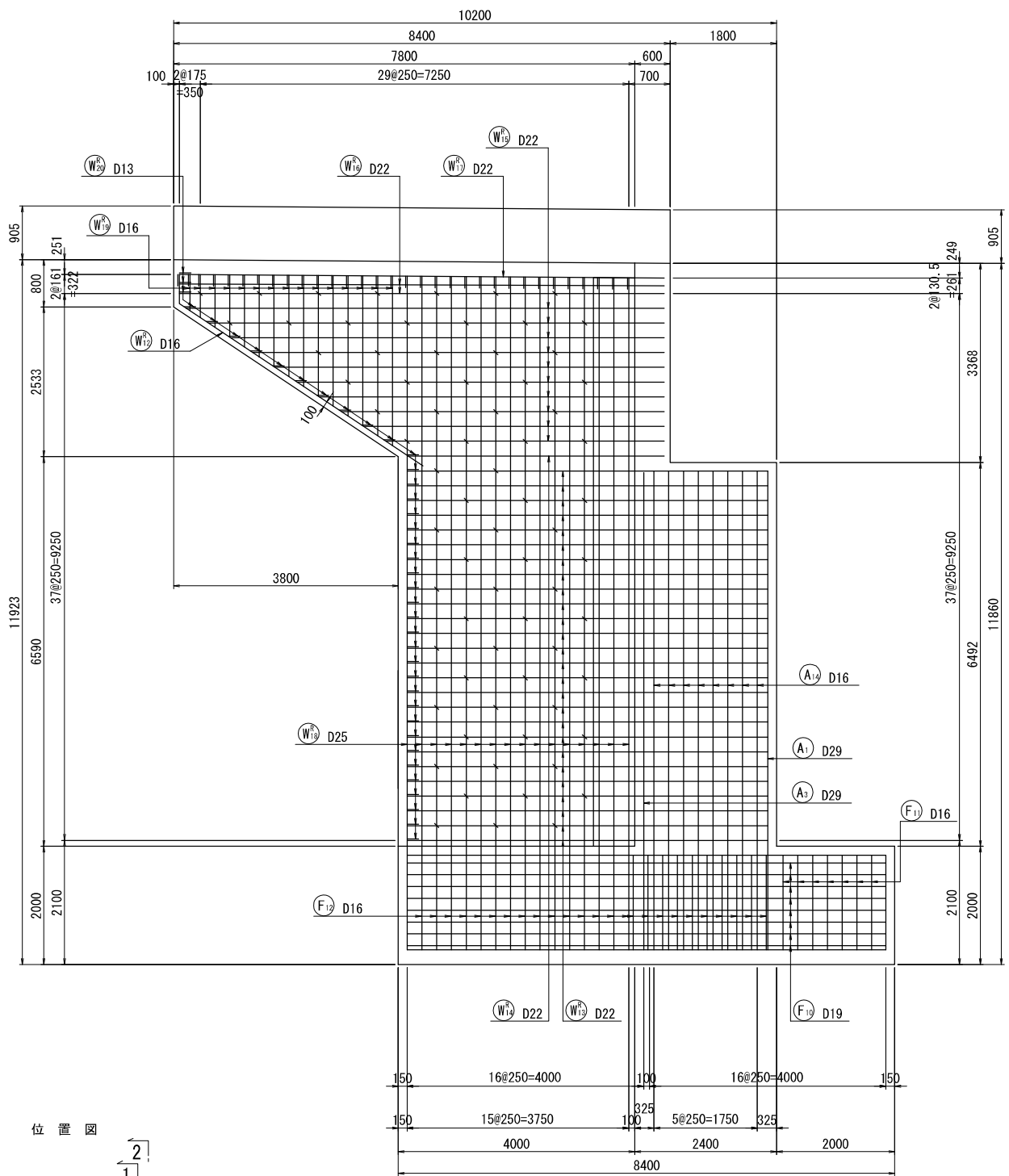
工事名	工事		
図面名	橋台底版工（その3）		
縮尺	1:50	図面番号	13 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台翼壁工（その１）

1 - 1



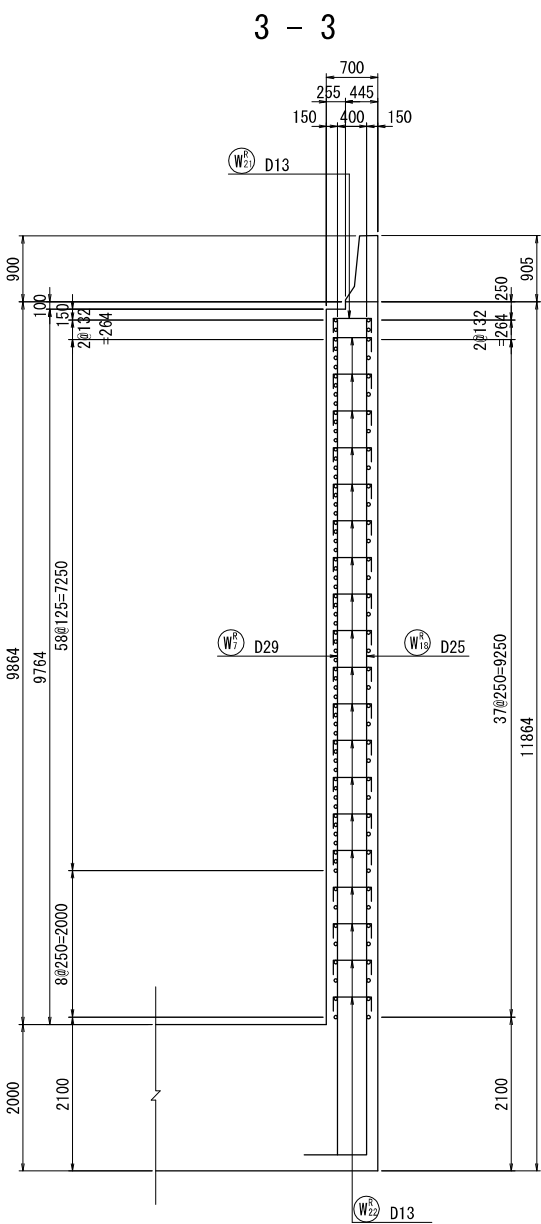
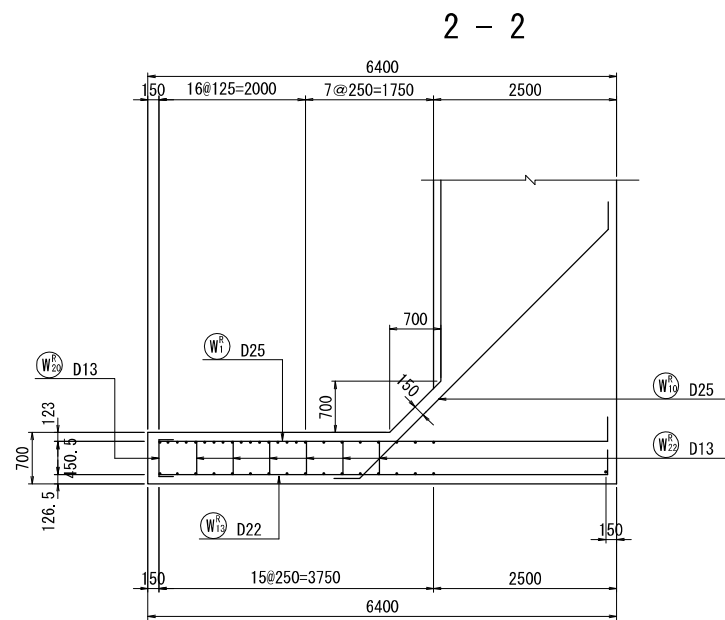
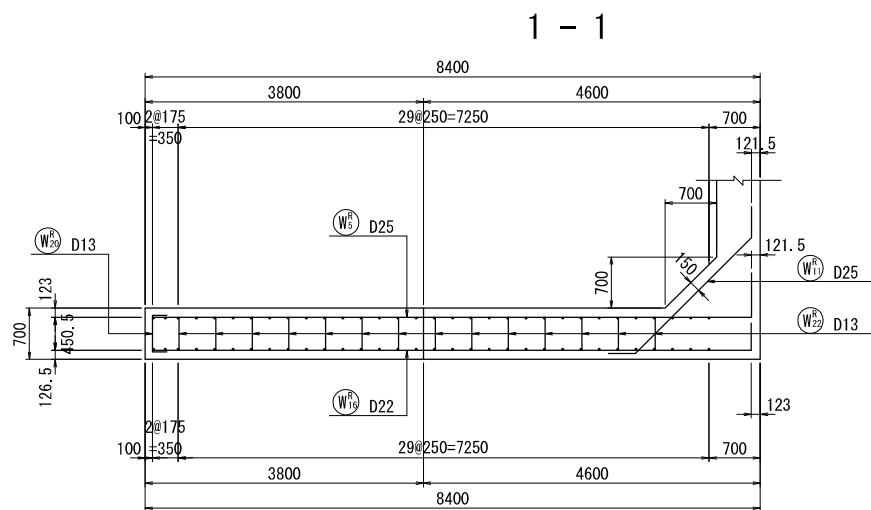
2 - 2



注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

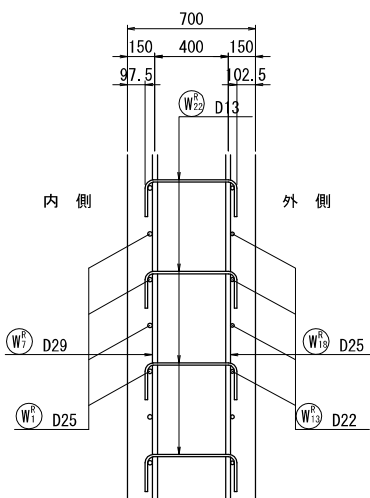
工事名	橋台翼壁工（その１）		
図面名	橋台翼壁工（その１）		
縮尺	1:50	図面番号	14 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台翼壁工（その2）



かぶり詳細図 S=1/20

右ウイング



使用材料

コンクリート強度	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
鉄筋材質	SD345
鋼管ソイル杭	SKK490

鉄筋配置の考え方

鉄筋番号	留意事項	備考		
		道示	Q&A 等	参考資料
W7 W8 W18	◆ かぶりは最外縁70mm以上とし主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。下端は、フックを付ける。また、鉄筋の上端位置は剛性防護柵付け根から200mm以下の位置までとする。 ◆ 圧縮鉄筋は、主鉄筋量の1/3以上を配筋する。			
W1 ~ W6 W13 ~ W17	◆ 水平方向鉄筋は、鉛直方向鉄筋の外側に配置する。壁側の端部は、フックを付けて壁前面の鉛直方向鉄筋に掛ける。 ◆ 圧縮鉄筋は、主鉄筋量の1/3以上を配筋とする。			
W22	◆ 端部は、両端とも直角フックとし、最外鉄筋である外側および内側の水平方向鉄筋に掛ける。また、スターラップが必要なくとも組み立て筋としてD13を橋軸方向500mm、直角方向ctc1000mmで千鳥配置とする。			
W10 W11	◆ かぶりは最外縁70mm以上とし主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 また、フックは、壁前面の鉛直方向鉄筋およびフルウイング外側の鉛直鉄筋に掛ける。鉄筋径は、ウイング主鉄筋径と同一とする。			
W5	◆ 複合ウイング、パラレルウイングの鉄筋の芯かぶり、フックは、フルウイングに準じる。			
W16	◆ かぶりは最外縁70mm以上とし圧縮鉄筋中心位置で150mmを基本とする。 ◆ 鉄筋量は、引張主鉄筋量の1/3以上とする。			
W9 W19	◆ 引張主鉄筋の配力鉄筋は引張主鉄筋量の1/3以上とし、圧縮主鉄筋の配力鉄筋は引張側配力鉄筋量の1/3以上とする。 ◆ 鉄筋の配置は、複合ウイングの場合、フルウイングに合わせ主鉄筋の内側とし、パラレルウイングの場合、主鉄筋の外側とする。			
W22	◆ 端部は、両端とも直角フックとし、最外鉄筋に掛ける。また、スターラップが必要なくとも組み立て筋としてD13を橋軸方向500mm、直角方向ctc1000mmで千鳥配置とする。			
W12	◆ 鉄筋径はD16とし、かぶりは100mmとする。			

■配筋ルール

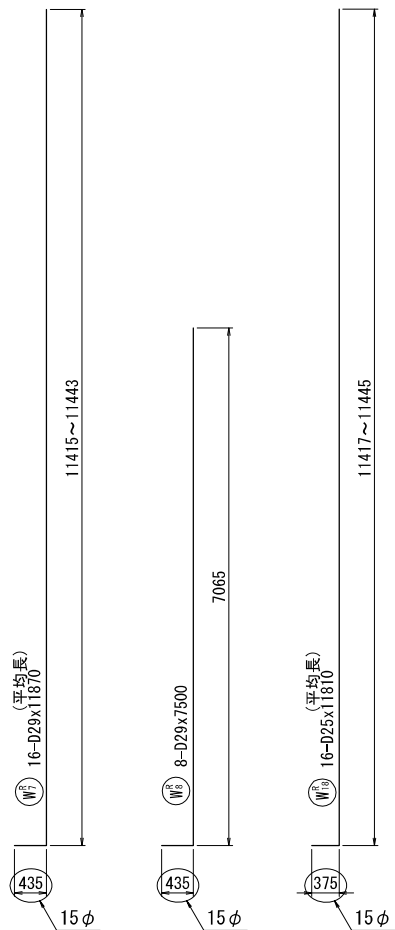
- 直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分(° ')まで示す。
- 鉄筋の合計長さ(平均長も含む)は10の位で切り上げる。
- 鉄筋定尺長(最大長さ)は、12m。
それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- D25以下は重ね継手(La=31.25φ)、D29以上はガス圧接とする。
- 鉄筋のあきは、40mm以上かつ鉄筋の直径の1.5倍以上とする。
また、粗骨材の最大寸法の4/3倍以上とする。

注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

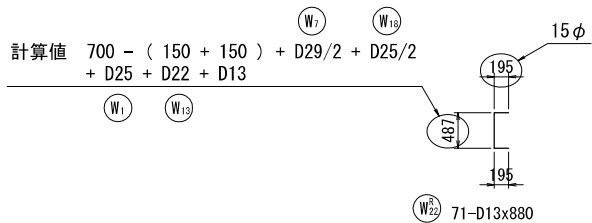
工事名	橋台翼壁工（その2）		
図面名	縮尺	1:50	図面番号 15 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台翼壁工（その3）

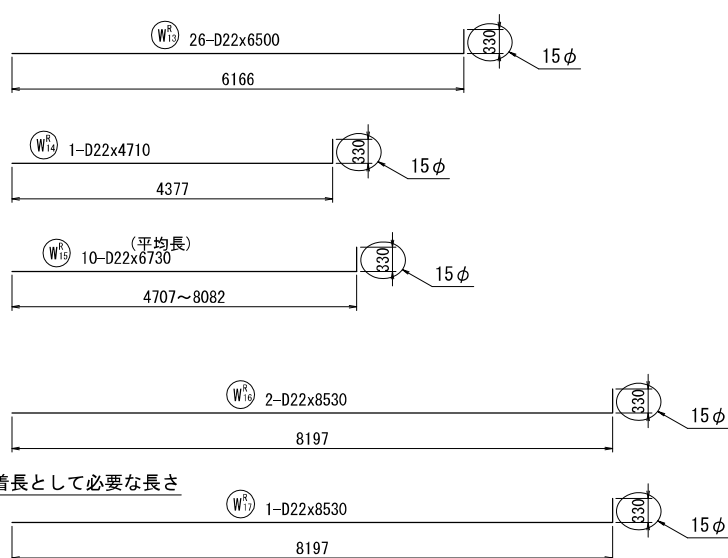
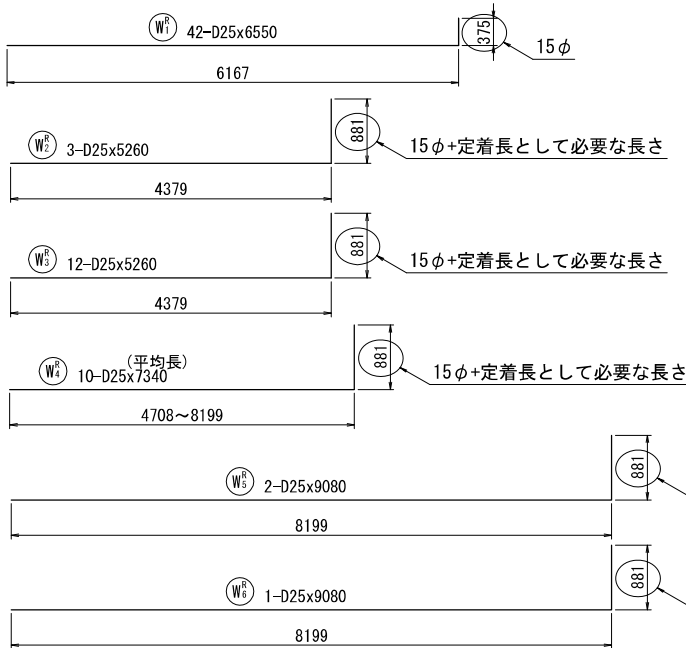
鉛直方向鉄筋



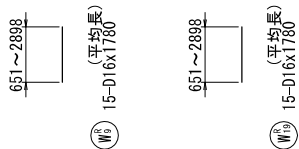
スターラップ



水平方向鉄筋

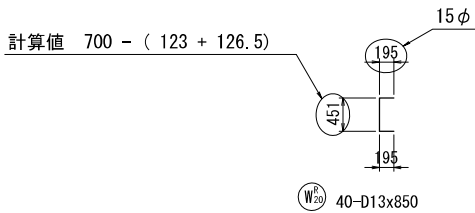


平行ウイング配力筋

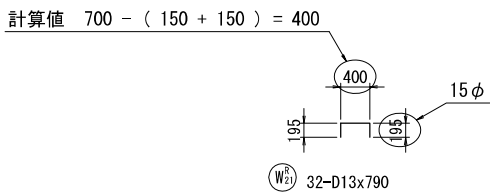


端部鉄筋

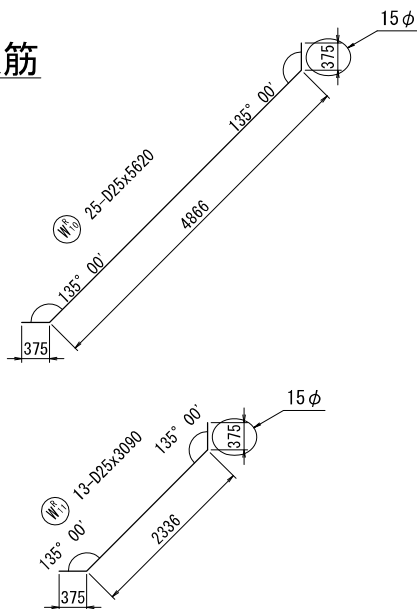
□背面端部鉄筋



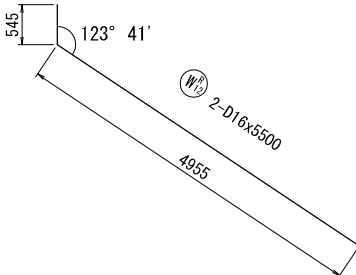
□上面端部鉄筋



補強鉄筋



平行ウイング囲い筋

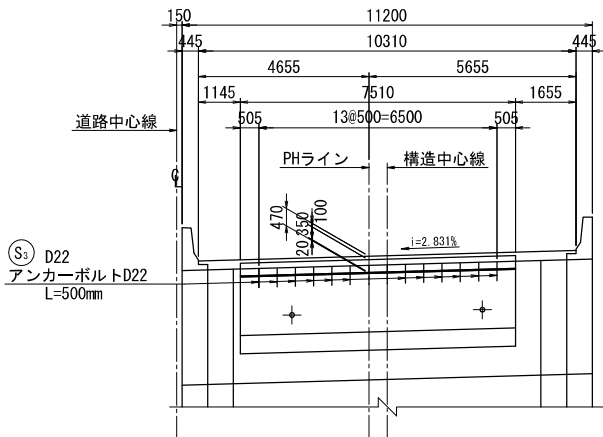


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

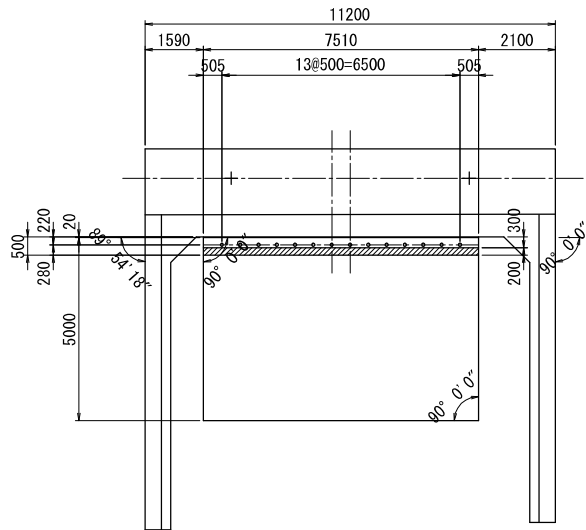
工事名	橋台翼壁工（その3）		
図面名	橋台翼壁工（その3）		
縮尺	1:50	図面番号	16 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台踏掛版（その１）

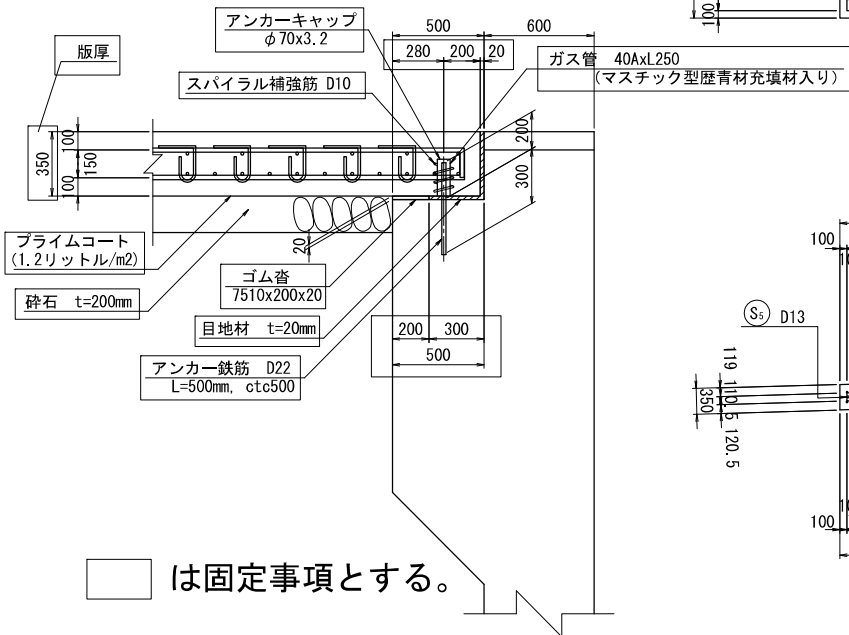
背面図 S=1/100



平面図 S=1/100

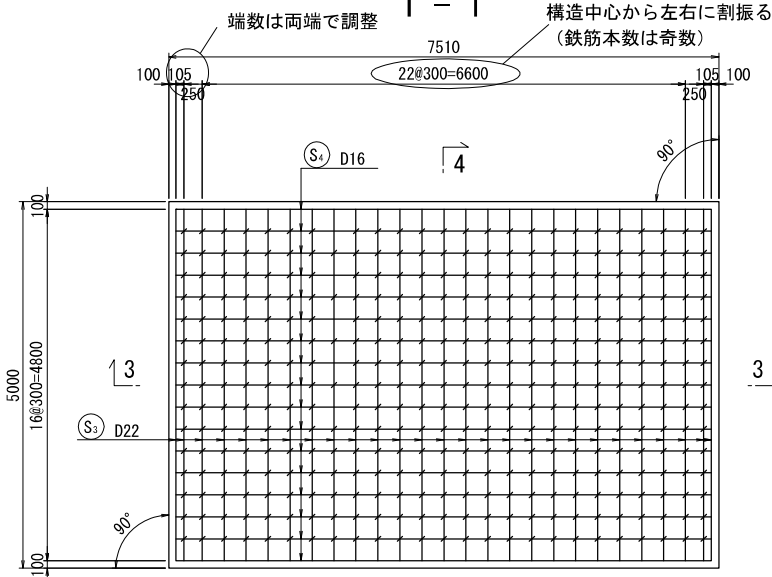


支承部詳細図 S=1/20

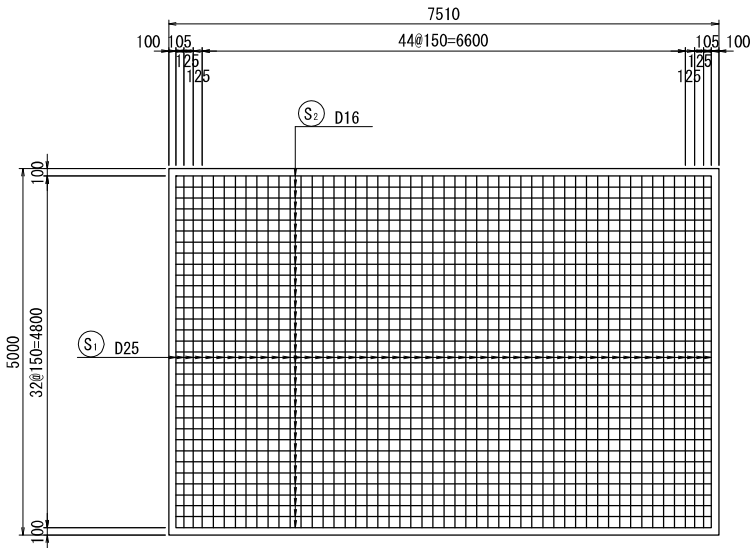


は固定事項とする。

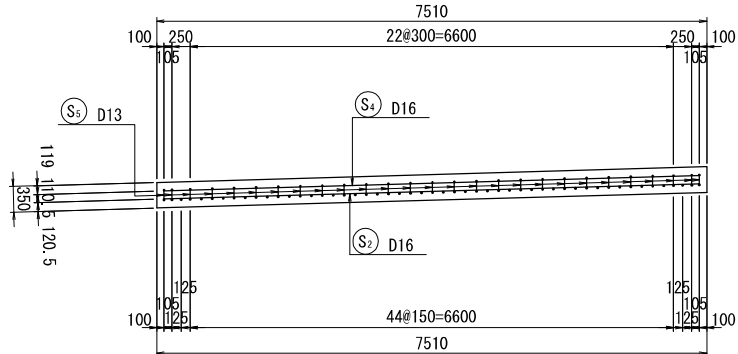
1 - 1



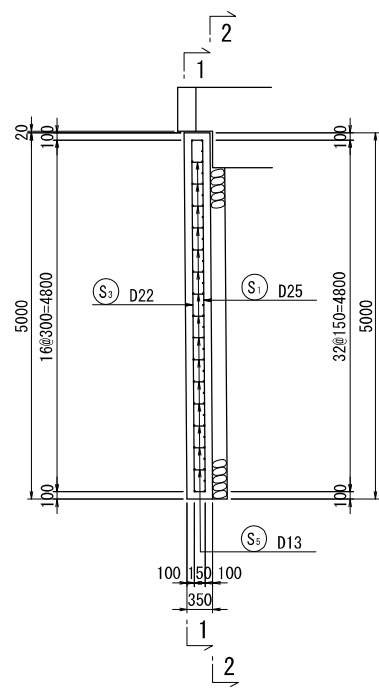
2 - 2



3 - 3



4 - 4



鉄筋配置の考え方

鉄筋番号	留 意 事 項	備 考		
		道示	Q&A 等	参考資料
S1 主鉄筋	◆ 鉄筋の純かぶりはスターラップにおいて70mm以上とし、主鉄筋位置で10mmラウンドを基本とする。端部は、フックを設け上面鉄筋までのばす。また、鉄筋の間隔は、150mmとする。	IV-P545		
S3 圧縮鉄筋	◆ 鉄筋の純かぶりはスターラップにおいて70mm以上とし、主鉄筋位置で10mmラウンドを基本とする。端部は、フックを設け下面鉄筋までのばす。また、鉄筋の間隔は、300mmとする。 ◆ 鉄筋量は、引張主鉄筋量の1/3以上とする。	IV-P545		
S2 配力鉄筋 S4	◆ 引張主鉄筋の配力鉄筋は、引張主鉄筋量の1/4以上とする。ただし、斜角が60°以上の場合は引張主鉄筋量の2/3程度とする。斜角60°未満の場合は、その影響を別途考慮する。また、配置位置は主鉄筋の内側とし、間隔は150mmとする。 ◆ 圧縮主鉄筋の配力鉄筋は、引張側配力鉄筋量の1/2以上とする。また、配置位置は圧縮鉄筋の内側とし、間隔は300mmとする。	IV-P545		
S5 スターラップ	◆ 端部は、直角フックおよび半円形フックとし、最外鉄筋である軸方向鉄筋に掛ける。半円形フックは、引張鉄筋に掛ける。また、鉄筋径はD13とする。配置は、橋軸方向が300mm、直角方向がctc600mmで千鳥配置とする。			
— 支承部部材	◆ 支承部詳細図を参照とする。			

使用材料

コンクリート強度	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
鉄筋材質	SD345

注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	橋台踏掛版（その１）		
縮 尺	1:50	図面番号	17 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

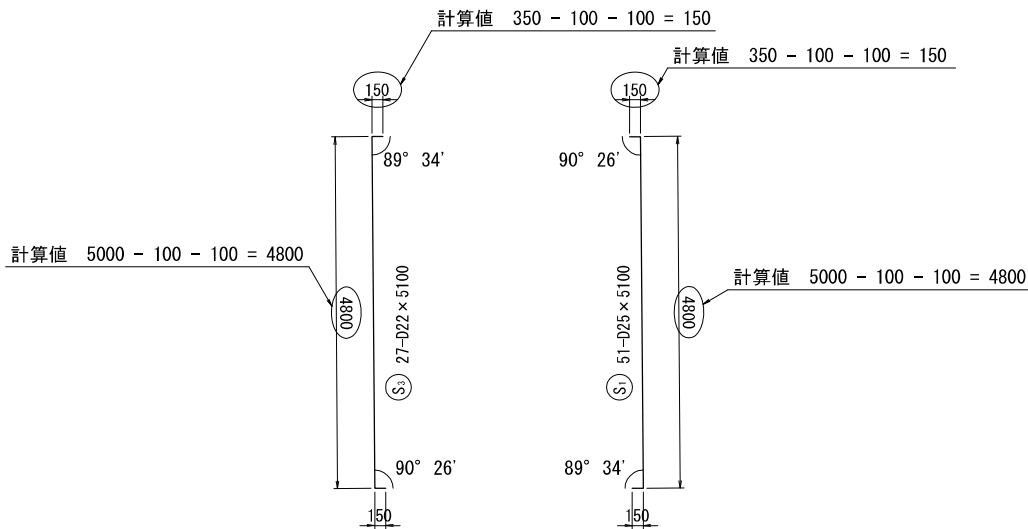
橋台踏掛版（その2）

■配筋ルール

- ・直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分(° ')まで示す。
- ・鉄筋の合計長さ(平均長も含む)は10の位で切り上げる。

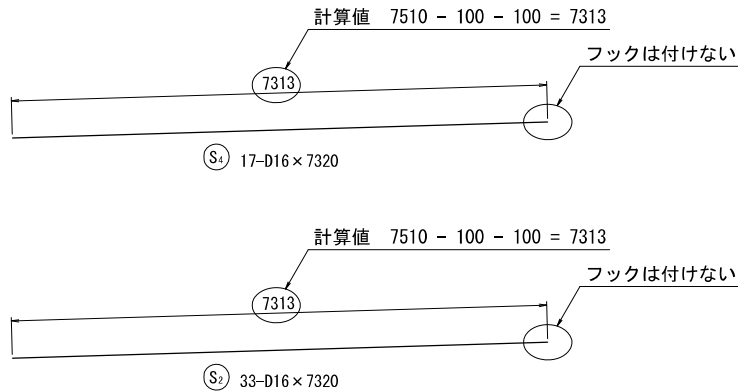
■軸方向鉄筋

- 橋軸方向上面鉄筋（圧縮鉄筋）
- 橋軸方向下面鉄筋（主鉄筋）



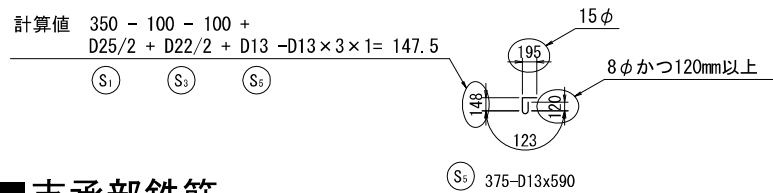
■配力鉄筋

- 橋軸方向上面鉄筋（圧縮鉄筋）
- 橋軸方向下面鉄筋（主鉄筋）



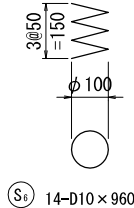
■スターラップ

- ・もっとも外側に配置される橋軸方向に鉄筋を取り囲む。
- ・フック形状は半円形フック+直角フックとする。
- ・半円形フックは、引張側に配置する。

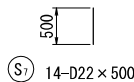


■支承部鉄筋

- スパイラル補強筋



- アンカー筋



使用材料

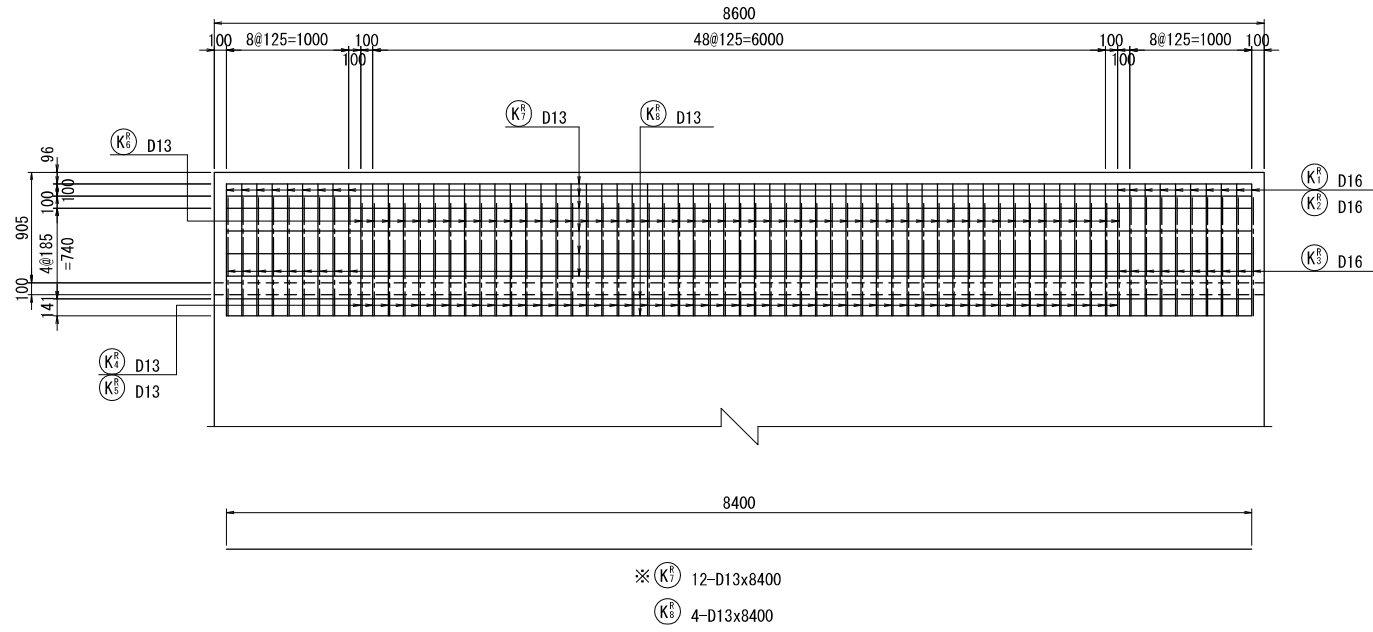
コンクリート強度	$\sigma_{ck}=24\text{N}/\text{mm}^2$
鉄筋材質	SD345

注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

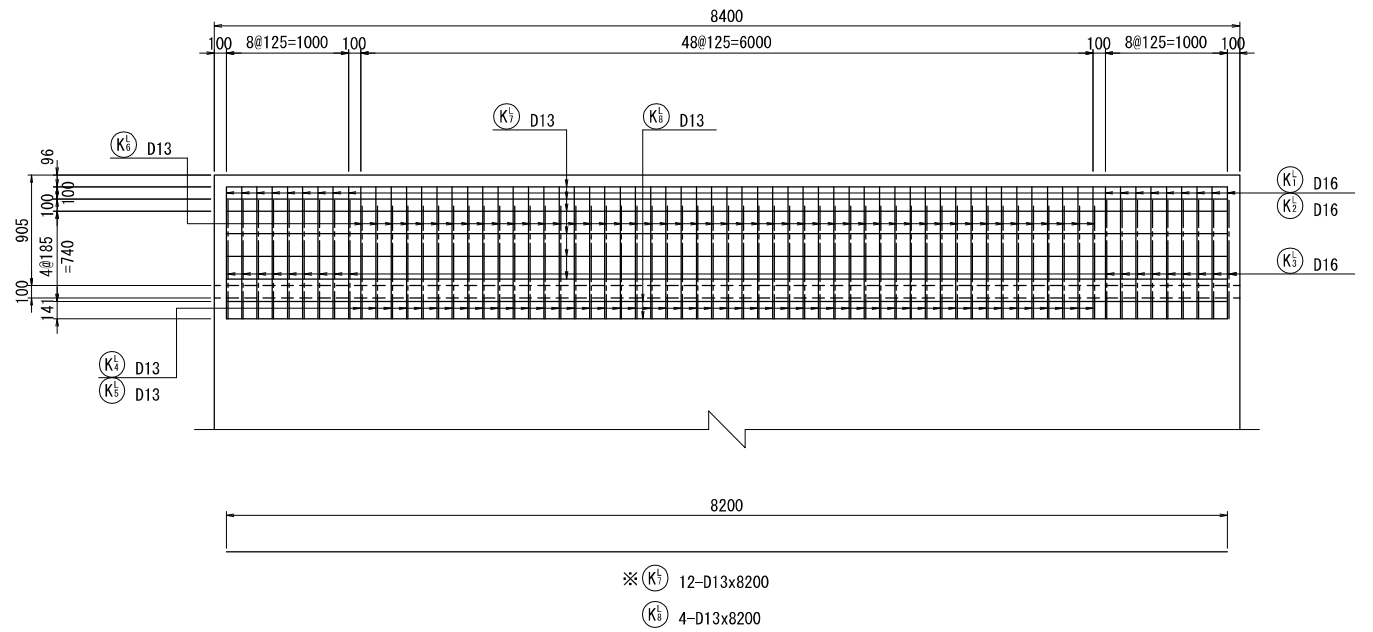
工事名	工事		
図面名	橋台踏掛版（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	18 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

橋台剛性防護柵工

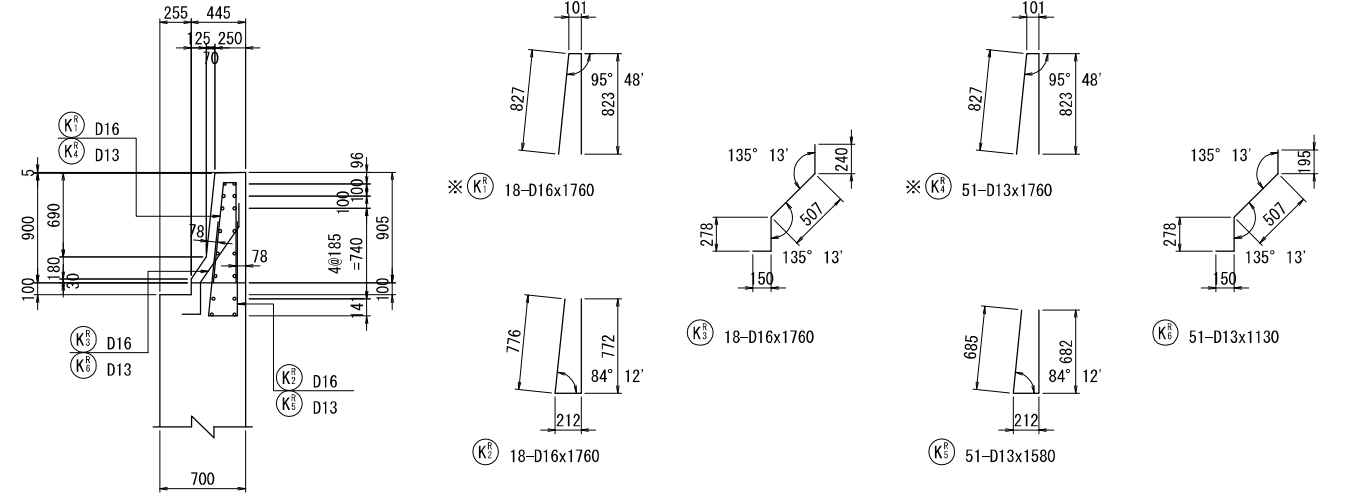
1 - 1



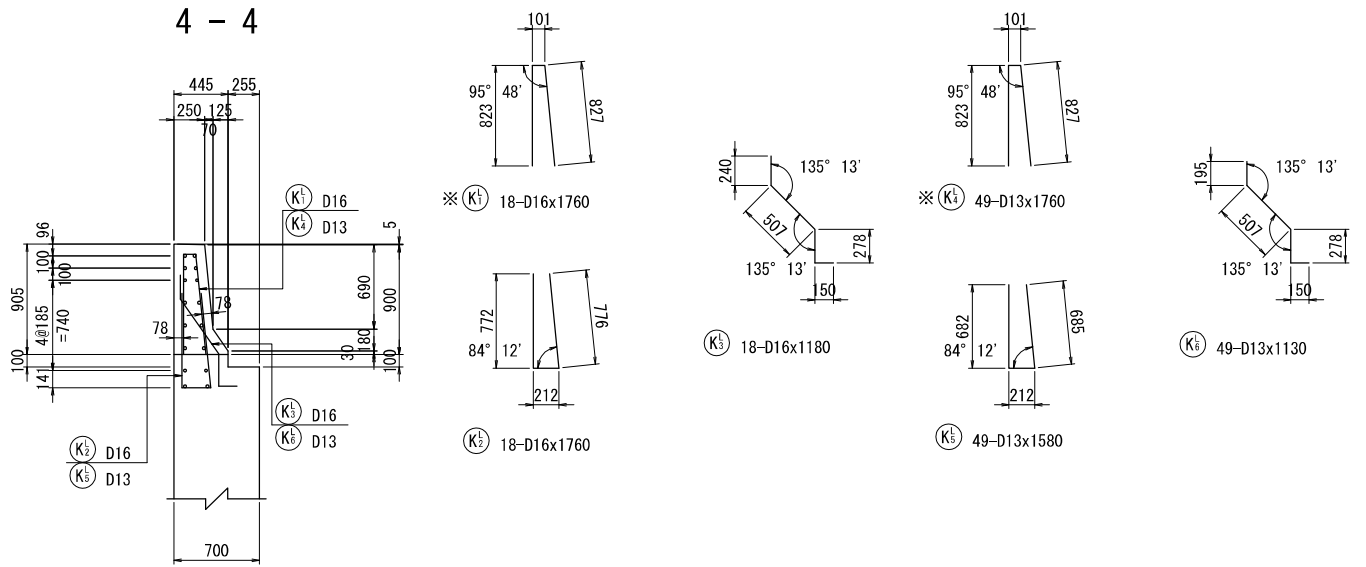
3 - 3



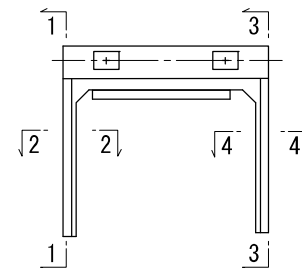
2 - 2



4 - 4



位置図

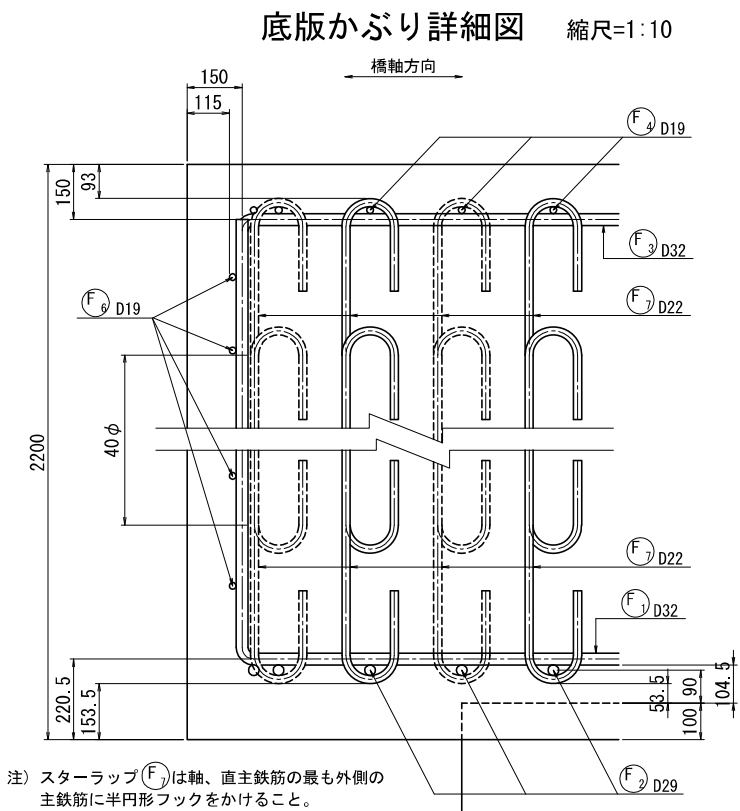
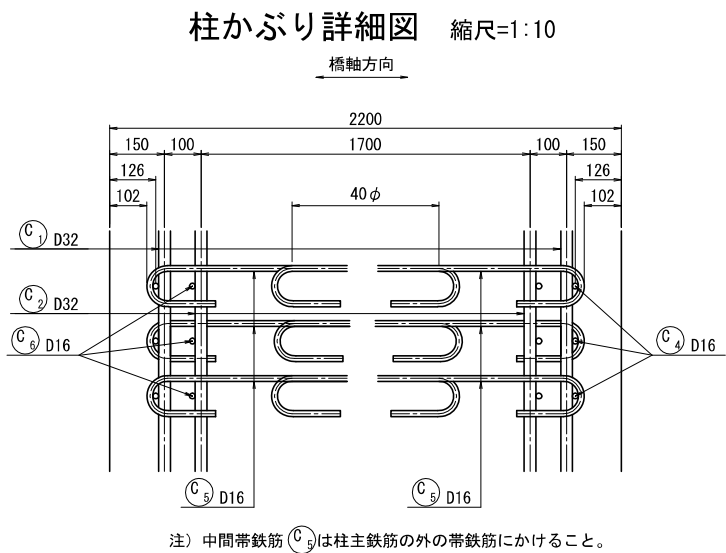
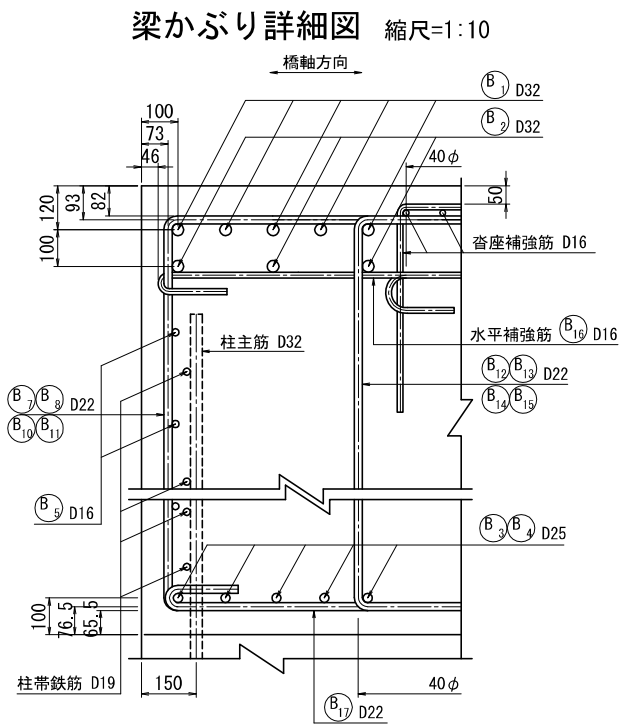


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工事		
図 面 名	橋台剛性防護柵工		
縮 尺	1:50	図面番号	19 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

注) 米印鉄筋は、後施工鉄筋を示す。

橋脚かぶり

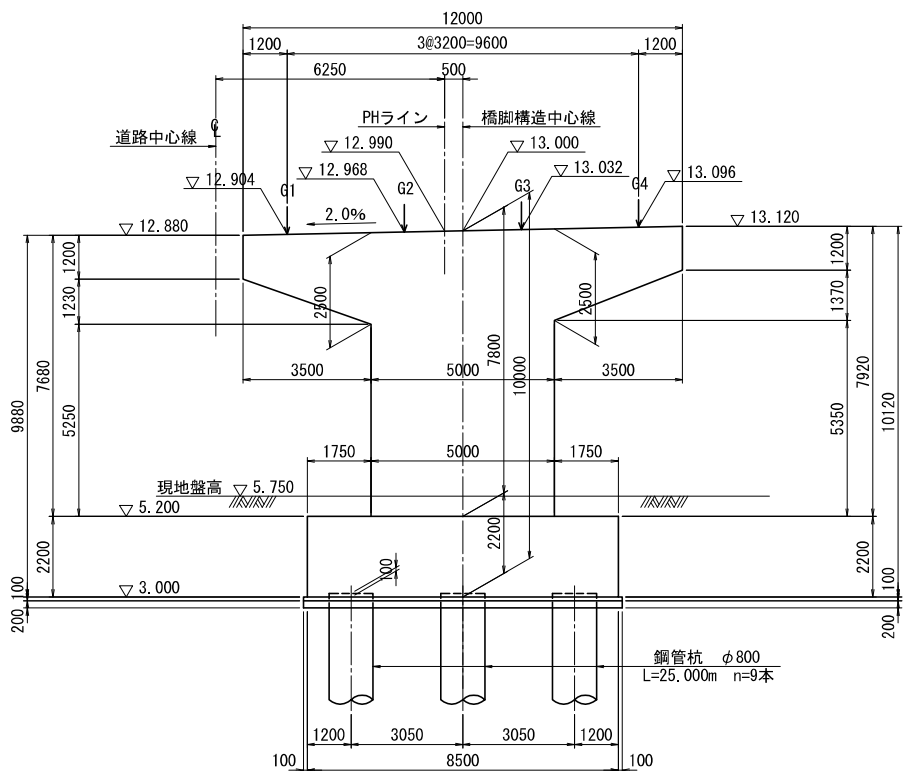


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

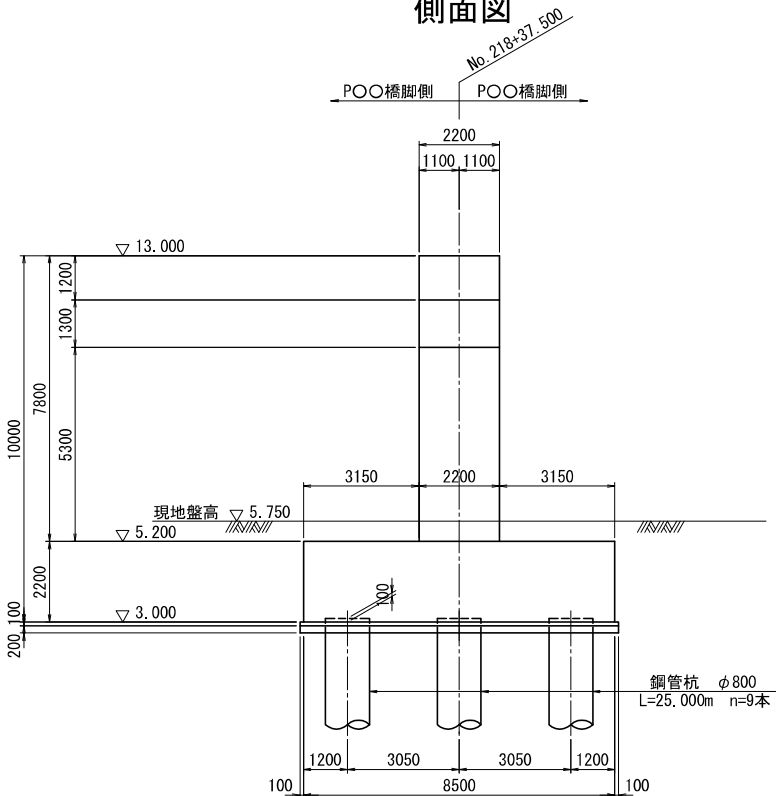
工 事 名	工 事		
図 面 名	橋脚かぶり		
縮 尺	1:10	図面番号	20 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

配筋要領図 橋脚構造一般図

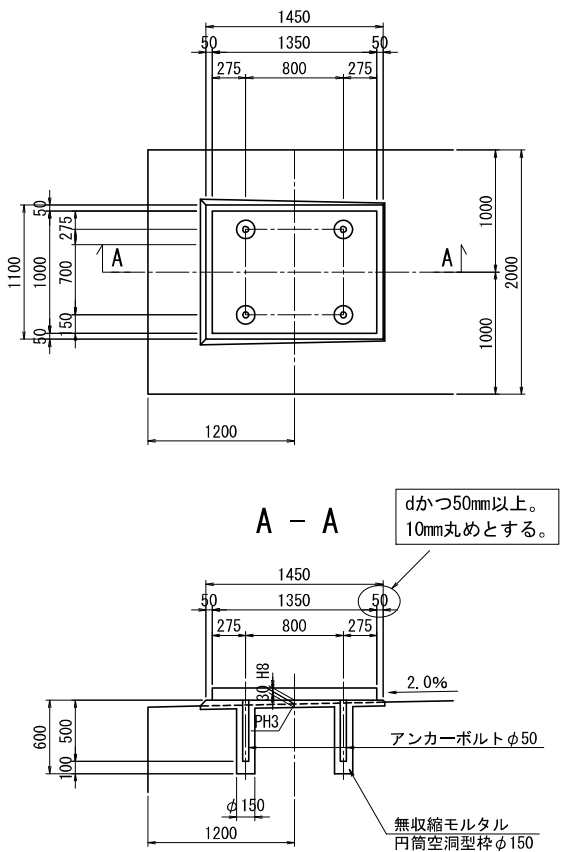
正面図



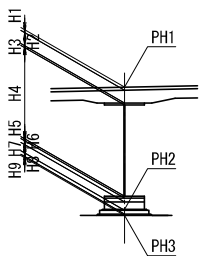
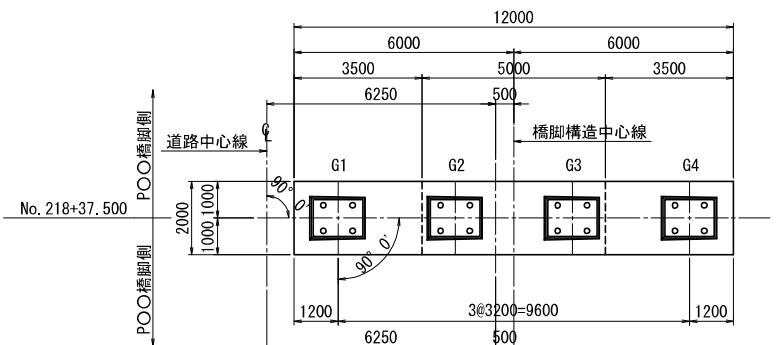
側面図



沓座箱抜き詳細図 S=1:30
(4ヶ所)



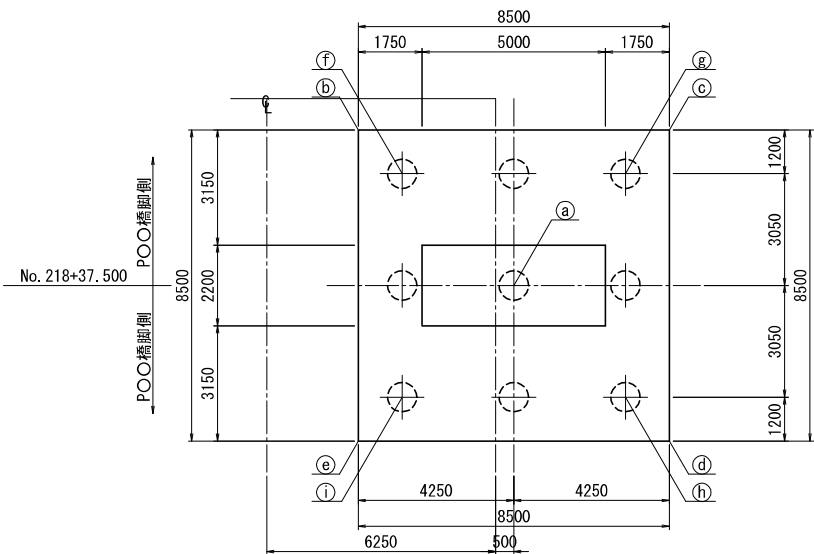
梁平面図



構造高表

		P.O.O			
		G1	G2	G3	G4
路面計画高	PH1	▽16.353	▽16.417	▽16.481	▽16.545
舗装厚	H1	0.080	0.080	0.080	0.080
床版厚	H2	0.270	0.270	0.270	0.270
ハンチ厚	H3	0.100	0.100	0.100	0.100
桁高	H4	2.500	2.500	2.500	2.500
下フランジ厚	H5	0.042	0.042	0.042	0.042
ソールプレート厚	H6	0.027	0.027	0.027	0.027
支承高	H7	0.300	0.300	0.300	0.300
小計	Σ H1	3.319	3.319	3.319	3.319
沓下面高	PH1	▽13.034	▽13.098	▽13.162	▽13.226
モルタル厚	H8	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	H9	0.100	0.100	0.100	0.100
構造高合計	Σ H2	3.449	3.449	3.449	3.449
下部工天端高	PH3	▽12.904	▽12.968	▽13.032	▽13.096
大座標値	X	0000.0000	0000.0000	0000.0000	0000.0000
	Y	0000.0000	0000.0000	0000.0000	0000.0000

基礎平面図

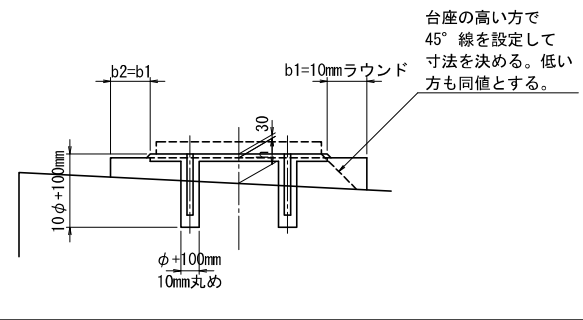


下部工座標

	P.O.O	
	X	Y
(a)	0000.0000	0000.0000
(b)	0000.0000	0000.0000
(c)	0000.0000	0000.0000
(d)	0000.0000	0000.0000
(e)	0000.0000	0000.0000
(f)	0000.0000	0000.0000
(g)	0000.0000	0000.0000
(h)	0000.0000	0000.0000
(i)	0000.0000	0000.0000

使用材料一覧表

コンクリート	躯体・底版	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均し	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
基礎材		RC-40
鋼管杭		SKK490
鉄筋		SD 345

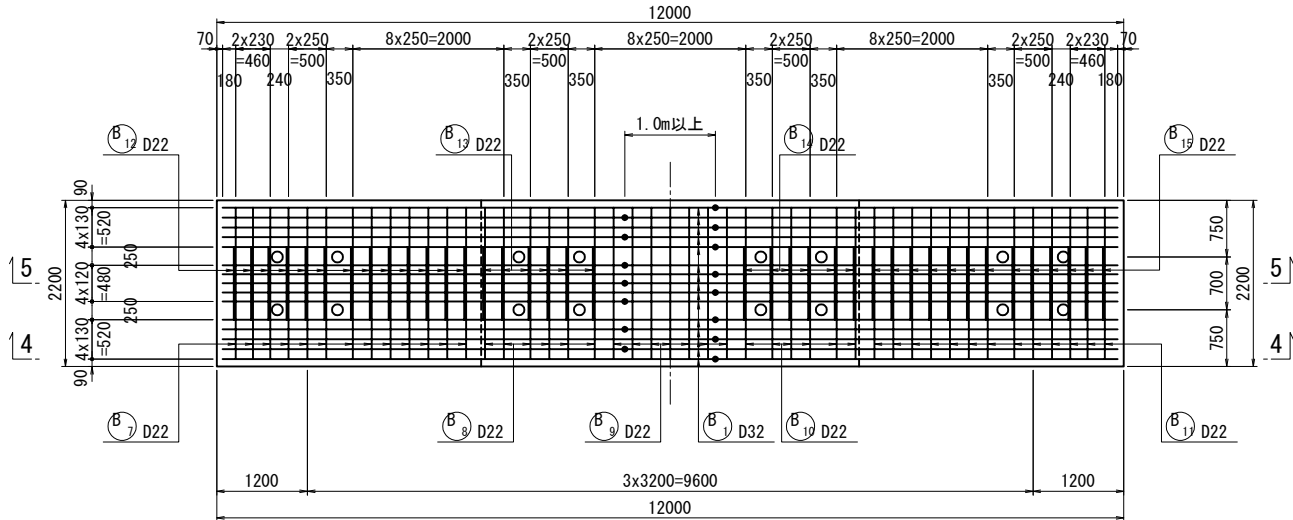


注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	配筋要領図 橋脚構造一般図		
縮尺	1:100	図面番号	21 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

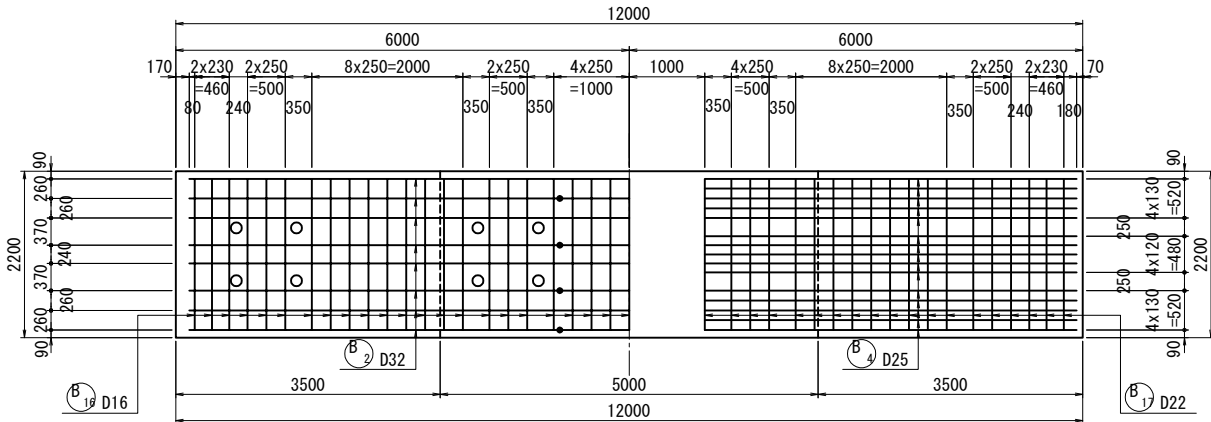
配筋要領図 梁工（その１）

上面断面図1
1 - 1



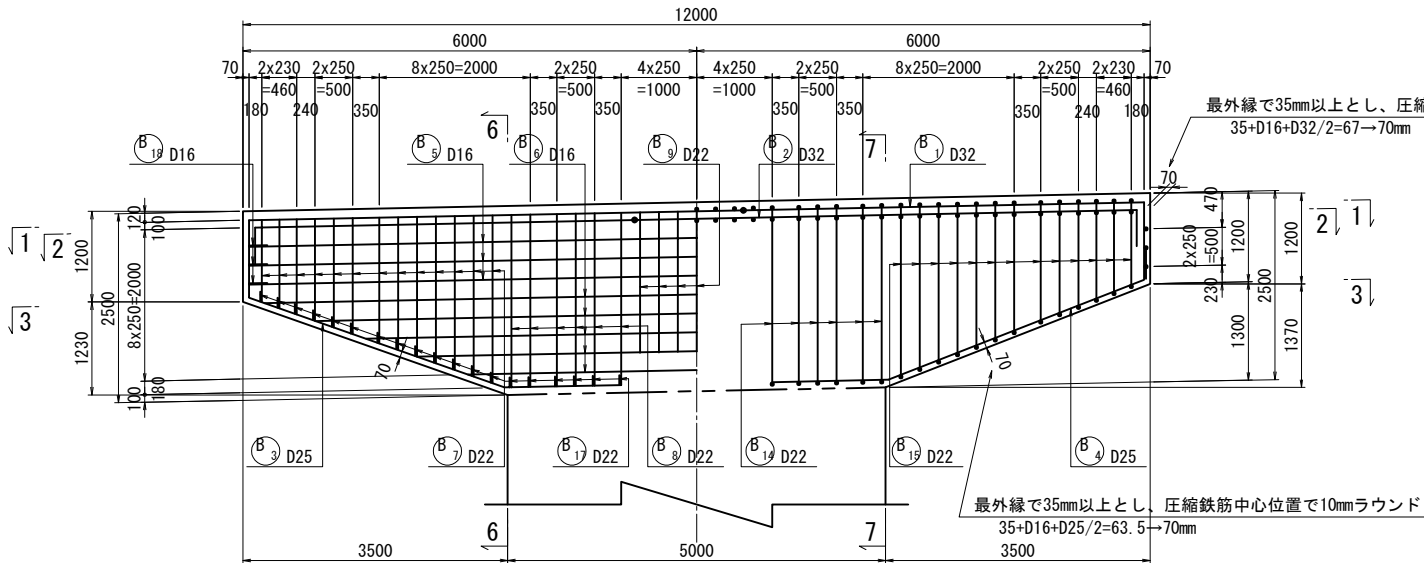
上面断面図2
2 - 2

下面断面図
3 - 3

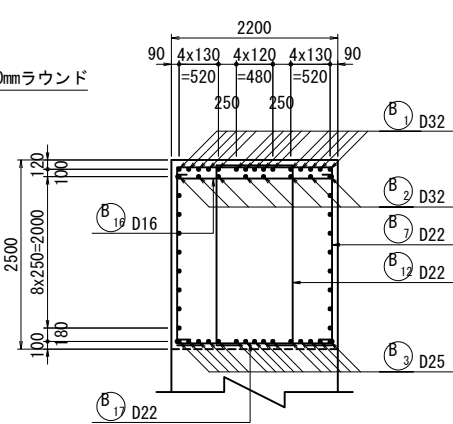


側面図（端部）
4 - 4

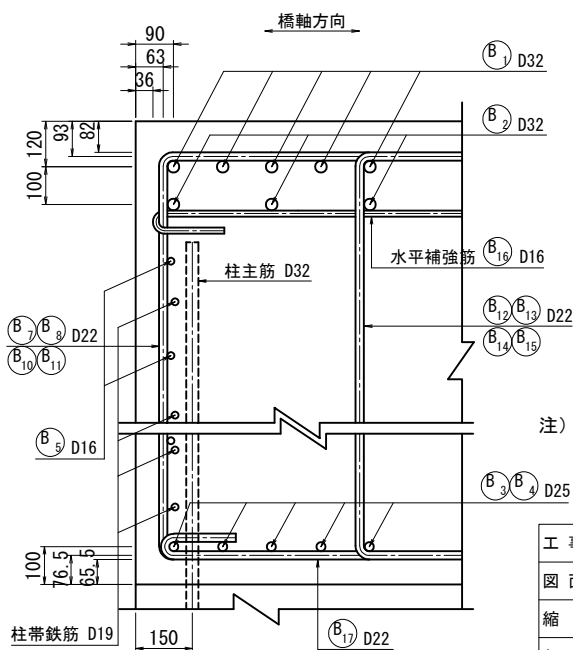
側面図（中央部）
5 - 5



梁標準断面図
6 - 6



梁かぶり詳細図 縮尺=1:10



注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2

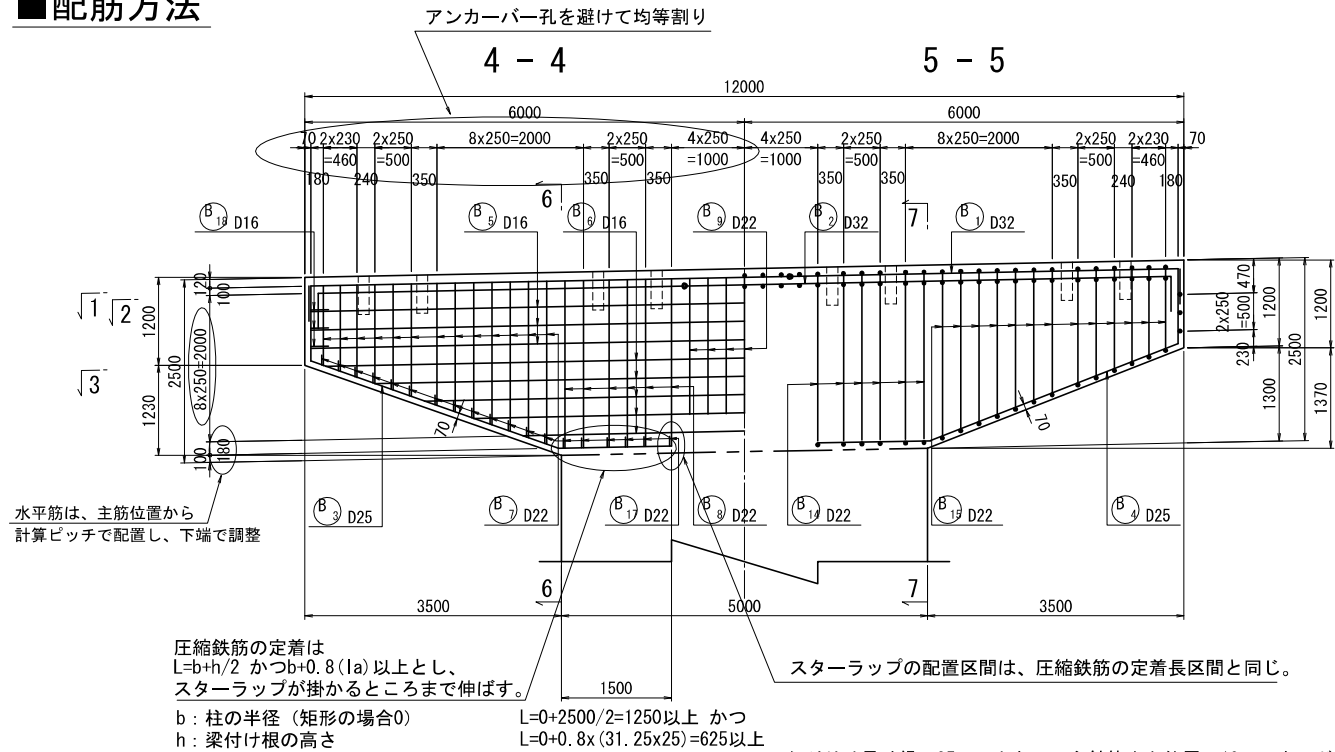
工 事 名	工 事		
図 面 名	配筋要領図 梁工（その１）		
縮 尺	1:50	図面番号	22 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

鉄筋配置の考え方

鉄筋番号		留 意 事 項	備 考		
			道示	Q&A 等	参考資料
B1 B2	梁主鉄筋	◆ 最外縁で35mm以上とし、主鉄筋中心位置で10mmラウンド。1段目から2段目は10cmとする。両端直角フックとし、フック長L=15φとする。 ◆ 鉄筋のあきは、40mm以上かつ粗骨材の最大寸法の4/3かつ鉄筋径の1.5倍を確保すること。	IV-P73 IV-P71 III-P73 IV-P72	①No31 土木設計マニュアル P40	
B3 B4	梁圧縮鉄筋	◆ 圧縮鉄筋は主鉄筋と同間隔で1/3以上の鉄筋量とする。			中部地整 P5-88
B5	水平鉄筋	◆ 計算鉄筋でD16以上125、250ctcを基本とする。両端にフックはつけない。 ◆ 張出スパンが梁高に対して短い場合には、梁の腹部に主鉄筋量の40%以上の水平な用心鉄筋を配置する。 ◆ コーベル両側面の水平鉄筋は、支持部材軸方向鉄筋を取り囲むよう配置する。	III-P95 III-P96 IV-P97	②No199	
B6	スターラップ筋	◆ 計算鉄筋で、水平補強鉄筋をかねているため鉄筋径はD16～D25とし、125、250ctcで、2組を基本とする。 ◆ 引張鉄筋及び圧縮鉄筋を取り囲み、圧縮側で直角フック長L=15φとする。	IV-P74 IV-P72	土木設計マニュアル P40	
B9	梁かぶせ筋	◆ せん段補強筋とし不要な場合はD16-250ctcで定着長さはアンカーバーより45度分布線と、部材端の交点より1a以上とする。	IV-P121		
B16	水平補強筋	◆ 計算上不要でもD16をスターラップと同間隔で配置し、両端を半円形フックとする。 ◆ 2本組みとする場合、重ね継手長は40φとする。	IV-P120		
B17	組立筋	◆ スターラップ筋の閉合筋でスターラップと同径・同ピッチで配置する。両端を半円形フックとし、1本ものを原則とする。			J H 橋梁設計の手引き (S 62) P 64
B18	ひび割れ補強筋	◆ D16で、B5、B6の水平鉄筋と同間隔とし、両端直角フック長L=15φとする。	IV-P67		
S1 S2 S3	沓座補強筋 台座補強筋	◆ D16-100ctc（下沓幅+100*2の範囲） ◆ 台座補強筋は支圧補強筋を兼ねるため、D16-100ctcで沓座面より定着長1aをとる。	IV-P120		

配筋要領図 梁工（その2）

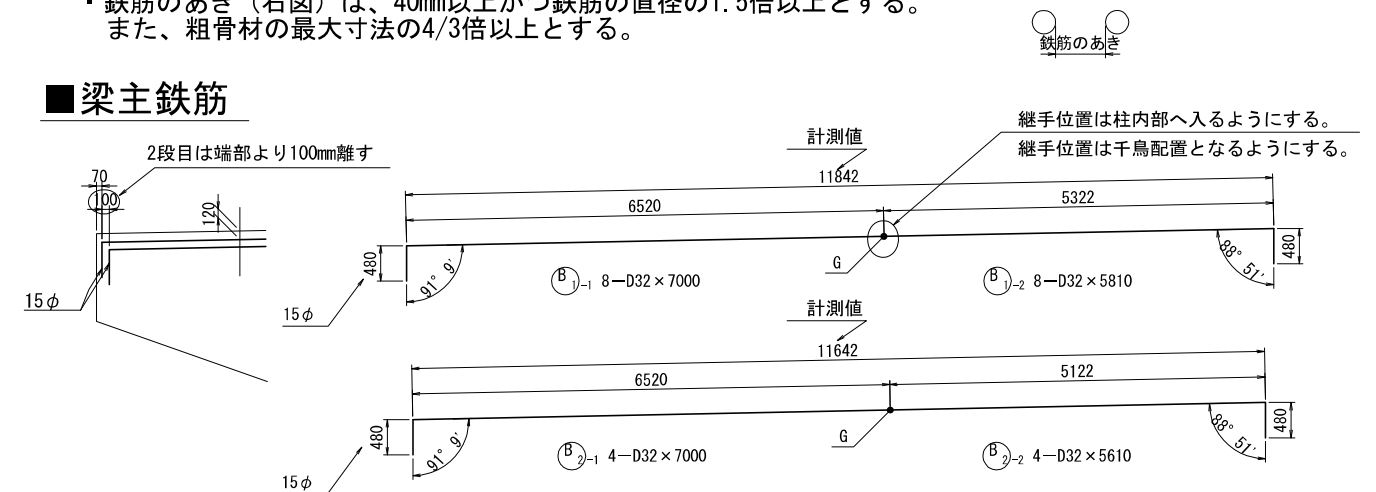
■配筋方法



■配筋ルール

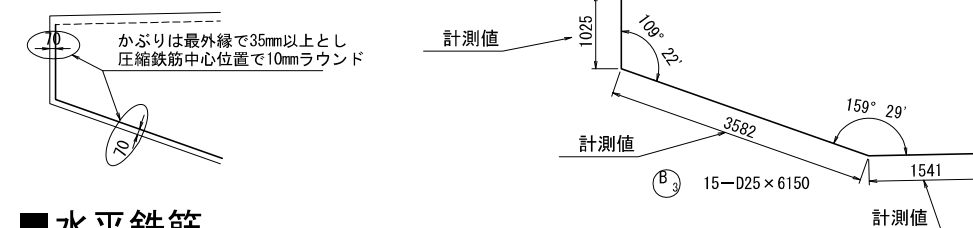
- ・ 直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分（°'）まで示す。
- ・ 鉄筋の合計長さ（平均長も含む）は10の位で切り上げる。
- ・ 鉄筋定尺長（最大長さ）は、12m。
それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- ・ D25以下は重ね継手 ($L_a = 31.25\phi$)
D29以上はガス圧接とする。
重ね継手・ガス圧接は、柱範囲の中に入るよう考慮する。
- ・ 鉄筋のあき（右図）は、40mm以上かつ鉄筋の直径の1.5倍以上とする。
また、粗骨材の最大寸法の4/3倍以上とする。

■梁主鉄筋



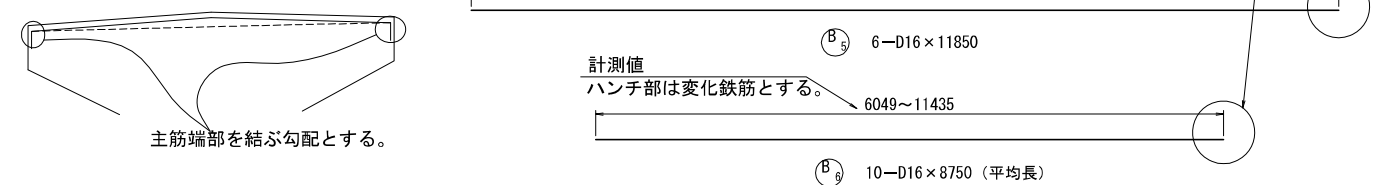
■圧縮鉄筋

- ・ 梁水平方向へのかぶりは、90mmとする。（鉄筋芯で主鉄筋と同じ位置）



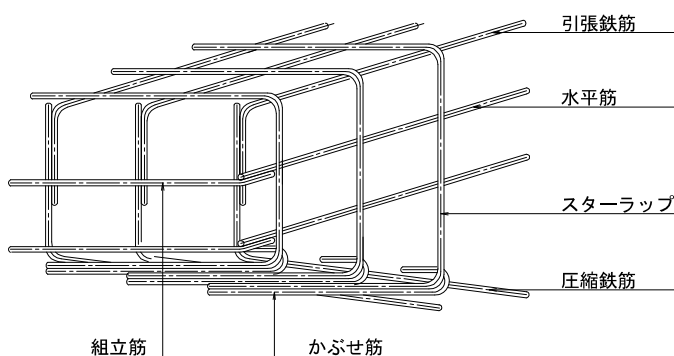
■水平鉄筋

- ・ スターラップの内側に沿うように配置する。
- ・ 主鉄筋の端部どうしを結んだ勾配とする。



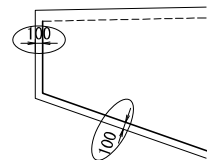
注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2

・鉄筋組立概要図



工事名	工事		
図面名	配筋要領図 梁工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	23 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

■配筋方法



アンカーバー孔を避けて均等割り
基本的には300mm以下で割り振る

4 - 4 5 - 5

台座がある場合は※100

水平筋は、主筋位置から
計算ピッチで配置し、下端で調整

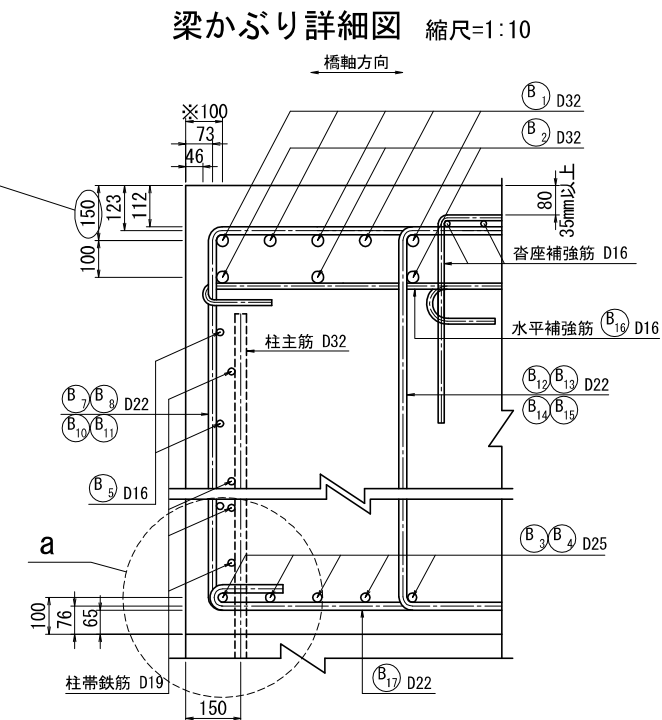
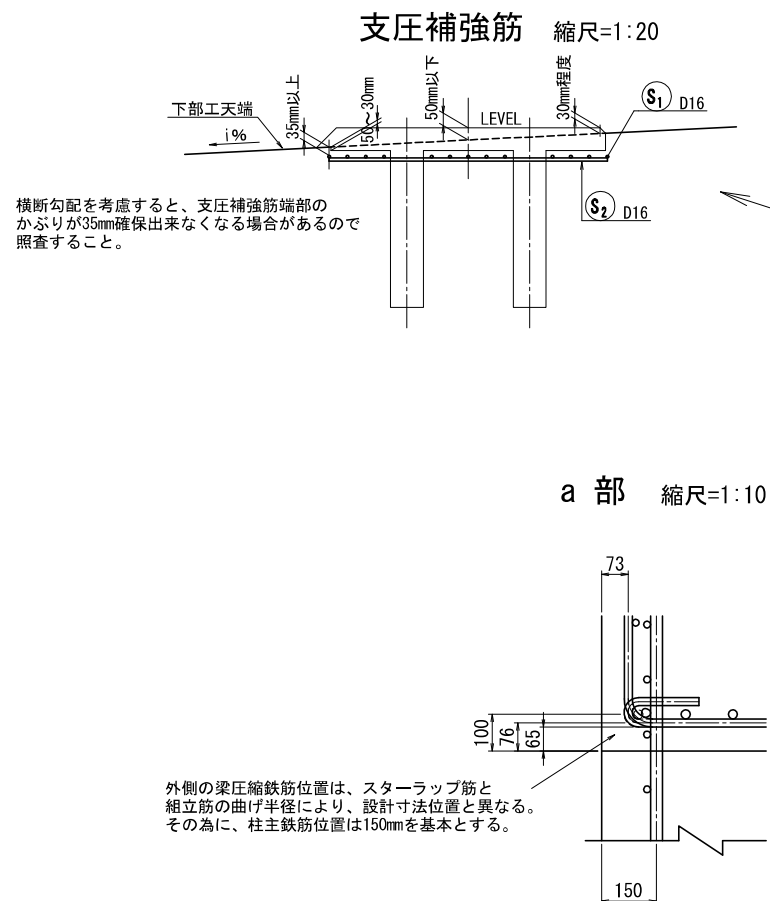
圧縮鉄筋の定着は
 $L=b+h/2$ かつ $b+0.8(la)$ 以上とし、
スターラップが掛かるところまで伸ばす。

b : 柱の半径 (矩形の場合0)
 h : 梁付け根の高さ

$L=0+2500/2=1250$ 以上 かつ
 $L=0+0.8 \times (31.25 \times 25)=625$ 以上

スターラップの配置区間は、圧縮鉄筋の定着長区間と同じ。

※最外縁かぶり35mm以上確保出来ているか確認すること。

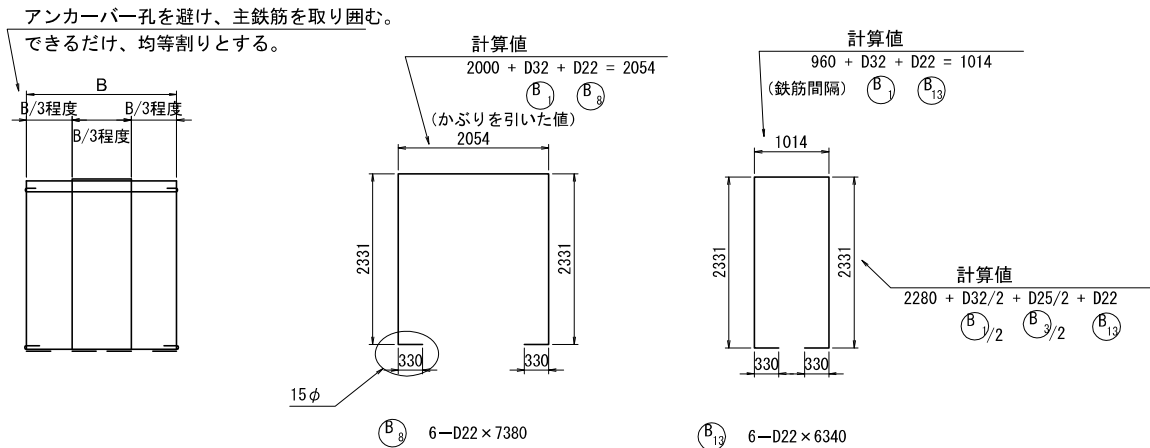


工 事 名	工 事		
図 面 名	配筋要領図 梁工（その2）補足資料		
縮 尺	1:50	図面番号	24 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

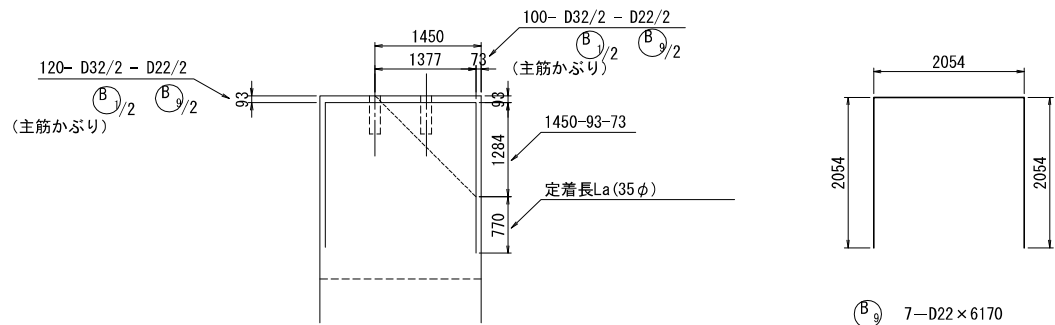
配筋要領図 梁工（その3）

■スターラップ

- ・引張鉄筋及び圧縮鉄筋を取り囲み、圧縮側で直角フックとする。

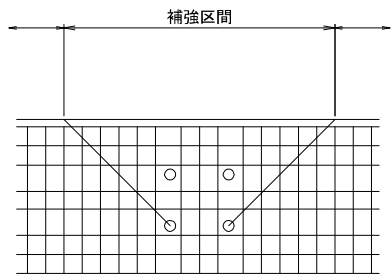


■梁かぶせ筋

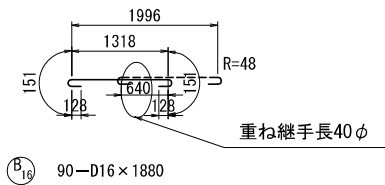


■水平補強筋

- ・計算上鉄筋間隔250ctcで持たない場合は、補強区間内を125ctcとする。
補強区間外は常に250ctcを通す。

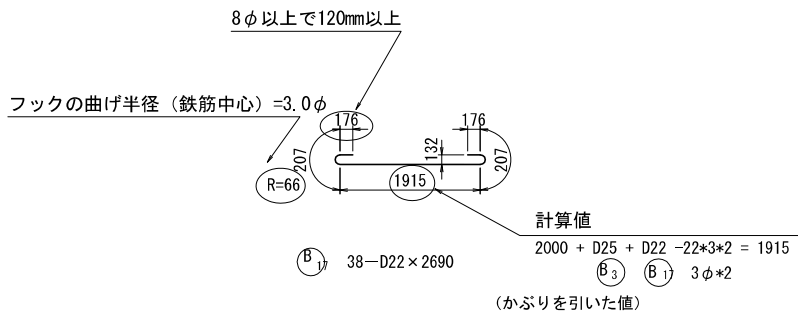


- ・2本組の場合は、重ね継手長は40φ

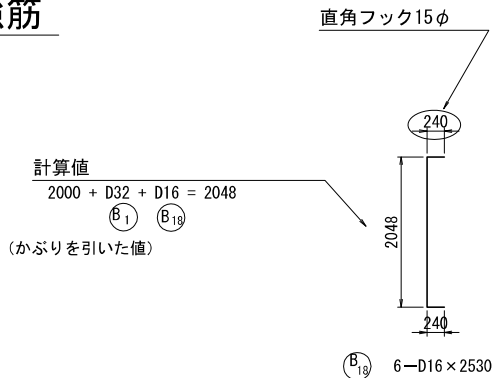


■組立筋

- ・両端を半円形フックとし、圧縮鉄筋を取り囲む。



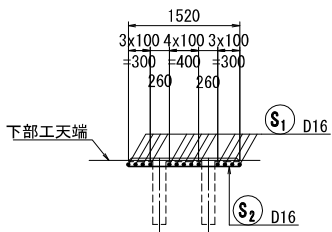
■ひび割れ補強筋



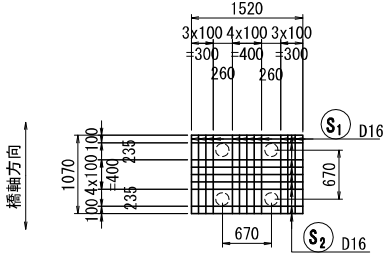
■支圧補強筋・台座補強筋

沓座補強配筋図

(2箇所)

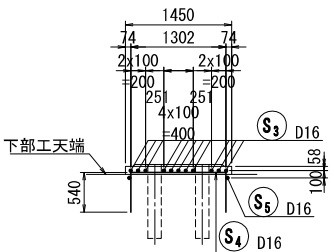


橋軸直角方向

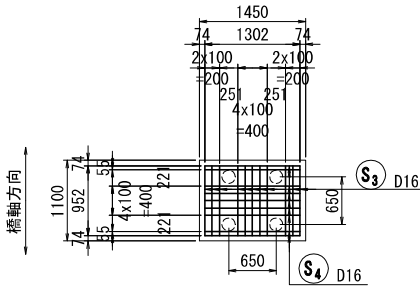


台座補強配筋図

(3箇所)



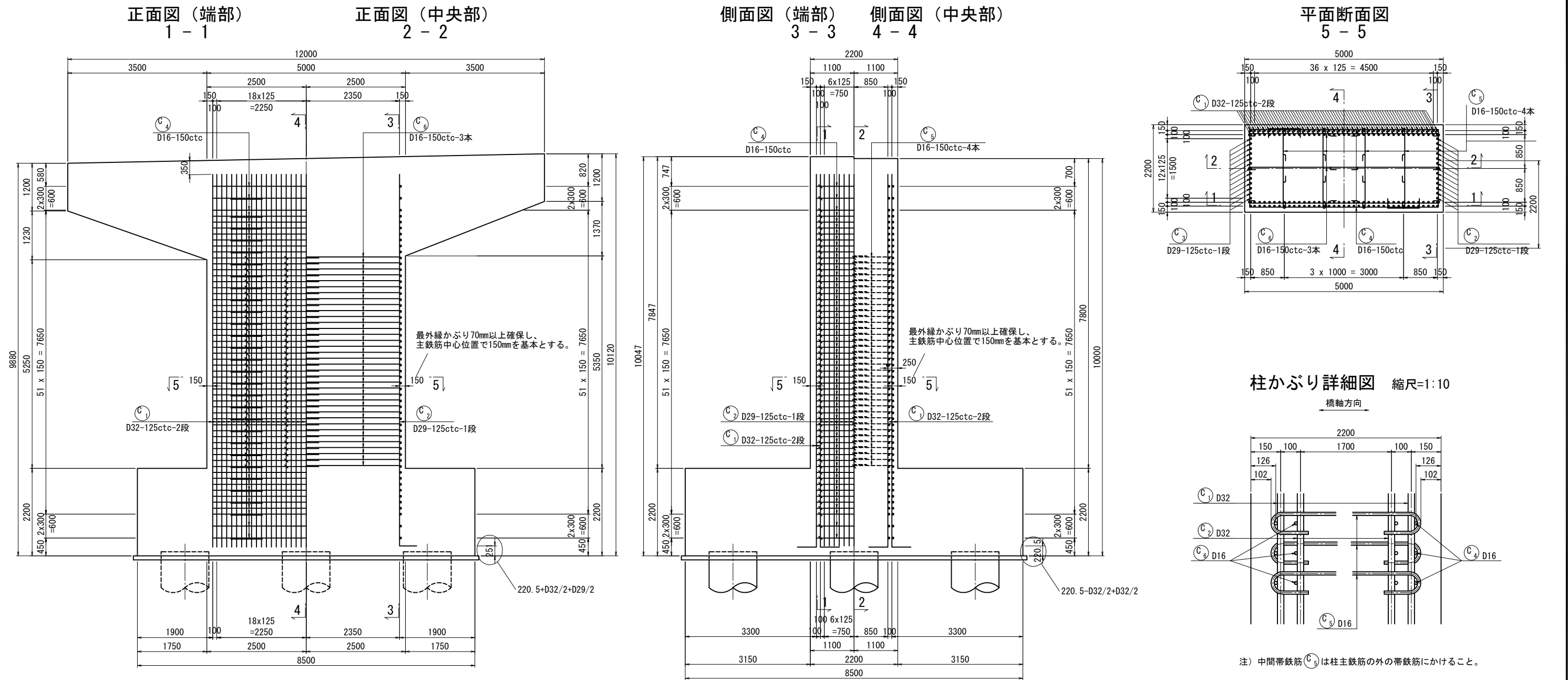
橋軸直角方向



注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	配筋要領図 梁工（その3）		
縮尺	1:50	図面番号	25 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

配筋要領図 柱工（その１）



鉄筋配置の考え方

鉄筋番号	留 意 事 項	備 考		
		道示	Q&A 等	参考資料
C1 軸方向鉄筋 (橋軸方向)	◆ 最外縁かぶり70mm以上確保し、主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。1段目～2段目は10cm。 底版橋軸直角方向下側鉄筋の上に載せ（2段配筋のときは2段目に載せ）直角フック15φとする。 段落としは原則として行わない。	Ⅲ-P76 Ⅴ-P199	①No29, 48, 72, 89, 150 ①P9, No141 ②P2, No161, 180 土木設計マニュアル P40	
C2 軸方向鉄筋 C3 直角方向)	◆ 鉄筋間隔はD22mm以下は25cmとし、D25mm以上は12.5cm及び25cm間隔を基本とする。 ◆ 塑性化を考慮する領域においては、軸方向鉄筋の継手を設けることは出来るだけ避ける。			
C4 帯鉄筋	◆ 計算鉄筋でD13-150ctcを最小鉄筋配置とする。（梁部材及び底版内は左上図参照） ◆ 重ね継手は直線部分で40φ以上（千鳥配置）とし両端を直角フックで内側に定着する。 その場合、帯鉄筋の重ね継手部を中間帯鉄筋で拘束しておく。			
C5 中間帯鉄筋 (橋軸方向)	◆ 計算鉄筋で、帯鉄筋と同径・同間隔とし断面周方向に配置される帯鉄筋にかけ両端を半円形フックとする。 断面内配置間隔は、1m以内に配置する。	Ⅳ-P74～ Ⅳ-P77	①P8-No133, ①P31-No2, 21 ①P32, ①P3-No207	
C6 中間帯鉄筋 (直角方向)	◆ 橋脚厚さが2m以上の場合は2組とし、重ね継手は直線部分で40φとする。 ◆ 軸方向鉄筋が2段の場合は、中間帯鉄筋は最も外側に配置される帯鉄筋にフックをかける。 ◆ 鉄筋径および現場状況に応じて、機械式継手・定着を検討すること。			
C7 中間帯鉄筋 (組立筋)	◆ 軸方向鉄筋が2段の場合で計算上見込む場合C5、C6と同径同形状とし間隔はC4と同じとする。 見込まない場合C4と同径・倍間隔（300mmピッチ以下）とし、両端15φの直角フックとする。フーチング内も同径で倍間隔とする。			

注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2	
工 事 名	工 事
図 面 名	配筋要領図 柱工（その１）
縮 尺	1:50 図面番号 26 の 29
年 月 日	
設計会社	
事務所名	静 岡 市

配筋要領図 柱工（その2）

■配筋ルール

- 鉄筋の合計長さ（平均長も含む）は10の位で切り上げる。
- 鉄筋定尺長（最大長さ）は、12m。
それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- D25以下は重ね継手 ($L_a = 31.25\phi$)
D29以上はガス圧接とする。

■主鉄筋

- 軸方向鉄筋（橋軸方向）
- 軸方向鉄筋（直角方向）

□重ね継手・ガス圧接の
長さの取り方

かぶりを引いた値
 $9953 - 320 - 220.5 = 9413$
(上面かぶり)
(下面かぶり)

最低でも3.5m以上とする。

継手位置は、鉄筋端で25φ以上
ずらすものとする。

定尺物（500mm丸め）とする。

■帯鉄筋

- 軸方向鉄筋を取り囲む。
- 重ね継手は直線部分で40φ以上とし、両端は直角フックとする。
- 継手部は高さ方向に千鳥配置とする。

計算値
 $1225 + D32 + D16 = 1273$
(鉄筋間隔) $\phi_1 \phi_4$

計算値
 $1900 + D32 + D16 = 1948$
(かぶりを引いた値) $\phi_1 \phi_4$

計算値
 $125*6 + D32 + D16 = 798 \geq D16*40 = 640$
(鉄筋間隔) $\phi_1 \phi_4$

注) $125*5 + D32 + D16 = 673 \geq D16*40 = 640$
となるが、 $673 - 3\phi*2$ (曲げ半径分) = 577 で、
直線区間のみでは40φ以上を満たさない。

計算値
 $4700 + D32 + D16 = 4748$
(かぶりを引いた値) $\phi_1 \phi_4$

■中間帯鉄筋

- 帯鉄筋と同径・同ピッチで配置。
- 両端を半円形フックとし、主筋を取り囲み、外側の帯鉄筋にかける。
- 配置間隔は1.0m以内とし、帯鉄筋の重ね継手部には必ず設置する。
- 2本組とする場合（2.0m以上の場合は）、重ね継手長を直線部分で40φとする。

計算値
 $1900 + D32 + D16*2 + D16 - 16*3*2 = 1884$
(かぶりを引いた値) $\phi_1 \phi_4 \phi_5*2 \quad 3\phi*2$

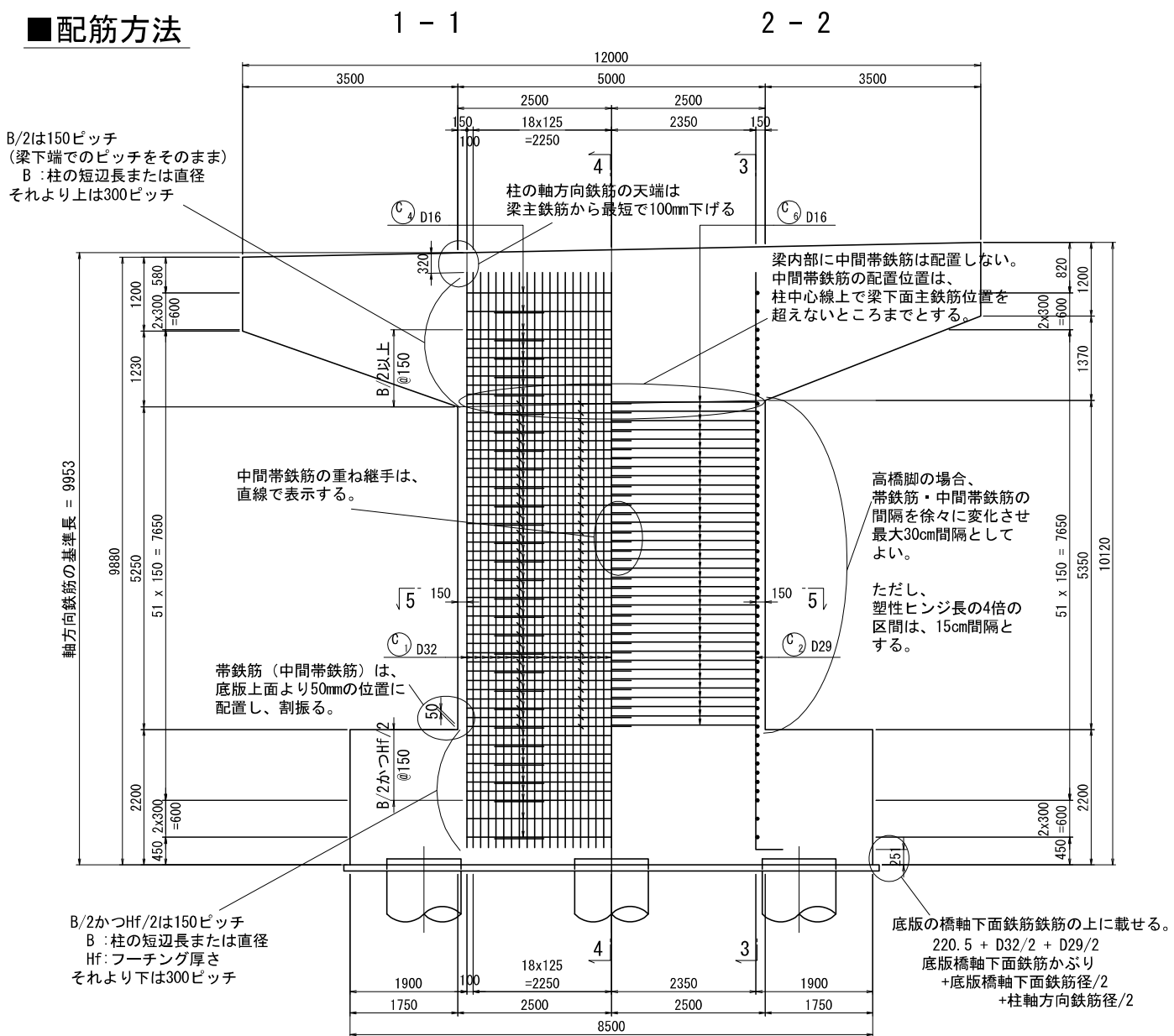
フックの曲げ半径（鉄筋中心）= 3.0φ
 $\phi_5 \quad 288 - D16 \times 1820$

$\phi_6 \quad 216 - D16 \times 3220$

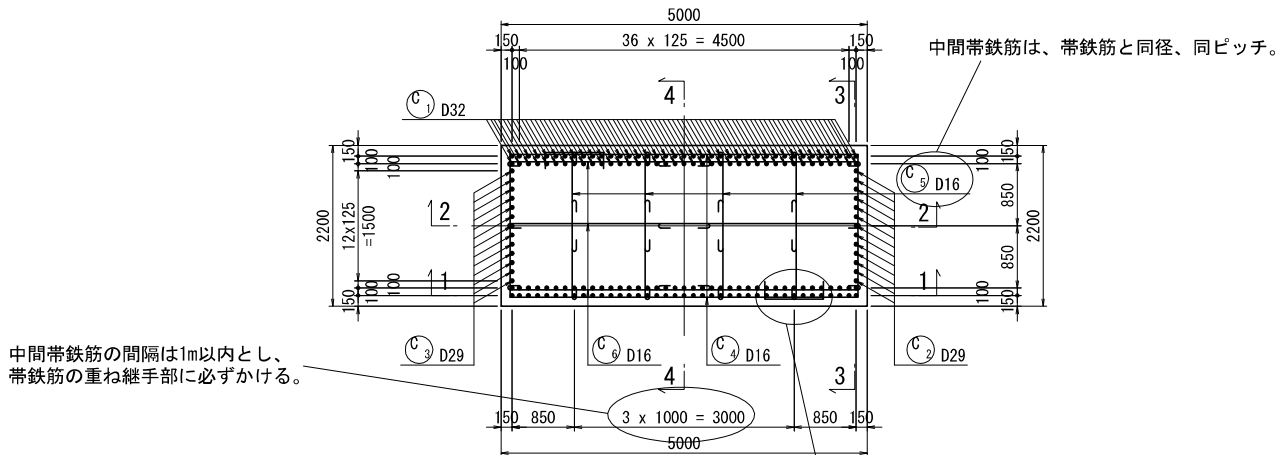
注) A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	配筋要領図 柱工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	27 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		

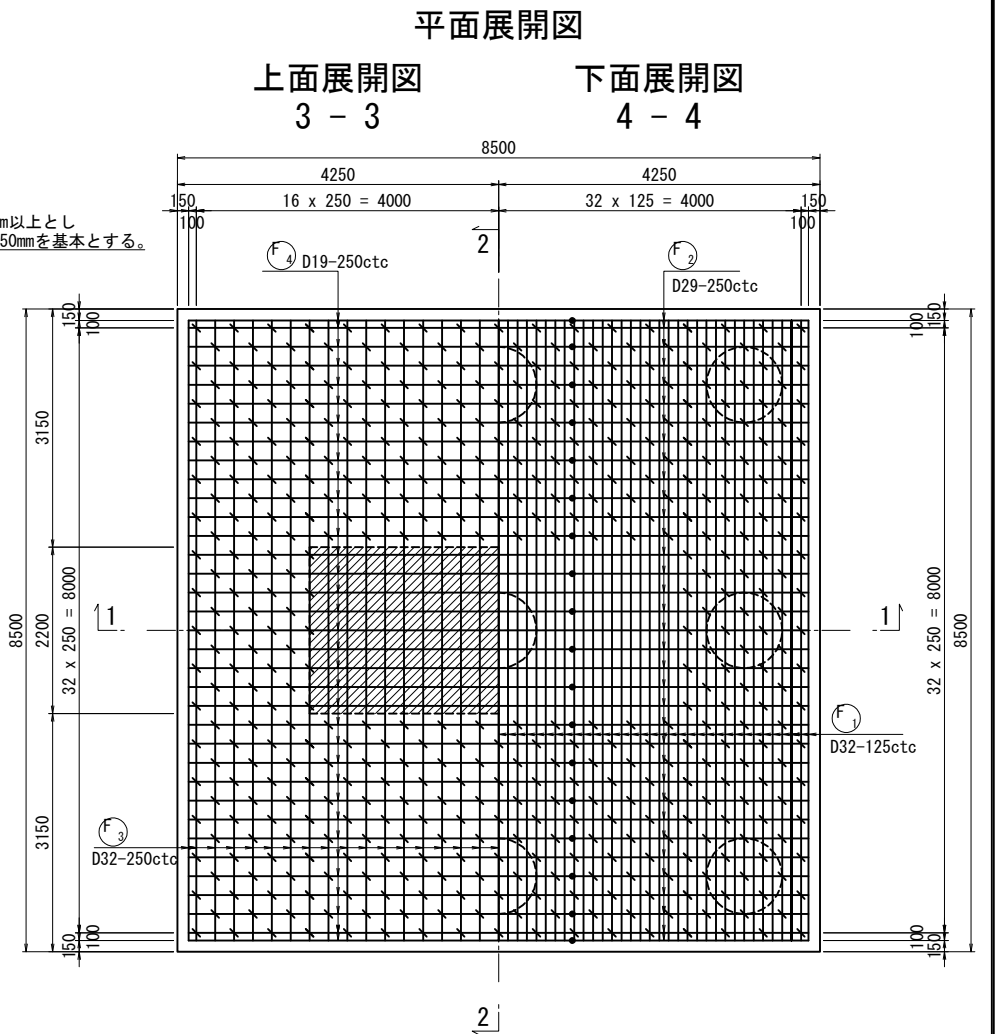
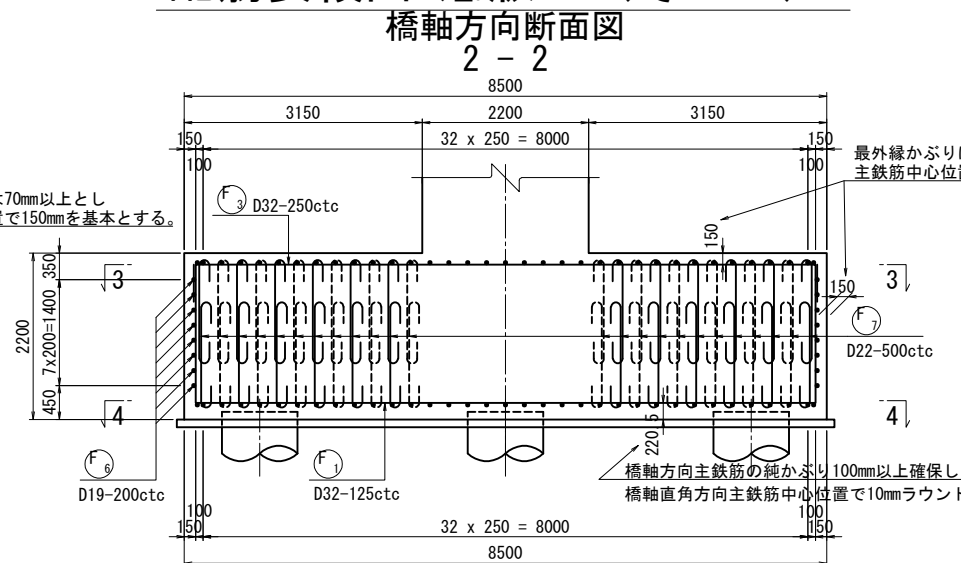
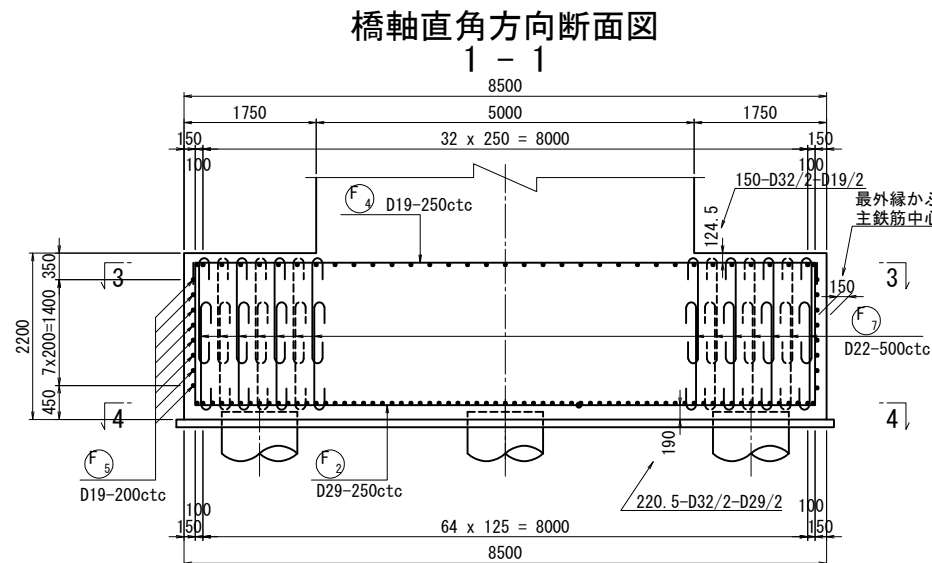
■配筋方法



5 - 5

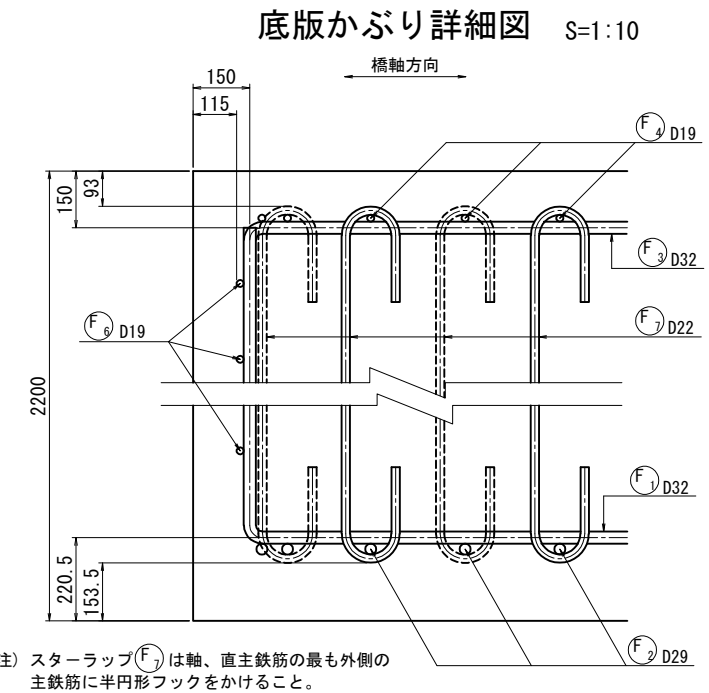


配筋要領図 底版工（その１）



鉄筋配置の考え方

鉄筋番号	留 意 事 項	備 考		
		道示	Q&A 等	参考資料
F1 橋軸方向 下面主筋	- 杭基礎の場合、杭頭から橋軸方向主鉄筋までの純かぶり100mm以上確保し、橋軸直角方向主鉄筋中心位置で10mm単位で丸め、底版上面鉄筋までのばす。 - 直接基礎の場合、最外縁かぶりは70mm以上とし、橋軸方向主鉄筋中心位置で150mmを基本とし、底版上面鉄筋までのばす。 - 鉄筋使用順序は下表－1を基本とする。 杭基礎の場合 杭頭から橋軸方向主鉄筋の純かぶり100mm以上 橋軸直角方向主鉄筋芯で10mm丸め 直接基礎の場合 最外縁かぶりは70mm以上とし、 橋軸方向主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。	IV-P148 IV-P271	土木設計マニュアル P40	
F2 直角方向 下面主筋	- 直角方向鉄筋は上下面とも外側とする。 - 鉄筋間隔はD22mm以下は25cmとし、D25以上は12.5cm及び25cm間隔を基本とする。 - 鉄筋使用順序は下表－1を基本とする。		土木設計マニュアル P40	
F3 橋軸方向 上面主筋	最外縁かぶりは70mm以上とし、橋軸方向主鉄筋中心位置で150mmを基本とする。両端を直角フック長L=15φとる。下面の1/3以上の鉄筋を配置する。また、上面鉄筋、下面鉄筋とも直交する鉄筋の1/3以上それぞれ配置する。	IV-P148		
F4 直角方向 上面主筋				
F5 直角方向 端部補強筋	H8道示では柱とフーチング縁端部との距離が1m以下の場合D19-200ctcとなっているが、底版の張出し長に関らずD19-200ctcを入れる。但し、F1～F4が全てD16の場合は、D16-200ctcとする。	H8 IV-P223		
F6 橋軸方向 端部補強筋				
F7 スターラップ	計算鉄筋でもっとも外側に配置される橋軸直角方向の鉄筋を取り囲む。そのフック形状は両端を半円形とし、1本物を標準とする。フーチング厚さが2mを超える場合は2本組とし、重ね継手部は直線部分で40φとする。D13mm以上で計算上必要な場合、底版の有効高の1/2以下とする。計算上不要な場合は有効高以下の間隔とする。	IV-P74	①N055, P5 ②N0154, 207 ②P2	



表－1 鉄筋使用順序

0.5段から考慮（市場性を考慮しD41は使用しない）

	1 本 当 り	ピ ッ チ	0. 5 段		1. 0 段		1. 5 段		2. 0 段		
			鉄筋量	順序 1	順序 2	鉄筋量	順序 1	順序 2	鉄筋量	順序 1	順序 2
D16	1. 986	125	7. 94	1	1	15. 89	-	-	22. 88	-	-
D19	2. 865	125	11. 46			22. 92			33. 00		
D22	3. 871	125	15. 48			30. 97			44. 59		
D25	5. 067	125	20. 27			40. 54			58. 38		
D29	6. 424	125	25. 70			51. 39			74. 01		
D32	7. 942	125	31. 77	-	-	63. 54	2	-	91. 50	3	4
D35	9. 566	125	38. 26			76. 53			110. 20		
D38	11. 40	125	45. 60			91. 20			131. 33		
D41	13. 40	125	53. 60			107. 20			154. 37		
D51	20. 27	150	67. 57			135. 13			194. 59		

- ※1 鉄筋量は、単位幅（1m）当たりの鉄筋量（cm²）
- ※2 優先1は、D51まで考慮した場合の使用順序（同一枠内順序は上から下へ）
- ※3 優先2は、D32まで考慮した場合の優先順位（同一枠内順序は上から下へ）
- ※4 順序欄の一は、使用しない鉄筋
- ※5 壁厚2mとして、アームを考慮し1.5段、2.0段の内側鉄筋量を低減

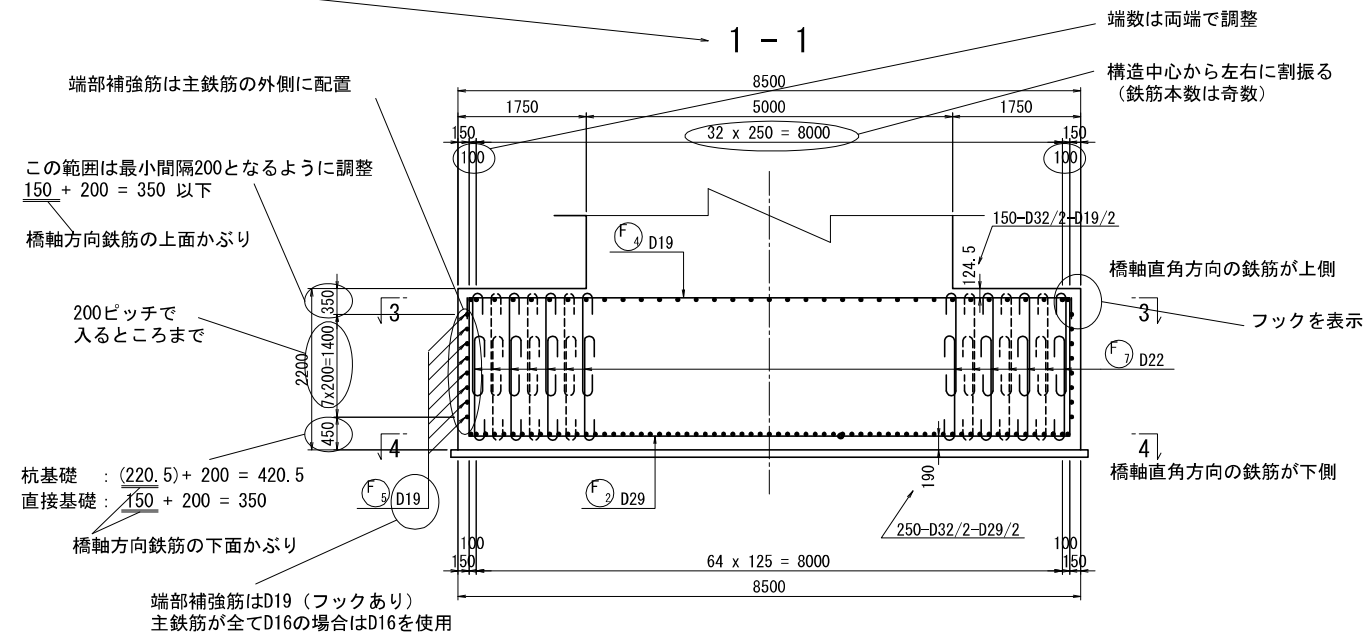
注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工 事 名	工 事		
図 面 名	配筋要領図 底版工（その１）		
縮 尺	1:50	図面番号	28 の 29
年 月 日			
設計会社			
事務所名	静 岡 市		

配筋要領図 底版工（その2）

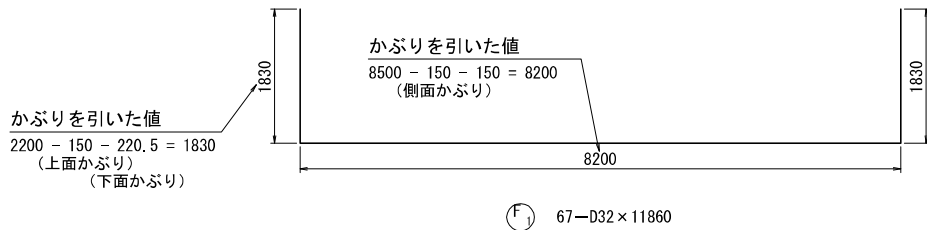
■配筋方法

橋軸直角方向断面図

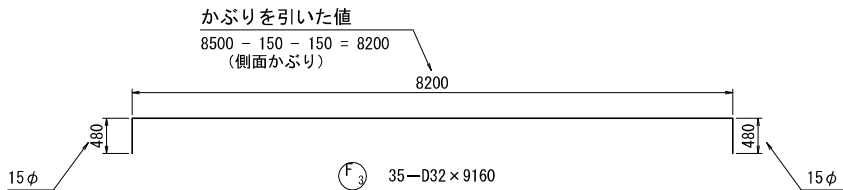


■主鉄筋

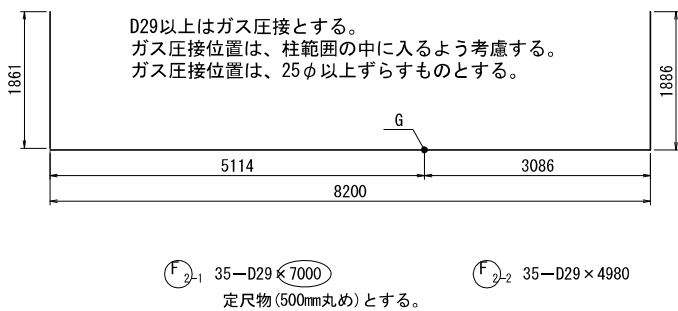
□橋軸方向下面主筋



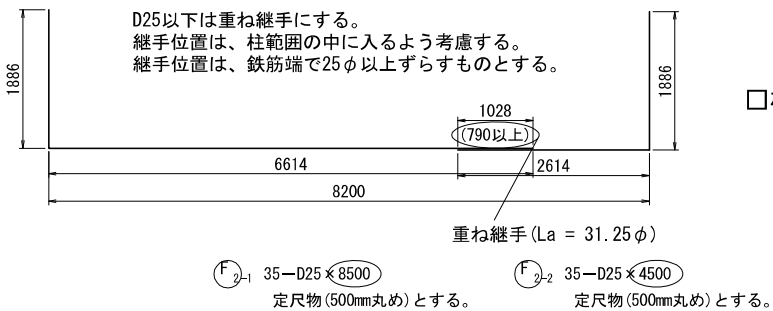
□橋軸方向上面主筋



□ガス圧接の長さの取り方



□重ね継手の長さの取り方

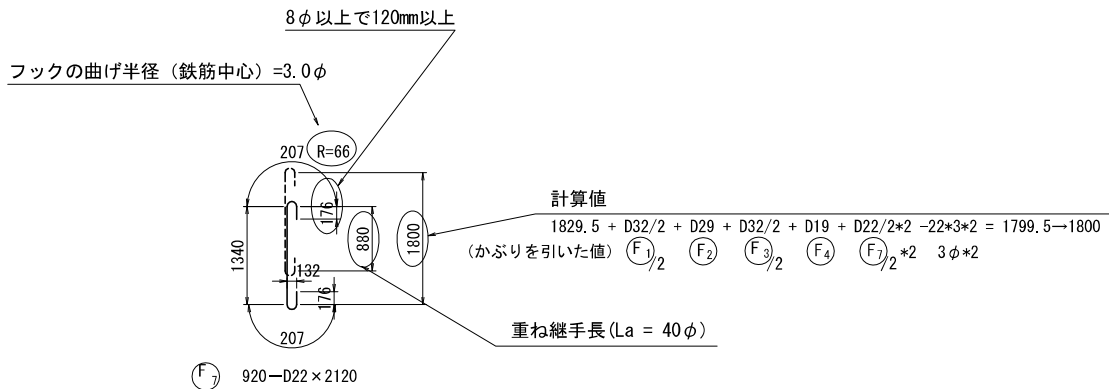


■配筋ルール

- ・直角曲げ部の角度は表示しない。その他の角度は度・分（°'）まで示す。
- ・鉄筋の合計長さ（平均長も含む）は10の位で切り上げる。
- ・鉄筋定尺長（最大長さ）は、12m。それ以上の場合は、重ね継手・ガス圧接にする。
- ・D25以下は重ね継手（ $L_a = 31.25\phi$ ）D29以上はガス圧接とする。重ね継手・ガス圧接は、柱範囲の中に入るよう考慮する。

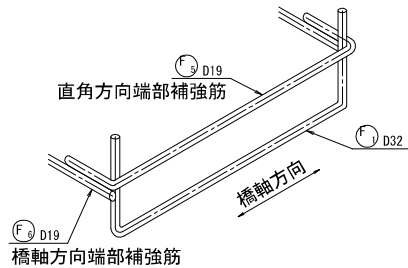
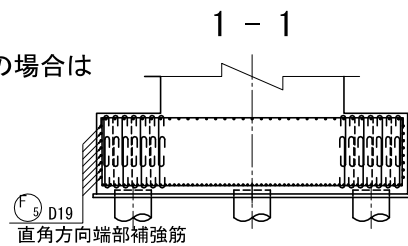
■スターラップ

- ・もっとも外側に配置される橋軸直角方向の鉄筋を取り囲む。
- ・フック形状は両端を半円形とし、1本物を標準とする。
- ・フーチング厚さが2m以上となる場合は2本組とし、重ね継手長を直線部分で40φ以上とする。

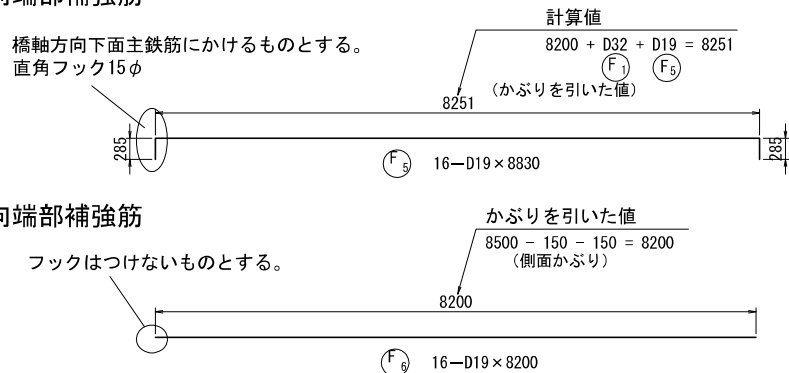


■端部補強筋

- ・配筋はD19-200ctcとする。
- ・ただし、主鉄筋が全てD16の場合はD16-200ctcとする。



□直角方向端部補強筋



□橋軸方向端部補強筋

注）A3縮小版の縮尺は表示の1/2

工事名	工事		
図面名	配筋要領図 底版工（その2）		
縮尺	1:50	図面番号	29 の 29
年月日			
設計会社			
事務所名	静岡市		